

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	いじめと虐待／子ども心理V（いじめと虐待）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	K73710
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どものいじめと虐待に対する臨床心理学的理解						
授業の概要	子どもの命に関わる重要な課題であるいじめと虐待について、臨床心理学的接近法に基づき考え理解を深めます。ワークや発表またはレポートを通じて、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	①子どものいじめと虐待及びその背景について説明できる。【知識・理解】 ②①の理解に基づきいじめと虐待に必要な支援について説明できる。【汎用的技能】 ③授業を通じて得た知識や理解を自己理解や日常生活上の諸課題の理解に応用できる。また、それを言語化し、他者に伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 導入 ～いじめと虐待のイメージ～ 第2回 いじめの心理(1) ～集団としての学校～ 第3回 いじめの心理(2) ～いじめの定義と実態～ 第4回 いじめの心理(3) ～いじめ対応の変遷～ 第5回 いじめの心理(4) ～いじめに関する主要な理論的モデル～ 第6回 いじめの心理(5) ～集団現象としてのいじめの発生メカニズム～ 第7回 いじめの心理(6) ～いじめ問題の解決～ 第8回 虐待の心理(1) ～乳幼児期の関係と発達～ 第9回 虐待の心理(2) ～虐待の定義と実態～ 第10回 虐待の心理(3) ～虐待の発見と対応～ 第11回 虐待の心理(4) ～虐待の影響～ 第12回 虐待の心理(5) ～関係の問題としての虐待～ 第13回 虐待の心理(6) ～虐待の終わり～ 第14回 まとめと試験 第15回 課題発表、試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、ワークまとめ。（2時間） 授業後学習：文献購読、課題。（2時間）						
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）。						
評価基準と評価方法	授業レポート（40%）：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 試験 ※持ち込み可（30%）：到達目標①および②に関する到達度の確認。 課題1（授業ワークのまとめ、レポート、発表のいずれか）（30%）：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 ※課題1のテーマ（レポート、発表）：いじめと虐待に関連する素材、または参考文献の内容について、授業内容と関連づけ説明する。 課題2（素材カード）：到達目標①②および③に関する到達度の確認。 ※課題1は必ず行ってください。						
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。						
教科書	なし。毎回資料を配布します。 ※過去の資料は松蔭manabaコンテンツから取得可能。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	英語科研究						
担当教員	作井 恵子・山内 啓子					科目ナンバ-	K73520
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	英語を担当する教員としてふさわしい英語力とその背景的知識・技能を身につける。						
授業の概要	<p>この授業では、4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）また、語彙や発音、文字、文法について理論に基づいた指導法を理解します。さらに外国語を学習するには、その背景となる文学、異文化理解、日本語と比較した時の気づきなどの知識が必要で、年齢といった学習者要因についても理解を深めることで、児童期の外国語指導にふさわしい英語科のカリキュラムを考えるうえで必要な基礎的知識、授業を行うための基礎実践力を養うことを目的とします。</p> <p>（オムニバス方式・全15回） （作井恵子・8回） 4技能のうち「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」、音声・文字指導・場面に合わせたコミュニケーション、およびそれらを総括する模擬授業</p> <p>（山内啓子・7回）4技能のうち「読むこと」「書くこと」、諸外国の英語教育を含めた英語教育と異文化理解、児童文学、児童期の語学学習、日本語と英語の比較</p>						
到達目標	<p>「知識・理解」英語教育に必要な基本的な知識を身につけることができる 「汎用的技能」小学校において外国語活動・外国語科の授業が担当できるような基本的な英語力を身につけることができる 「態度・志向性」言語活動に、自信をもって積極的に参加できるようになる</p>						
授業計画	<p>授業計画 第1回：児童期の英語教育について（山内） 第2回：教材としての児童文学・絵本（山内） 第3回：児童期の英語教育と異文化理解（山内） 第4回：児童期の語学学習（山内） 第5回：読むことについて（山内） 第6回：書くことについて（山内） 第7回：聞くことについて（作井） 第8回：話すこと（やり取り）について（作井） 第9回：話すこと（発表）について（作井） 第10回：音声教材研究（作井） 第11回：文字教材研究（作井） 第12回：場面・状況に合わせたコミュニケーション（作井） 第13回：ことばの面白さ（日本語と比較して）（山内） 第14回：模擬授業（作井） 第15回：授業総括と定期試験（作井）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり発表に向けて練習したりすること。（平均学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習も行う。 講義に加え、ペアワーク・不ループワークを取り入れ参加型の授業を行い、またデジタル教科書などICTを用いた授業を行う（作井） 基本的にインタラクションを多用する共同学習（グループワーク、発表、ディスカッション）の形態をとる（山内）</p>						
評価基準と評価方法	<p>定期試験 50%：児童期の英語教育に関する基本的な知識が理解されているかを評価する。到達目標1, 2 模擬授業 30%：基本的な知識が実践に活かされているかを評価する。教員評価・相互評価・自己評価をルーブリックを用いて行う。到達目標1, 2, 3 小テストなど 20%：異文化理解、4技能指導、教材研究などに関する事などが理解されているか定期的に評価する。 到達目標1, 2</p>						
履修上の注意	出席重視、授業に積極的に取り組むこと						

教科書	金森 強『小学校英語科教育法 - 理論と実践 -』(2019) SEIBIDO ISBN978-4-7919-7196-1
参考書	

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	英語科指導法						
担当教員	作井 恵子・山内 啓子					科目ナンバ-	K73410
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	英語を担当する教員としてふさわしい英語力とその背景的知識・技能をみにつける。						
授業の概要	<p>この授業では、4技能（「聞く」「読む」「話す」「書く」）また、語彙や発音、文字、文法について理論に基づいた指導法を理解します。さらに外国語を学習するには、その背景となる文学、異文化理解、日本語と比較した時の気づきなどの知識が必要で、年齢といった学習者要因についても理解を深めることで、児童期の外国語指導にふさわしい英語科のカリキュラムを考えるうえで必要な基礎的知識、授業を行うための基礎実践力を養うことを目的とします。</p> <p>（オムニバス方式・全15回） （作井恵子・8回） 前期に引き続き、4技能のうち「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」の指導法、小学校での英語教育教材、ICT活用などについての知識を身につけ、それらを総括するために模擬授業を行う （山内啓子・7回） 前期に引き続き4技能のうち「読むこと」「書くこと」、外国語学習と関連分野、異文化理解、教材作成や指導法、さらに日本語と英語の表現比較を行う。内容はスパイラル式に深める</p>						
到達目標	<p>「知識・理解」英語教育に必要な基本的な知識を身につけることができる 「汎用的技能」小学校において外国語活動・外国語科の授業が担当できるような基本的な英語力を身につけることができる 「態度・志向性」言語活動に、自信をもって積極的に参加できるようになる</p>						
授業計画	<p>授業計画 第1回：児童期の英語教育の関連分野一第二言語習得の面から（山内） 第2回：教材としての児童文学・絵本の適正と指導法（山内） 第3回：異文化理解教育と異文化間コミュニケーション（山内） 第4回：教材作成と活用法（山内） 第5回：読むことの指導法（山内） 第6回：書くことの指導法（山内） 第7回：聞くことの指導法（作井） 第8回：話すこと（やり取り）の指導法（作井） 第9回：話すこと（発表）の指導法（作井） 第10回：小学校での英語教材（中学年）（作井） 第11回：小学校での英語教材（高学年）（作井） 第12回：ICTと英語教育（作井） 第13回：ことばの面白さ一表現に焦点を当てて（山内） 第14回：模擬授業（作井） 第15回：授業総括と定期試験（作井）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。（平均学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指定された課題について指示されたように作成したり発表に向けて練習したりすること。（平均学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習も行う。 講義に加え、ペアワーク・不ループワークを取り入れ参加型の授業を行い、またデジタル教科書などICTを用いた授業を行う（作井） 基本的にインタラクションを多用する共同学習（グループワーク、発表、ディスカッション）の形態をとる（山内）</p>						
評価基準と評価方法	<p>定期試験 50%：児童期の英語教育に関するやや発展的な知識が理解されているかを評価する。到達目標1, 2 模擬授業 30%：やや発展的な知識が実践に活かされているかを評価する。教員評価・相互評価・自己評価をルーブリックを用いて行う。到達目標1, 2, 3 小テストなど 20%：言語習得や指導法、英語教育に関することなどが理解されているか定期的に評価する。到達目標1, 2</p>						
履修上の注意	出席重視、授業に積極的に取り組むこと						
教科書	金森 強『小学校英語科教育法 - 理論と実践 -』（2019）SEIBIDO ISBN978-4-7919-7196-1						

参考書	
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科指導法						
担当教員	榎下 達也					科目ナンバ-	K73380
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校音楽科の授業づくり（教材研究・学習指導案作成）に必要な知識・技能を身につけ、模擬授業として実践する。						
授業の概要	音楽教育の意義を理解するために、わが国の初等音楽教育の歴史について学び、そのうえで現在の学習指導要領における音楽科の目標と内容を学ぶ。音楽科における教材研究の視点や評価の方法について学んだうえで、表現・鑑賞の教材研究、および情報機器を効果的に活用する事例の検討を行う。歌唱共通教材および教科書掲載楽曲の、教材としての価値を理解し、これを生かした指導案を作成し、模擬授業で実践する。以上の取り組みを通して「音楽科」を担当するために必要な具体的・実践的な知識と技能を身につける。						
到達目標	初等音楽教育の意義について歴史的視点から理解したうえで、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な音楽科教育の方法を理解する【知識・理解】。小学校学習指導要領に示された音楽科の教育目標と指導内容を理解し、これを実現していくための指導技術を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】情報機器を活用した音楽科授業の可能性を探求するとともに、適切な教材・教具の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけ、具体的な授業場面を想定した授業を構想することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス：公教育における音楽教育の意義 第2回 音楽科授業の構築に必要な力とは：模擬授業を体験しよう 第3回 音楽教育の歴史：「音楽を」教えるのか「音楽で」教えるのか 第4回 小学校学習指導要領における音楽科の目標と内容 第5回 音楽科における教材研究：教材・教具・教育内容 第6回 音楽科の評価と指導計画 第7回 鑑賞教材の研究：情報機器を活用した音楽鑑賞の可能性 第8回 歌唱教材の研究（1）：子どもの歌声の発達と発声指導の実際 第9回 歌唱教材の研究（2）：歌唱共通教材の意義と指導の実際 第10回 器楽教材の研究：リコーダーの導入と指導の実際 第11回 音楽づくりの指導：情報機器を活用した音楽づくりの実際 第12回 音楽科学習指導案の作成と検討 第13回 模擬授業と検討会（1） 第14回 模擬授業と検討会（2） 第15回 まとめ：講義の振り返りとレポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本授業では模擬授業のための教材研究および学習指導案の作成を各自が授業外に作成する必要がある。授業内で示された理論を復習しながら模擬授業で扱う教材について文献等を用いて調べる。また同様に授業での学習を事前に指導案を作成し、それを授業内で発表、ブラッシュアップしていく。したがって、これらの授業時間外における学習は授業の復習と予習を兼ねており、最低でも週あたり4時間程度を要する。						
授業方法	本授業では講義形式のみならず下記のようなアクティブ・ラーニングを行う。 ・模擬授業に向けた教材研究および学習指導案の作成は基本的にグループで取り組み、その進捗を発表し、議論しながら授業を進める。 ・音楽科指導に必要な音楽的技能の習得をめざして歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動を実際に行い、それらの活動を振り返る議論をしながら学習を深める。						
評価基準と評価方法	授業中の小テスト（30%）、レポート（指導案作成を含む、40%）模擬授業（30%）						
履修上の注意	模擬授業の準備など責任感をもって学習に取り組むこと。						
教科書	笹野恵理子編著『初等音楽科教育（はじめて学ぶ教科教育7）』ミネルヴァ書房、2018年。 文部科学省『小学校学習指導要領』2017年。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽実技Ⅰ/音楽実技Ⅱ						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K72190
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	「音楽表現」で学んだピアノ奏法の技能、実践力をさらに向上させ、弾き歌い曲についても学ぶ。						
授業の概要	1クラスを2つのグループに分けて行う。 毎時のピアノの個人レッスンでは、各自のグレードごとに課題曲を学習し、「弾き歌い」にも取り組む。 集団の授業では、「簡単な伴奏付け」ができるように、コードネームについての理解を深める。						
到達目標	活動場面に相応しい楽曲を用いて、身体の動きを伴った音楽表現の援助が行える。【汎用的技能】 子どもの歌唱教材から12曲を弾き歌いすることができる。【汎用的技能】 伴奏譜に記載されている基礎的なコードネームについて説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明、課題曲の紹介、クラス分け 第2回 グレード別ピアノ課題曲と弾き歌い課題曲の解説、及び個人レッスン1 第3回 コードネーム1（3声の基本コード）、及び個人レッスン2 第4回 コードネーム2（4声の基本コード）及び個人レッスン3 第5回 弾き歌い1（歌唱教材の選択）、及び個人レッスン4 第6回 弾き歌い2（音階の中にできる3声のコード）、及び個人レッスン5 第7回 弾き歌い3（音階の中にできる4声のコード）、及び個人レッスン6 第8回 弾き歌い4（子どもの音楽活動を指導するために）、及び個人レッスン7 第9回 中間試験と楽典の確認 第10回 簡単な伴奏付け1（主要三和音と副三和音）、及び個人レッスン8 第11回 簡単な伴奏付け2（楽譜の簡略化）、及び個人レッスン9 第12回 アンサンブル1（子どものリズム楽器の特徴）、及び個人レッスン10 第13回 アンサンブル2（リズム楽器の奏法）、及び個人レッスン11 第14回 即興的な伴奏、及び個人レッスン12 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ピアノ学習において、日々の継続的な練習は必須である。 （学習時間：4時間）						
授業方法	演習 個別の実技指導とともに、簡単な伴奏づけができるためのコードネームの学習やリズム楽器でのアンサンブルも体験する。 日頃の練習の成果を発表する機会を設ける。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価する（50%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（50%） 出席回数が2/3未満である場合、また試験を受けなかった場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	授業で指摘された問題点を、次回までに解決するために、各自の積極的な取り組みと十分な練習が必須である。 「弾き歌い」については、必修の課題曲以外も、レパートリーを積極的に増やすこと。 「音楽表現」を履修していること。						
教科書	ピアノのグレード毎の課題曲、弾き歌いの課題曲は、授業開講日に発表する。 『最新・幼児の音楽教育』井口 太 編著 朝日出版社 ISBN978-4-255-15627-9						
参考書	「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN978-4-87788-377-5 「バーナム 全調の練習」全音楽譜出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽表現						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K01150
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	感じたことを音や動きで表現し、音楽との一体感を味わうことができる。想像力を働かせて音楽と関わる。						
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児の発達に着目して概観する。さらに歌を歌ったり、リズム楽器を使う音楽表現を体験する。具体的には第一に学生が楽典と歌うこと、弾き歌いについて学び、簡単なアンサンブルを通して音楽表現のよさを体験する。第二に生活の中でのさまざまな音や音楽に気づき、感じたこと考えたことなどを音や動きで表現し音楽との一体感を味わう。第三に想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、体を動かす活動を取り入れ、身体から音楽を理解することの重要性に気づかせる。						
到達目標	歌唱や楽器演奏ができるために不可欠な楽典の基礎について理解し、説明することができる。【知識・理解】簡単な教材曲について指定された調に移調して弾くことができる。【汎用的技能】指定する子どもの歌唱教材について弾き歌いができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：幼稚園教育要領領域「表現」子どもの発達と表現の姿 第2回：子どもの声と環境 及び楽典1（音名、音階） 第3回：保育者の声 及び楽典2（拍子、音価） 第4回：楽語の解説とグループ毎の歌うアンサンブルの実習 第5回：歌唱教材1（他の領域との関わり）及びピアノの基礎技能についての実習1 姿勢・身体の柔軟性・脱力 第6回：身の周りの音探しとリズム遊び 第7回：歌唱教材2（年齢に応じた教材）及びピアノの基礎技能についての実習2 フレージング・レガート・スタッカート 第8回：子どもと楽器の関わり（映像資料による子どもの実際の姿）及びリズムアンサンブル実習 第9回：アンサンブルの発表と振り返り、楽典のまとめ 第10回：身近なものの身体による表現とその伴奏 および弾き歌い実習1 第11回：コードネームの理解と伴奏の簡略化 第12回：コードネームの伴奏への応用、即興演奏について 第13回：声によるアンサンブル 及び弾き歌い実習2 第14回：声と楽器によるアンサンブル 及び弾き歌い実習3 第15回：演奏発表と振り返り 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習すること。歌うこと、楽器を演奏することなど、子どもの音楽活動を支援するために必要な歌うことやピアノ演奏について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み（小テスト、グループ発表、実習課題を含む）を平常点として評価する（60%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（40%）						
履修上の注意	全身で音楽を感じて表現できるよう、また想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、体を動かす活動も多く取り入れている。授業への積極的な参加と日々の課題への取り組みが重要である。						
教科書	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之、鈴木恵津子編著 教育芸術社 ISBN-13:978-4877888220 「おんがくのしくみ」 教育芸術社 ISBN-978-4-87888-377-5（1年次に購入済）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽表現						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K01150
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	感じたことを音や動きで表現し、音楽との一体感を味わうことができる。想像力を働かせて音楽と関わる。						
授業の概要	子どもと音楽の関わりを幼児の発達に着目して概観する。さらに歌を歌ったり、リズム楽器を使う音楽表現を体験する。具体的には第一に学生が楽典と歌うこと、弾き歌いについて学び、簡単なアンサンブルを通して音楽表現のよさを体験する。第二に生活の中でのさまざまな音や音楽に気づき、感じたこと考えたことなどを音や動きで表現し音楽との一体感を味わう。第三に想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、体を動かす活動を取り入れ、身体から音楽を理解することの重要性に気づかせる。						
到達目標	歌唱や楽器演奏ができるために不可欠な楽典の基礎について理解し、説明することができる。【知識・理解】簡単な教材曲について指定された調に移調して弾くことができる。【汎用的技能】指定する子どもの歌唱教材について弾き歌いができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：幼稚園教育要領領域「表現」子どもの発達と表現の姿 第2回：子どもの声と環境 及び楽典1（音名、音階） 第3回：保育者の声 及び楽典2（拍子、音価） 第4回：楽語の解説とグループ毎の歌うアンサンブルの実習 第5回：歌唱教材1（他の領域との関わり）及びピアノの基礎技能についての実習1 姿勢・身体の柔軟性・脱力 第6回：身の周りの音探しとリズム遊び 第7回：歌唱教材2（年齢に応じた教材）及びピアノの基礎技能についての実習2 フレージング・レガート・スタッカート 第8回：子どもと楽器の関わり（映像資料による子どもの実際の姿）及びリズムアンサンブル実習 第9回：アンサンブルの発表と振り返り、楽典のまとめ 第10回：身近なものの身体による表現とその伴奏 および弾き歌い実習1 第11回：コードネームの理解と伴奏の簡略化 第12回：コードネームの伴奏への応用、即興演奏について 第13回：声によるアンサンブル 及び弾き歌い実習2 第14回：声と楽器によるアンサンブル 及び弾き歌い実習3 第15回：演奏発表と振り返り 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習すること。歌うこと、楽器を演奏することなど、子どもの音楽活動を支援するために必要な歌うことやピアノ演奏について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業への取り組み（小テスト、グループ発表、実習課題を含む）を平常点として評価する（60%） 中間・期末試験（楽典の確認テストを含む）についても併せて評価する（40%）						
履修上の注意	全身で音楽を感じて表現できるよう、また想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、体を動かす活動も多く取り入れている。授業への積極的な参加と日々の課題への取り組みが重要である。						
教科書	「改訂 幼児のための音楽教育」神原雅之、鈴木恵津子編著 教育芸術社 ISBN-13:978-4877888220 「おんがくのしくみ」教育芸術社 ISBN-978-4-87888-377-5（1年次に購入済）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	村岡 弘朗					科目ナンバ-	K73610
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護等体験実習を有意義なものにするための意識の変容と資質の向上を図る。						
授業の概要	この授業では介護等体験の意義、つまり個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることをねらいとしている。そこで、社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者の介護や援助、そして参加と連帯の精神などを活かして、実際の介護等体験を充実させる必要がある。そのために、障害児や施設利用者への配慮、コミュニケーションの取り方、職員との接し方、施設での取り組みなどを探究していく。こうした学びと、介護等体験として経験し、その経験を振り返ることで、学校教育にいかに応用するのかについて学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護等体験実習に向けて、それぞれの学校や施設及び利用者の現状や実態を把握し、有意義な介護等体験実習をすることができる。【汎用的技能】</li> <li>・介護等体験実習に向けて、実習上の心構えや態度などを養い、介護等体験実習を通して学んだことをまとめ、分かりやすく発表できる。【態度・志向性】</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等についてノート整理（2時間）</p> <p>第2回 特別支援学校の概要と実態についてノート整理（2時間）</p> <p>第3回 特別支援学校での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）</p> <p>第4回 社会福祉施設での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間）</p> <p>第5回 社会福祉施設の現状及び問題・課題について考えをノートにまとめる（2時間）</p> <p>第6回～第12回 特別支援学校及び社会福祉施設への訪問・介護等体験の記録と感想をまとめる（2時間×7回）</p> <p>第13回 特別支援学校での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）</p> <p>第14回 社会福祉施設での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間）</p> <p>第15回 体験修了者の体験発表を聞き、感想をまとめる（2時間）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：参考書の当該箇所に通し、課題意識をもって授業に臨む。（2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（2時間）</p>						
授業方法	<p>講義：重要な点について講義し、テーマについてグループで討議し、全体に発表する。また、本時に学んだことを振り返り、まとめをする。</p> <p>発表：体験後、自分の体験を振り返り、学んだことを発表する。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点 40%（発表、ワークシート）</li> <li>・体験レポート 40%</li> <li>・体験先の評価の参考 20%</li> </ul>						
履修上の注意	特別支援学校、社会福祉施設での体験が充実するためにも、事前指導をしっかりと受ける。授業回数の3分の1以上欠席した人は、原則単位認定しない。						
教科書	なし						
参考書	「教師を目指す人の介護等体験ハンドブック」（現代教師養成研究会編）大修館書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	K73510
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。						
授業の概要	まず、家庭科が教科として成立し、現在に至るまでの経緯を概観する。次に、現状の家庭生活における諸問題や、賢い消費者として身につけるべき基本的な知識と技能を確認する。その中で、家庭科が、小学校高学年の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことを目指すのかを考える。また、家庭科の各領域で用いられる教材を、実際に手で触れて、体験する学習活動を行うことで、よりよい教材研究のあり方を検討する。これらの活動を通じ、児童が「たのしみ・わかり・できる」指導を行うための基礎的知識を身につける。最終的には1時間分の学習指導案を作成する。						
到達目標	(1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主要内容並びに全体構造を理解している。【知識・理解】 (2) ICT機器を活用した教材・題材開発ができる。【汎用的技能】 (3) 家庭科の学習評価の考え方を理解している。【知識・理解】 (4) 学びの成果を積極的に自らの生活改善に活用しようとしている。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：家庭科を振り返る 第2回 家庭科の背景学問と教科変遷 第3回 世界の家庭科と様々な教材 第4回 学習指導要領の構成と教科目標 第5回 学習指導要領と学習指導案 第6回 本時の目標と観点別評価 第7回 中間試験と解説・質疑応答 第8回 生活自立と家庭科の学習内容 第9回 いのち・家族・保育と家庭科の学習内容 第10回 衣食住と家庭科の学習内容 第11回 消費生活・環境と家庭科の学習内容 第12回 アナログ教材と家庭科の学習内容 第13回 ICT教材と家庭科の学習内容 第14回 対話的・主体的で深い学びの実践例と評価 第15回 終講課題と解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること(2時間)。 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと(2時間)。						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	・平常点（授業時の小レポート、受講姿勢など）40% →到達目標(2)および(4)に対応 ・中間試験30% →到達目標(1)および(3)に対応 ・学習指導案の作成20% →到達目標(2)に対応 履修カルテの評価は「意欲」「関心」「適性」の3観点とする。						
履修上の注意	・出席および授業への参加態度、姿勢を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（家庭編）』（2018年）						
参考書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社 2015年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	K73400
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科研究で学んだ知識を生かし、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い授業実践力を養う。						
授業の概要	小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況に配慮した上で、児童の興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することが重要である。そのため、授業で用いる教材やテーマは、児童にとって具体的かつ、一般化しやすいものであるかどうか検討できるようにする。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力、およびICTを活用した効果的な学習への理解を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。また、調理実習や被服実習に加え、主権者及び消費者教育の充実の観点から、スマートフォンを利用した契約の仕組みをテーマにした模擬授業の立案と実践などを取り入れる。						
到達目標	(1) 子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。【知識・理解】 (2) 家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。【知識・理解、汎用的技能】 (3) 学習指導案に基づいた模擬授業実践ができる。【汎用的技能】 (4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回 家庭科研究の振り返りと自己の課題 第2回 児童の生活実態と家庭科の指導 第3回 児童期の発達課題と家庭科の指導 第4回 年間指導計画と家庭科の指導 第5回 PDCAサイクルと家庭科の指導 第6回 ICT機器を活用した題材開発 第7回 対話的・主体的で深い学びと題材開発 第8回 学習指導案の作成と評価計画の作成 第9回 調理実習の指導計画の作成 第10回 調理実習(炊飯、みそ汁) 第11回 被服実習の指導計画の作成 第12回 被服実習(手縫いの小物づくり) 第13回 模擬授業実践と評価(家族、消費生活・環境領域) 第14回 模擬授業実践と評価(衣食住領域) 第15回 初等家庭科指導法の総括と終講課題(解説・質疑応答まで)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	各授業について、理解が不足している点を復習すること(2時間)。 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと(2時間)。						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	・平常点(授業時の小レポートなど)50% →到達目標(1)~(4)に対応 ・学習指導案の作成30% →到達目標(3)に対応 ・模擬授業実践20% →到達目標(3)および(4)に対応 履修カルテの評価は「意欲」「関心」「適性」の3観点とする。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加態度、姿勢を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説(家庭編)』(2018年)						
参考書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社 2015年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭支援論／子ども心理II（子育て支援）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K72170
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもと家庭をとりまく環境と子育て支援の基本及びその実際を学ぶ						
授業の概要	子どもとその家庭をとりまく環境、親子関係、子どもの発達への理解を深め、それらにかかわる法制度や関係諸機関の役割、支援体制を整理し、そのうえで家庭や地域における子育て支援の視点とその実際について学ぶ						
到達目標	子どもの発達、親子関係、家庭をとりまく環境に対する関心をより具体的に意識することができる【態度・指向性】 子どもと家庭をとりまく環境と子育て支援について、他者にわかりやすく説明することができる【知識・理解】 子育て支援の実際について、具体的に述べる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 家庭支援の対象と役割 第2回 子どもと家庭① 第3回 子どもと家庭② 第4回 保育者における家庭支援 第5回 家庭支援の方法としての保育相談支援 第6回 特別なニーズを有する家庭への支援 第7回 家庭への個別的な支援 第8回 在宅子育て家庭への支援 第9回 社会的養護を要する家庭への支援 第10回 家庭支援に関わる法・制度 第11回 子どもと家庭を支える機関や人 第12回 子どもと家庭を支援する事業 第13回 家庭支援や地域子育て支援の実際① 第14回 家庭支援や地域子育て支援の実際② 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の授業テーマについて、授業中に紹介する参考文献やウェブサイトを用いて下調べをすること 授業後学習：授業で取り上げた内容について、要点を整理・確認する。						
授業方法	講義及びグループワーク						
評価基準と評価方法	平常点20点、小テスト（レポート）30点、テスト50点						
履修上の注意	授業回数の1/3以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失うものとする						
教科書	プリントを配布する						
参考書	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房 2018.2.25（ISBN 978-4-623-07342-9）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ-	K02110
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方						
授業の概要	<p>教育課程・カリキュラムに関する基礎的事項と考え方の習得を目指すために、次の3つを主たる目的として授業内容を構成する。</p> <p>第1に、各学校段階（幼稚園・保育所なども含む）の教育課程・カリキュラムに関する基本的知識と特色を習得する。【知識・理解】</p> <p>第2に、授業実践や学力問題といったさまざまな視点からアプローチすることで、教育課程・カリキュラムと授業及び評価との関わりについて理解を深める。【知識・理解】</p> <p>第3に、教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につけることで、今日注目を浴びているカリキュラム開発の考え方の背景について理解を深め、これらかの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察する。【汎用的技能】</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程・カリキュラムに関する基本的知識を習得する</li> <li>・教育課程・カリキュラムと授業・評価との関わりについて理解を深める</li> <li>・教育課程・カリキュラム改革の歴史に関する知識を身につける</li> <li>・今日注目を浴びているカリキュラム開発とカリキュラム評価の考え方の背景について理解を深める</li> <li>・これからの時代に求められる教育課程・カリキュラムのあり方について考察を深める</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明および、理想の時間割とは？</p> <p>第2回 「教育課程」と「カリキュラム」</p> <p>第3回 幼稚園・保育所のカリキュラム：遊びと発達</p> <p>第4回 小学校のカリキュラム</p> <p>第5回 中学校・高校のカリキュラム</p> <p>第6回 カリキュラムと授業づくり①：教科中心</p> <p>第7回 カリキュラムと授業づくり②：活動（体験）中心</p> <p>第8回 カリキュラムと評価①：学力問題を中心に</p> <p>第9回 教育課程の歴史①：戦後民主主義と経験主義カリキュラム</p> <p>第10回 教育課程の歴史②：戦後の経済的発展と系統主義・現代化カリキュラム</p> <p>第11回 教育課程の歴史③：「荒れ」の時代と「ゆとり」</p> <p>第12回 教育課程の歴史④：コンテンツベースからコンピテンシーベースへの転換</p> <p>第13回 カリキュラムと評価②：パフォーマンス評価を中心に</p> <p>第14回 アクティブラーニングと取り入れたカリキュラム開発とカリキュラムマネジメント</p> <p>第15回 まとめと今後の課題・筆記試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（2時間）。</p> <p>授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（2時間）。</p>						
授業方法	<p>講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。</p>						
評価基準と評価方法	<p>試験60%、授業毎の課題40%</p> <p>履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。</p>						
履修上の注意	<p>1. これまで受けてきた教育経験（受けてきた授業などを中心に）を自分なりに振り返りながら受講すると、授業内容がより身近なものになって理解しやすいと思われる。</p> <p>2. 5回以上欠席すると単位を認定しない。必修授業なので、単位を落とすと翌年度に再履修しなければならない。</p> <p>3. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。</p>						
教科書	<p>田中耕治編著『よくわかる教育課程 第2版』ミネルヴァ書房、2018年。 ISBN-10: 4623082695 ISBN-13: 978-4623082698</p>						
参考書	<p>小学校学習指導要領、幼稚園教育要領</p>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	K01030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。						
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史の変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。						
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学生が学び【汎用的技能】、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する【知識・理解】。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想 第2回：学校教育の理念(1)：人間の発達と教育段階の関連 第3回：学校教育の理念(2)：小学校就学と高校進学 第4回：学校教育の理念(3)：目的・内容・方法の多様性 第5回：学校化の歴史(1)：帰属原理から業績原理への移行 第6回：学校化の歴史(2)：教育にみるジェンダーの変遷 第7回：学校化の歴史(3)：三育主義から生涯学習の要請へ 第8回：臨床教育学の思想(1)：カウンセリングマインド 第9回：臨床教育学の思想(2)：子ども・学校・家庭の関係 第10回：教育評価にみる理念(1)：相対評価と絶対評価 第11回：教育評価にみる理念(2)：診断・形成・総括 第12回：教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ 第13回：教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史 第14回：成果の活用(1)：教育の理念・歴史・思想の発表 第15回：成果の活用(2)：授業のまとめと授業評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が自分の物語をテキストとして考察する（学習時間計20時間）。 2. 時事問題に隠れた教育原理上の課題を発見する（学習時間計20時間）。 3. 期末レポートの作成と発表に楽しんで取り組む（学習時間計20時間）。						
授業方法	1. 前半では配付資料と教科書について主に教員が解説する。 2. 中盤では視聴覚教材を使ってグループワークを実施する。 3. 後半ではレポート作成とプレゼンテーションを実施する。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポート発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せずに積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。						
教科書	必要に応じて配付と指示を行う。						
参考書	中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、ISBN4-00-000416-6						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K73630
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とかかわり、実習園の教員の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。 実習期間中は教育内容等を記録し、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、幼稚園教諭としての仕事内容や役割、保育の楽しさを知ることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 これまで学んできた教科の知識や技能を自分の立てた計画に沿ってに実践の場で使ってみることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習園訪問 (実習園へのあいさつ、実習園でのオリエンテーション、担当クラス・教材等の確認)</li> <li>・教育実習 (見学、観察、参加実習、実習記録の記入等)</li> <li>・責任実習 (部分実習、研究実習、半日実習、全日実習等)</li> <li>・責任実習の反省会 (自己評価、実習園長・指導教員からの指導助言等)</li> <li>・事後指導 (自己評価、実習記録の整理と提出)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 目標に迫るための模擬保育や教材研究などを行う。 必要なピアノや歌の練習などを一回30分程度、週3回は行う。</p> <p>授業後学習: 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。</p>						
授業方法	実習園における教育実習						
評価基準と評価方法	<p>実習園における勤務状況、実習の成績評価等 50%</p> <p>教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。</p>						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習園の指導教員の指示に従い、社会人としての責任・熱意・誠意をもち、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書	<p>「実習の手引き」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科</p> <p>教育実習指導で配布したプリント</p>						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K73630
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び【汎用的技能】、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ【態度・志向性】。						
授業計画	<p>授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習校園訪問 (実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認)</li> <li>・教育実習 (見学、観察、参加実習、実習記録の記入等)</li> <li>・研究授業 (研究保育・代表授業等)</li> <li>・研究事業の反省会 (研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言)</li> <li>・事後指導 (自己評価、実習記録の整理と提出)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	目標に迫るための模擬授業(保育)をする。課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	<p>実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50%</p> <p>教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する</p>						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校園の指導教員の指示に従い、責任・熱意・誠意を持って、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K74640
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とかかわり、実習園の教員の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実際を体験する。 実習期間中は教育内容等を記録し、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、幼稚園教諭としての仕事内容や役割、保育の楽しさを知ることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 これまで学んできた教科の知識や技能を自分の立てた計画に沿ってに実践の場で使ってみることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習園訪問 (実習園へのあいさつ、実習園でのオリエンテーション、担当クラス・教材等の確認)</li> <li>・教育実習 (見学、観察、参加実習、実習記録の記入等)</li> <li>・責任実習 (部分実習、研究実習、半日実習、全日実習等)</li> <li>・責任実習の反省会 (自己評価、実習園長・指導教員からの指導助言等)</li> <li>・事後指導 (自己評価、実習記録の整理と提出)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 目標に迫るための模擬保育や教材研究などを行う。 必要なピアノや歌の練習などを一回30分程度、週3回は行う。</p> <p>授業後学習: 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。</p>						
授業方法	実習園における教育実習						
評価基準と評価方法	<p>実習園における勤務状況、実習の成績評価等 50%</p> <p>教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。</p>						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習園の指導教員の指示に従い、社会人としての責任・熱意・誠意をもち、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書	<p>「実習の手引き」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科</p> <p>教育実習指導で配布したプリント</p>						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K74640
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び【汎用的技能】、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ【態度・志向性】。						
授業計画	<p>授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習校園訪問 (実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認)</li> <li>・教育実習 (見学、観察、参加実習、実習記録の記入等)</li> <li>・研究授業 (研究保育・代表授業等)</li> <li>・研究事業の反省会 (研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言)</li> <li>・事後指導 (自己評価、実習記録の整理と提出)</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	目標に迫るための模擬授業(保育)をする。課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	<p>実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50%</p> <p>教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する</p>						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校園の指導教員の指示に従い、責任・熱意・誠意を持って、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	教育実習指導																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K73620																																													
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	1.0																																													
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通じた幼児理解を的確に行える教育実習を目指す																																																			
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を認識するとともに、教育者としての自覚と責任感をもち、教育実習に対する意欲と心構えをもって実習に必要な保育技術や指導計画作成の方法を習得する。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。																																																			
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。【汎用的技能】 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。【態度・志向性】 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。【態度・志向性】																																																			
授業計画	<p>(事前指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>教育実習の意義と心得</td> <td>:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>教育実習の心構え</td> <td>:教材研究と準備 保育指導案の書き方</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育指導(1)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>保育指導(2)</td> <td>:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>保育指導(3)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育指導(4)</td> <td>:模擬保育とディスカッション エピソード記録について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育指導(5)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 礼状の書き方</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育指導(6)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>保育指導(7)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備</td> </tr> </table> <p>(事後指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第11回</td> <td>実習の振り返り(1)</td> <td>:チェックリストに基づいての自己評価</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習の振り返り(2)</td> <td>:学習内容の整理 教育観を確認する</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習の振り返り(3)</td> <td>:今後の課題と課題解決に向けて</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>実習の振り返り(4)</td> <td>:「ねらい」と「内容」</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>保育指導(8)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 遊びと学び</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム	第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得	第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方	第4回	保育指導(1)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正	第5回	保育指導(2)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)	第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方	第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について	第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 礼状の書き方	第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導	第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備	第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価	第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する	第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて	第14回	実習の振り返り(4)	:「ねらい」と「内容」	第15回	保育指導(8)	:模擬保育とディスカッション 遊びと学び
第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム																																																		
第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得																																																		
第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方																																																		
第4回	保育指導(1)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正																																																		
第5回	保育指導(2)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)																																																		
第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方																																																		
第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について																																																		
第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 礼状の書き方																																																		
第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導																																																		
第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備																																																		
第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価																																																		
第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する																																																		
第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて																																																		
第14回	実習の振り返り(4)	:「ねらい」と「内容」																																																		
第15回	保育指導(8)	:模擬保育とディスカッション 遊びと学び																																																		
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬保育指導案の作成に当たっては、グループ内で実際にやってみて、修正を重ねる。また、教材研究や必要であれば、ピアノや歌の練習をする。(週に1時間程度)</li> <li>・ ボランティア等、幼稚園現場とのかかわりを積極的にもつ。</li> </ul>																																																			
授業方法	講義 演習																																																			
評価基準と評価方法	授業態度(興味・関心 等) 50% 提出物(実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50%を総合して評価する。																																																			
履修上の注意	自分なりの目標をもち、積極的な態度で授業に臨むこと。 第1回から第10回までが事前指導、第11回から第15回までが実習終了後の事後指導です。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。																																																			
教科書	「教育実習の手引き」(神戸松蔭女子学院大学作成版)																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	教育実習指導																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K73620																																													
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	1.0																																													
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通じた幼児理解を的確に行える教育実習を目指す																																																			
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を認識するとともに、教育者としての自覚と責任感をもち、教育実習に対する意欲と心構えをもって実習に必要な保育技術や指導計画作成の方法を習得する。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。																																																			
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。【汎用的技能】 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。【態度・志向性】 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。【態度・志向性】																																																			
授業計画	<p>(事前指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>教育実習の意義と心得</td> <td>:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>教育実習の心構え</td> <td>:教材研究と準備 保育指導案の書き方</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保育指導(1)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>保育指導(2)</td> <td>:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>保育指導(3)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保育指導(4)</td> <td>:模擬保育とディスカッション エピソード記録について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育指導(5)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 礼状の書き方</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育指導(6)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>保育指導(7)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備</td> </tr> </table> <p>(事後指導)</p> <table border="0"> <tr> <td>第11回</td> <td>実習の振り返り(1)</td> <td>:チェックリストに基づいての自己評価</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習の振り返り(2)</td> <td>:学習内容の整理 教育観を確認する</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習の振り返り(3)</td> <td>:今後の課題と課題解決に向けて</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>実習の振り返り(4)</td> <td>:「ねらい」と「内容」</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>保育指導(8)</td> <td>:模擬保育とディスカッション 遊びと学び</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム	第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得	第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方	第4回	保育指導(1)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正	第5回	保育指導(2)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)	第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方	第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について	第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 礼状の書き方	第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導	第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備	第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価	第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する	第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて	第14回	実習の振り返り(4)	:「ねらい」と「内容」	第15回	保育指導(8)	:模擬保育とディスカッション 遊びと学び
第1回	オリエンテーション	:教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム																																																		
第2回	教育実習の意義と心得	:幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得																																																		
第3回	教育実習の心構え	:教材研究と準備 保育指導案の書き方																																																		
第4回	保育指導(1)	:模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正																																																		
第5回	保育指導(2)	:絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘)																																																		
第6回	保育指導(3)	:模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方																																																		
第7回	保育指導(4)	:模擬保育とディスカッション エピソード記録について																																																		
第8回	保育指導(5)	:模擬保育とディスカッション 礼状の書き方																																																		
第9回	保育指導(6)	:模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導																																																		
第10回	保育指導(7)	:模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備																																																		
第11回	実習の振り返り(1)	:チェックリストに基づいての自己評価																																																		
第12回	実習の振り返り(2)	:学習内容の整理 教育観を確認する																																																		
第13回	実習の振り返り(3)	:今後の課題と課題解決に向けて																																																		
第14回	実習の振り返り(4)	:「ねらい」と「内容」																																																		
第15回	保育指導(8)	:模擬保育とディスカッション 遊びと学び																																																		
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬保育指導案の作成に当たっては、グループ内で実際にやってみて、修正を重ねる。また、教材研究や必要であれば、ピアノや歌の練習をする。(週に1時間程度)</li> <li>・ ボランティア等、幼稚園現場とのかかわりを積極的にもつ。</li> </ul>																																																			
授業方法	講義 演習																																																			
評価基準と評価方法	授業態度(興味・関心 等) 50% 提出物(実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50%を総合して評価する。																																																			
履修上の注意	自分なりの目標をもち、積極的な態度で授業に臨むこと。 第1回から第10回までが事前指導、第11回から第15回までが実習終了後の事後指導です。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。																																																			
教科書	「教育実習の手引き」(神戸松蔭女子学院大学作成版)																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																				
科目名	教育実習指導																																				
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K73620																														
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3~4	単位数	1.0																														
授業のテーマ	大学で学んだ学びを実践に生かし、学校現場の実態把握を的確にするための教育実習を目指す。																																				
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。																																				
到達目標	模擬実習を経験して、子供・教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業づくりなどを学び【汎用的技能】、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。【態度・志向性】																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>：教育実習の概要</td> </tr> <tr> <td>第2回：教育実習の目的</td> <td>：教育実習の</td> </tr> <tr> <td>第3回：子どもたち・学校園の現状</td> <td>：最近の学校園、子どもたちの現状把握…ゲストスピーカー招聘予定</td> </tr> <tr> <td>第4回：教育実習に向けての心構え</td> <td>：記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>第5回：学校園の生活</td> <td>：1日の生活時程の把握</td> </tr> <tr> <td>第6回：学習指導①</td> <td>：授業の基本・教材研究と指導計画の作成</td> </tr> <tr> <td>第7回：学習指導②</td> <td>：学習指導案の作成・模擬授業</td> </tr> <tr> <td>第8回：危機管理</td> <td>：生徒指導・保護者対応</td> </tr> <tr> <td>第9回：模擬実習①</td> <td>：模擬授業・生徒指導とロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>第10回：模擬実習②</td> <td>：模擬授業・学習展開の実際</td> </tr> <tr> <td>第11回：教育観①</td> <td>：実習先での感想を語り合い、自己の教育観を再考する</td> </tr> <tr> <td>第12回：教育観②</td> <td>：学校現場の課題を確認し、教師としての在りようについて討議する</td> </tr> <tr> <td>第13回：現場体験を踏まえた模擬授業</td> <td>：学校現場での授業体験から、模擬授業での課題を確認する</td> </tr> <tr> <td>第14回：震災から学ぶ防災教育</td> <td>：現場での体験を通じた防災教育</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>：子どもの前に立った経験から</td> </tr> </table>							第1回：オリエンテーション	：教育実習の概要	第2回：教育実習の目的	：教育実習の	第3回：子どもたち・学校園の現状	：最近の学校園、子どもたちの現状把握…ゲストスピーカー招聘予定	第4回：教育実習に向けての心構え	：記録の書き方	第5回：学校園の生活	：1日の生活時程の把握	第6回：学習指導①	：授業の基本・教材研究と指導計画の作成	第7回：学習指導②	：学習指導案の作成・模擬授業	第8回：危機管理	：生徒指導・保護者対応	第9回：模擬実習①	：模擬授業・生徒指導とロールプレイ	第10回：模擬実習②	：模擬授業・学習展開の実際	第11回：教育観①	：実習先での感想を語り合い、自己の教育観を再考する	第12回：教育観②	：学校現場の課題を確認し、教師としての在りようについて討議する	第13回：現場体験を踏まえた模擬授業	：学校現場での授業体験から、模擬授業での課題を確認する	第14回：震災から学ぶ防災教育	：現場での体験を通じた防災教育	第15回：まとめ	：子どもの前に立った経験から
第1回：オリエンテーション	：教育実習の概要																																				
第2回：教育実習の目的	：教育実習の																																				
第3回：子どもたち・学校園の現状	：最近の学校園、子どもたちの現状把握…ゲストスピーカー招聘予定																																				
第4回：教育実習に向けての心構え	：記録の書き方																																				
第5回：学校園の生活	：1日の生活時程の把握																																				
第6回：学習指導①	：授業の基本・教材研究と指導計画の作成																																				
第7回：学習指導②	：学習指導案の作成・模擬授業																																				
第8回：危機管理	：生徒指導・保護者対応																																				
第9回：模擬実習①	：模擬授業・生徒指導とロールプレイ																																				
第10回：模擬実習②	：模擬授業・学習展開の実際																																				
第11回：教育観①	：実習先での感想を語り合い、自己の教育観を再考する																																				
第12回：教育観②	：学校現場の課題を確認し、教師としての在りようについて討議する																																				
第13回：現場体験を踏まえた模擬授業	：学校現場での授業体験から、模擬授業での課題を確認する																																				
第14回：震災から学ぶ防災教育	：現場での体験を通じた防災教育																																				
第15回：まとめ	：子どもの前に立った経験から																																				
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前事前学習：教育ボランティア・スクールサポーターなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ（学習時間1時間） 実習後事後学習：実習を踏まえた児童との関わり方について、教育ボランティア・スクールサポーターに生かしその体験を授業でもグループワークで語り合ったことを基に整理し、確認する。（学習時間1時間）																																				
授業方法	講義・演習 授業内での討議への参加度、リアクションペーパーによる授業内容の把握等 50% 期末試験：授業で扱った理論の理解、具体的な対応の仕方の解釈 50%																																				
評価基準と評価方法	<table border="0"> <tr> <td>授業態度（グループワークでの発表態度…興味・関心度等）</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>提出物（実習計画・実習反省・指導案等 事後学習でのレポート等）</td> <td>50%</td> </tr> </table>							授業態度（グループワークでの発表態度…興味・関心度等）	50%	提出物（実習計画・実習反省・指導案等 事後学習でのレポート等）	50%																										
授業態度（グループワークでの発表態度…興味・関心度等）	50%																																				
提出物（実習計画・実習反省・指導案等 事後学習でのレポート等）	50%																																				
履修上の注意	目標をしっかりと持ち、積極的な態度で授業に臨むこと 模擬授業、グループワークに積極的に参加すること																																				
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）																																				
参考書	小学校学習指導要領解説総則編（平成29年版）																																				

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育相談						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K03130
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	不登校等の個別的なクリニカルな教育相談だけでなく、生徒指導上の問題が発生することを防ぐ予防的な教育相談、さらに全ての子どもを対象としてより豊かな人間関係を高めた学級経営を目指す開発的な教育相談の理論と手法を学び、教師としての資質能力を高めることを目指す						
授業の概要	学校教育現場においては、個別の子どもに対してのクリニカルな教育相談だけでなく、学級経営上・生徒指導上の対応できる予防的開発的開発的教育相談の必要性が高まっている。本講義では、教師として身につけたい教育相談の知識と手法について知り、事例研究やグループワーク・ロールプレイを通して児童支援の実際を理解していく。						
到達目標	個々の児童生徒の治療的な教育相談だけでなく【知識・理解】、集団を対象とした予防的開発的教育相談について知識の理解と手法の獲得を通して、教師としてのカウンセリングマインドの姿勢と教育相談のスキルを身につけることが出来るようにする【汎用的技能】。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 構成的グループエンカウンターを通して、対人関係上の問題について理解を図る 第2回：現代の子どもの問題 教師に必要な学校教育相談（「生徒指導提要」から） 第3回：ピアヘルピングと青年期の課題 第4回：教育相談の理論と方法（1）精神分析療法、来談者中心療法、 第5回：教育相談の理論と方法（2）認知行動療法、論理療法 第6回：教育相談の理論と方法（3）折衷主義 コーヒーカップ方式、ブリーフセラピー 第7回：教育相談の個別支援（1）不登校といじめ 第8回：教育相談の個別支援（2）保護者対応と問題への対処法 第9回：仲間同士の教育相談…ピアヘルピングとカウンセリングの違い 第10回：カウンセリングスキル（1）言語的技法について 第11回：カウンセリングスキル（2）非言語的技法と対話上の諸問題への対処法 第12回：予防的開発的教育相談（1）構成的グループエンカウンター 第13回：予防的開発的教育相談（2）社会的スキル教育 第14回：予防的開発的教育相談（3）アサーショントレーニングとアンガーマネジメント 第15回：まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で行う教科書の当該箇所について、「生徒指導提要第5章教育相談」や参考書を予習し、授業に備える（学習時間2時間） 授業後学習：授業で配布したプリントを基に、内容の要点箇所を確認する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と事例研究やグループワーク・ロールプレイなど参加型のプログラムを実施していく						
評価基準と評価方法	授業内での討議への参加度、リアクションペーパーによる授業内容の把握等 50% 期末試験：授業で扱った理論の理解、具体的な対応の仕方の解釈 50%						
履修上の注意	教科書は2回目までに用意しておくこと 積極的にペアワーク、グループワークに参加する姿勢と静かに傾聴する姿勢のメリハリある態度をつけること						
教科書	文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書						
参考書	ピアヘルパーハンドブック 図書文化 ピアヘルパーガイドブック 図書文化 國分康孝監修（1999）「構成的グループエンカウンターで子どもが変わるショートエクササイズ集」図書文化 國分康孝監修 小林正幸・相川充編（1999）「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」図書文化						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバ-	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	理科指導法をうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成できるための準備として、より深く、理科教育法について学ぶ。						
到達目標	(1)小学校理科の授業、特に実験授業の指導をできる【汎用的技能】 (2)教材作成のための、資料準備や資料活用をできる【汎用的技能】 (3)将来小学校教員として、理科が得意だとアピールできる【態度・志向性】						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 生物の育成観察について 第03回 3年生「物と重さ」学習内容と実験 第04回 3年生「物と重さ」模擬授業 第05回 3年生「風やゴムの働き」学習内容と実験 第06回 3年生「風やゴムの働き」模擬授業 第07回 博物館、科学館教育について 第08回 3年生「磁石の性質」学習内容と実験 第09回 3年生「磁石の性質」模擬授業 第10回 3年生「電気の通り道」学習内容と実験 第11回 3年生「電気の通り道」模擬授業 第12回 4年生「空気と水の性質」学習内容と実験 第13回 4年生「空気と水の性質」模擬授業 第14回 4年生「金属、水、空気と温度」学習内容と実験 第15回 4年生「金属、水、空気と温度」模擬授業 デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	2年時に履修した理科研究、理科指導法の内容を確認復習しておくこと。						
教科書	なし						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	自分の興味・関心を学術的に追究するための基礎を学ぶ						
授業の概要	幼児教育・保育または特別支援教育について、自ら関心のあるテーマを発見し、やや専門的な文献の読み方、調査の仕方、プレゼンの技法、意見の理解力を伸ばしながら課題探求していく。						
到達目標	(1) 乳幼児や障害のある子どもについて、歴史や思想、社会背景との関連で問題点を探ることができる。【知識・理解】【態度・志向性】 (2) やや専門的な文献を理解し、それについてディスカッションができる。【態度・志向性】【汎用性技能】 (3) 文献を収集し、論理的なレポートをまとめることができる。【態度・志向性】【汎用性技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（動機と目標の確認） 第2回 各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回 図書館での論文ガイダンス 第4回 問題提起と文献研究 第5回 問題提起と調査方法 第6回 発表とディスカッション -幼児教育・保育- 第7回 発表とディスカッション -特別支援教育- 第8回 発表とディスカッション -幼児教育・保育- 第9回 発表とディスカッション -特別支援教育- 第10回 テーマの明確化と文献収集 第11回 選定した文献の購読とディスカッション -幼児教育- 第12回 選定した文献の購読とディスカッション -特別支援教育- 第13回 レポート構成と執筆 第14回 プレゼンテーションと質疑 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 複数回にわたる各自の発表の準備（学習時間：1時間） 2. 複数回にわたるディスカッションのテーマについての下調べ（学習時間：2時間） 3. 自ら設定したテーマについての文献購読、下調べ、レポート作成（学習時間：1時間）						
授業方法	講義：周産期の母子、乳幼児期の子ども、特別な支援が必要な子どもや家族についての課題について、歴史、思想および社会背景と関連させながら説明し、学生が自らの興味・関心あるテーマを設定できるように導く。 演習：設定したテーマについてのディスカッション、調査の仕方、レポートの書き方等を演習していく。						
評価基準と評価方法	1. 授業態度（演習への取り組み、ディスカッションでの発言への積極性）30% 到達目標（1）（2）に関する到達度の確認 2. 提出物（小レポートと期末レポート）50% 到達目標（1）（3）に関する到達度の確認 3. 発表（担当テーマの発表と期末プレゼンテーション）20% 到達目標（1）（2）に関する到達度の確認						
履修上の注意	卒業研究につなげる授業であるため、問題意識を持って参加すること。原則として欠席が5回以上を超えた場合、単位認定を行わない。						
教科書	特に指定しない						
参考書	テーマによって適宜紹介する						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	アートと子ども						
授業の概要	アートとはいったい何だろう、子どもの表現行為はアートなのだろうか。人間にとってアートはどのような意味があり、役割を果たしているのかについてともに考えルーター。アール・ブリュットや現代美術の動向を知り、美術を幅広く捉えることが、乳幼児の造形表現（子どものアート）を理解することにつながります。教育発達演習Aでは、子どもとアートのかかわりを前述の内容の検討と、それにつながる教材研究を中心に進める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代美術やアール・ブリュットについての基本的知識をもって、意見交換することができる。</li> <li>2. 乳幼児の造形表現の教材を選択し、指導につなぐことができる。</li> <li>3. 1, 2につながる文献検索を行い、興味ある課題を見つける。</li> </ol>						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 子どものアートとはなにか 第3回 アール・ブリュットと出会う 第4回 アール・ブリュットと子どものアートについて考える 第5回 教材を集める 1 身近な素材 第6回 教材を集める 2 自然物 第7回 教材を集める 3 自然 第8回 教材のプレゼンテーション 第9回 文献収集（アール・ブリュット、子どものアート、マテリアル） 第10回 文献要約と紹介 1 第11回 文献要約と紹介 2 第12回 課題レポートの書き方と発表要旨について 第13回 課題レポートのプレゼンテーション 第14回 課題レポートのプレゼンテーション 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前週に予告した内容の資料収集や事前の下調べをしておくこと。（2時間程度） 授業後学習：資料や作品の完成と要点のまとめを必ずおこなっておくこと。（2時間程度）						
授業方法	演習：各回、または2～3週継続したテーマのもとにグループ討議やプレゼンテーションを行い、コミュニケーション能力や対話力を身につけるようにする。アート作品や乳幼児の造形表現につながる実技を取り入れながら、理論と実践をつなぐ力を培う。						
評価基準と評価方法	積極的なグループワークへの参加や作品など50%、レポートとプレゼンテーションで50%で評価する。						
履修上の注意	美術館見学や体験学習など、通常のゼミ以外の日程で授業が行われることがあります。この場合、見学費用や交通費などの実費が必要になる。						
教科書	教科書は使用しない。 必要な文献を指定する。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバ-	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育政策に関わる近年の改革動向について、現状把握を行い、課題意識を深める。						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心にふさわしい入門書を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の前半においては統一されたテキストを輪読する場合もある。学生は発表と議論を通じて、報告資料の作り方、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方、発表の聞き手になった際の議論の仕方などのスキルを向上させる。こうした言語活動を通じて個々の学生が学問的な枠組みの中で発表・議論の基礎を身につける。						
到達目標	①レポートや論文の書き方、研究テーマの選び方、文献の調べ方等の基礎について、学習する。【知識・理解】 ②参加者が興味・関心のある教育政策学等の基本学術論文・文献を、各自で調べ、議論を重ねて、レポートを作成する。【汎用的技能】 ③教育政策学に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 レポート・論文の書き方やプレゼンの技法等に関する説明 第3回 文献調査の方法に関する説明 第4回 日本の教育制度 第5回 日本の学校の日 第6回 日本の教育課程の特徴 第7回 日本の教員養成・研修・採用制度 第8回 日本の学校評価の方法・特徴 第9回 中間のまとめと質疑応答 第10回 自由テーマによる発表とディスカッション：課題を考える 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション：テーマを設定する 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション：資料を検索する 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション：構成を考える 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション：文章を作成する 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：自分が報告を担当する回では事前に資料を準備する。報告にあたっては、自分が疑問に思ったことについて、主体的に調べて盛り込むこと。また、授業で扱うテーマについて、参考書籍などによって予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内で受けたコメント・意見をもとに、報告文を修正する。また、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	1. 序盤ではレポート・論文の書き方やプレゼンの技法、文献調査の方法を教員より説明する。 2. 中盤では教育に関する基本知識を学習し、自分の興味関心の部分を各自で調べ、レジュメを作成・発表する。教員はその背景を解説する。 3. 終盤では多様な視点から学生同士が質疑応答して、教育政策に関する知見を深める。						
評価基準と評価方法	平常点20%（コメントカードや授業での発言など）到達目標①、③に関する到達度の確認 発表点30% 到達目標②、③に関する到達度の確認 期末レポート50%（自分のテーマ）到達目標①、②、③に関する到達度の確認						
履修上の注意	1. 2/3以上の出席を単位認定の基準とする。 2. 全員が教科書や自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員が積極的に発言する。						
教科書	特に指定なし。授業中に適宜指示をする。						
参考書	特に指定なし。授業中に適宜指示をする。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバ-	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	特別支援教育について学び、自分自身の問題意識（問い）を立てる。						
授業の概要	学生と教員で特別支援教育にかんする文献（書籍や論文など）を購読し議論を行うことを通して、自分自身の問いを明らかにして深めていく。教員は、適宜解説や補足説明を行う。授業を通して、文献の探索・収集の方法や読み解き方、問いの立て方、検証・論証の進め方を学生相互で学び、レポートとしてまとめていく。						
到達目標	(1) 特別支援教育にかんするテーマの中から、自分自身の問いを立て深めることができる【態度・志向性】。 (2) テーマにもとづいて、発表と質疑応答を行い、議論する方法を身につけることができる【態度・志向性】 【汎用的技能】。 (3) 自分自身で問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示すレポートを作成できる【態度・志向性】 【汎用的技能】。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明、問題関心の共有） 第2回 議論やレポートの作成（問い、論証、答えの視点を学ぶ） 第3回 文献探索・収集の方法（図書館の利用、データベース検索、文献リストの作成） 第4回 文献購読と議論1 第5回 文献購読と議論2 第6回 文献購読と議論3 第7回 文献購読と議論4 第8回 文献購読と議論5 第9回 中間報告とレポート作成に向けて 第10回 学生が選んだテーマでの発表と議論1 第11回 学生が選んだテーマでの発表と議論2 第12回 学生が選んだテーマでの発表と議論3 第13回 学生が選んだテーマでの発表と議論4 第14回 学生が選んだテーマでの発表と議論5 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う文献を予習する。図書館なども活用する。分からなかったところや疑問点を整理して、議論に備える。発表担当者は、レジュメを作成し、発表の練習を行う。加えて、後半（第10回～第14回）については、自分のテーマについて事前に調べておく必要がある。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表や議論で出た論点や意見を復習し、自分の問いを立て深める上での参考とする。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習：適宜、文献以外にも視聴覚教材も用いて、学生相互の議論を行う。発表分担は授業内に決める。発表、レジュメやレポートの作成などについては、授業内外で教員と相談しながら進める。						
評価基準と評価方法	1. 平常点50点（授業での発言や発表・質疑応答）。到達目標（1）および（2）に関する到達度の確認。 2. レポート課題50点（学生が設定したテーマに即して、問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示しているかについて評価する）。到達目標（3）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論を通じて多様な意見のやりとりを楽しみ、ときには悩みながら学びましょう。</li> <li>・授業での議論が中心になるので、出席は重視します。</li> <li>・必要に応じて、学外に研修・見学に行く場合があります。その場合にかかる交通費その他費用について自己負担となります。</li> </ul>						
教科書	授業中に適宜指示する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	論文講読と研究テーマの設定						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから各自のテーマを見つける。						
到達目標	(1) 子どもを取り巻く環境について、身近なところから問題点を探ることができる【知識・理解】 (2) 問題点を見つけ、ファシリテーターとしてグループディスカッションができる【態度・志向性】 (3) 卒業研究のテーマに基づき、文献を収集し、内容をまとめて発表することができる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と発表についての説明 第3回 問題提起とディスカッションの方法 第4回 問題提起と文献研究 第5回 発表およびディスカッション - 幼児の運動に焦点をあてる - 第6回 発表およびディスカッション - 小学生の体育に焦点をあてる - 第7回 発表およびディスカッション - 保護者に焦点をあてる - 第8回 発表およびディスカッション - 保育者に焦点をあてる - 第9回 文献検索の方法について 第10回 各自テーマについて文献収集 第11回 文献購読 - 幼児期の運動遊びに関して - 第12回 文献購読 - 児童期の運動に関して - 第13回 文献購読 - 保護者に関して - 第14回 文献購読 - 保育者に関して - 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：ディスカッションのテーマを設定するためのキーワードや話題を新聞やニュース等で調べておく。（学習時間2時間） 授業後学習：ディスカッションで議論した内容をまとめ、さらに設定テーマに基づき、論文等で調べたものをレポートにする。（学習時間：3時間）						
授業方法	講義：幼児を取り巻く諸要因について説明するとともに、テーマ設定の方法を行う。 演習：各自がテーマを設定し、ディスカッションが行えるよう進行する。 最後にまとめとして意見を述べる。						
評価基準と評価方法	ファシリテーターとしての評価（40%）到達目標（1）および（2） ディスカッションへの取組（30%）到達目標：（1）、 リアクションペーパー（30%）：授業で取り上げたテーマのまとめと感想。到達目標（2）および（3）						
履修上の注意	卒業研究につなげるための授業であるため、問題意識をもって積極的に臨むこと。						
教科書	内容に応じたプリントを配布する。						
参考書	テーマによって適宜、紹介する。さらにプリントを配布する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習A						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K0312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育の意義、現状、課題について学び合う						
授業の概要	4年次の卒業研究に向けての基盤づくりをおこないます。本科目では、各自の保育に関する「問い」を掘り下げ、問題を共有し、文献輪読等を通して、議論を深めます。						
到達目標	保育に関するこれまでの学びと実習をふまえて、保育の意義、現状と課題を再確認し、各自の問題意識を明確にすることができる。(汎用的技能、態度・志向性)						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 これまでの学びを通しての問題意識の共有 第3回 保育実習での経験をもとにした問題意識の共有 第4回 文献を通して保育の意義について考える 第5回 文献を通して保育の意義について考える(ディスカッション) 第6回 日本における保育の現状の理解(制度・条件面) 第7回 日本における保育の現状の理解(実践面) 第8回 世界の保育について知ろう(各自の報告前半) 第9回 世界の保育について知ろう(各自の報告後半) 第10回 現役保育者の話を聴く【ゲストスピーカー招聘】 第11回 日本の保育の課題について考える 第12回 各自の問題意識を問いの形にする 第13回 問いの答えを探究するための方法について知る 第14回 個別レポートの発表 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・次回授業に向けた予習テーマに基づき予習をする(45分) ・発表を担当する時は、報告準備を行う(75分)。 ・ゼミでの議論と自分自身の理解度を整理する(45分)。 ・発表後は、発表内容について振り返り、復習する(15分)。						
授業方法	・提示した文献を読み、発表に向けてレジュメを作成する。 ・発表と議論をおこなう。						
評価基準と評価方法	・授業内発表50%、学期末レポート50%とする。						
履修上の注意	・ゼミの主役は学生さんです。各自が主体的に取り組まなければゼミは運営できません。したがって、出席はもちろんのこと、発表・議論を責任をもって行なってください。						
教科書	指定テキストはなし。適宜資料等を配布します。						
参考書	適宜指示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における理科教育について、知識技術を深め、理科の得意な教員を目指す。						
授業の概要	発達教育演習Aをうけ、さらに各学年の理科で扱うそれぞれの内容に対して、具体的な授業案や教材を作成をする。また、理科教育について必要な統計処理や、新しい教育方法であるアクティブラーニング的手法を学ぶ。						
到達目標	(1) 小学校理科の授業、特に実験授業の指導をできる【汎用的技能】 (2) 教材作成のための、資料準備や資料活用をできる【汎用的技能】 (3) 将来小学校教員として、理科が得意だとアピールできる【態度・志向性】						
授業計画	<p>第01回 指導案と評価  第02回 4年生「電気の働き」学習内容と実験  第03回 4年生「電気の働き」模擬授業  第04回 教材作成演習1  第05回 教材作成演習2  第06回 4年生「天気の様子」学習内容と実験  第07回 4年生「天気の様子」模擬授業  第08回 博物館科学館実習計画の作成  第09回 5年生「物の溶け方」学習内容と実験  第10回 5年生「物の溶け方」模擬授業  第11回 5年生「振り子の運動」学習内容と実験  第12回 5年生「振り子の運動」模擬授業  第13回 5年生「電流の働き」学習内容と実験  第14回 5年生「電流の働き」模擬授業  第15回 論文の構成と書き方</p> <p>デジタル教材の使い方や、アクティブラーニング、先行事例研究などもこれらの具体的な単元を使いながら行っていきます。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で取り扱う単元を教科書などで予習し、ポイントになる点についてまとめておく（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する（学習時間2時間）						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	2年時に履修した理科研究、理科指導法の内容を確認復習しておくこと。						
教科書	なし						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究課題の精選と研究方法の検討						
授業の概要	「教育発達演習A」で探求した自己の興味・関心をさらに明確にし、研究課題の精選を行う。関連分野の文献を購読するとともに、研究方法について学んでいく。自ら論文プロポーザルを作成し、それにそって文献収集、先行研究の整理、調査、観察等の方法論を学び、卒業論文のテーマに向けて進めていく。						
到達目標	(1) 自分で精選した課題に関連した文献購読を通して、その基盤となる理論を学ぶことができる。 (2) 自分の卒業論文のテーマを精選することができる。 (3) 自己課題に即した先行研究を整理し、自身がこれから行う研究の位置付けについて説明することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と研究方法、文献収集についての説明 第3回 文献の収集、図書館での論文ガイダンス 第4回 文献リスト作成 第5回 先行研究から学ぶ論文の書き方 第6回 文献購読と発表 ー保育・幼児教育に関する文献ー 第7回 文献購読と発表 ー特別支援教育に関する文献ー 第8回 文献購読と発表 ー保育・幼児教育に関する文献ー 第9回 文献購読と発表 ー特別支援教育に関する文献ー 第10回 中間発表 ー先行研究のまとめー 第11回 論文プロポーザルの作成 第12回 研究計画の発表と検討 第13回 研究方法の発表と検討 第14回 調査、観察等のモデル実施 第15回 まとめと卒業研究に向けた課題の明確化						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：テーマに関するトピックや文献収集、読み込み、資料作成、発表準備を行う(学習時間3時間) 授業後学習：発表の振り返り、テーマに関する文献をさらに収集する(学習時間2時間)						
授業方法	演習(グループワークや発表、ディスカッション等)を中心に授業を行う。						
評価基準と評価方法	文献収集と購読発表、ディスカッション(50%) 到達目標(1)(2)(3) 発表レポート(50%) 到達目標(2)(3)						
履修上の注意	卒業研究につなげるための授業であるため、課題意識をもって臨むこと。						
教科書	「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」ナツメ社、978-4816350573						
参考書							



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもとアート						
授業の概要	子どもの造形、美術教育の分野で、教育発達演習Aで見出した課題をさらに専門的に研究する方法を習得する。教材研究を幅広く経験することや、同じテーマに沿って議論を深めること、効果的なプレゼンテーションの仕方などについて学ぶ。この過程で、次年度の卒業研究につながるテーマを見つけるようにする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループワークを通じて、議論を深めることができる。</li> <li>2. トピックを見つけてプレゼンテーションすることができる。</li> <li>3. 卒論のテーマにつながる課題を見つけ、レポート作成とプレゼンテーションができる。</li> </ol>						
授業計画	第1回 後期オリエンテーションと卒論テーマ設定について 第2回 文献研究の方法 第3回 実践・実証研究・フィールドワークについて 第4回 質問紙の作り方 第5回 教材研究 第6回 教材研究・現地研修（授業外に別途日程を設定する） 第7回 教材研究のまとめ方 第8回 実践研究（指導の実際の体験） 第9回 文献購読1 第10回 文献購読2 第11回 テーマ確認とレポートの作成方法 第12回 シラバス・発表資料作成 第13回 発表1 第14回 発表2 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回に必要な資料を検索し、持参できるようにする。内容をしっかり把握しておくこと。（2時間程度） 授業後学習：討議した内容や、学んだ方法を整理して要点をまとめ、疑問があれば次回に質問できるようにしておくこと。（2時間程度）						
授業方法	演習：対話やグループワークなどを通じて、各自の課題を明確にするとともに、コミュニケーション能力を身につける。また、材料研究を実技・実践的に行い、美術教材開発などに結び付くようにする。						
評価基準と評価方法	積極的なグループワークへの参加や作品など30%、レポートとプレゼンテーションで70%で評価する。						
履修上の注意	美術館等の学外施設の見学や体験など、通常以外の日程でゼミが行われることがある。この場合、見学費用や交通費などの実費が必要になる。						
教科書	教科書は使用しない。 必要な場合は持参する資料を指定する。						
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバ-	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育政策に関わる近年の改革動向について、現状把握を行い、課題意識を深める。						
授業の概要	学生が、各自の興味・関心に応じて文献を選び、毎回の授業で交代で発表し、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、補足説明や論点の提示を適宜行う。授業の進め方は、「教育学演習A」の延長とし、自ら調査をした内容を報告し、議論を踏まえてさらに追加で調査を深めていく。4年次の「卒業研究」に向けての準備とすべく、追求したい問題の立て方、そのための文献の選び方、そこからの論点の取り出し方などについて指導する。また問いと追求と答えという三要素を備えたレポートも作成できることを目指す。						
到達目標	①教育行政・教育政策等の諸課題について理解を深めるとともに、自ら関心のあるテーマと関連させて自分の意見を述べるができるようになる。【知識・理解】 ②文献の調べ方や発表のしかたを身につけ、他の参加者と議論することができるようになる。【態度・志向性】 ③4年次の「卒業研究」に向けて、課題設定と考察を備えたレポートを作成することもできるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 前期の振り返りと後期の目標設定 第2回 参加者の興味・関心のある教育政策学等の基本的学術論文・文献の解題 第3回 文献調査と課題設定の方法に関する説明 第4回 諸外国の教育制度 第5回 諸外国の学校の日 第6回 諸外国の教育課程の特徴 第7回 諸外国の教員養成・研修・採用制度 第8回 諸外国の学校評価の方法・特徴 第9回 中間のまとめと質疑応答 第10回 自由テーマによる発表とディスカッション：課題を考える 第11回 自由テーマによる発表とディスカッション：テーマを設定する 第12回 自由テーマによる発表とディスカッション：資料を検索する 第13回 自由テーマによる発表とディスカッション：構成を考える 第14回 自由テーマによる発表とディスカッション：文章を作成する 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）						
授業方法	1. 序盤ではレポート・論文の書き方やプレゼンの技法、文献調査の方法を教員より説明する。 2. 中盤では教育に関する基本知識を学習し、自分の興味関心の部分を各自で調べ、レジュメを作成・発表する。教員はその背景を解説する。 3. 終盤では多様な視点から学生同士が質疑応答して、教育政策に関する知見を深める。						
評価基準と評価方法	平常点20%（コメントカードや授業での発言など）到達目標①、③に関する到達度の確認 発表点30% 到達目標②、③に関する到達度の確認 期末レポート50%（自分のテーマ）到達目標①、②、③に関する到達度の確認						
履修上の注意	1. 2/3以上の出席を単位認定の基準とする。 2. 全員が教科書や自分のテーマで何度が発表する。 2. 毎回の授業で学生全員が積極的に発言する。						
教科書	各自のテーマに応じて、個別指導を行う。						
参考書	各自のテーマに応じて、個別指導を行う。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバ-	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	特別支援教育について学び、自分自身の問題意識(問い)を深める。						
授業の概要	学生と教員で特別支援教育にかんする文献(書籍や論文など)を購読し議論を行うことを通して、自分自身の問いを明らかにして深めていく。教員は、適宜解説や補足説明を行う。授業の進め方は、「教育発達演習B」の延長であるが、4年時の「卒業研究」に向けた準備とするために、文献の探索・収集の方法や読み解き方、問いの立て方や深め方、検証・論証の進め方を学生相互で学び、レポートとしてまとめていく。						
到達目標	(1) 4年時の「卒業研究」の準備とするために、特別支援教育にかんするテーマの中から、自分自身の問いを立て深めることができる。【態度・志向性】 (2) テーマにもとづいて、発表と質疑応答を行い、議論する方法を身につけることができる。【態度・志向性】 【汎用的技能】 (3) 自分自身で問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示すレポートを作成できる。【態度・志向性】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーションと「教育発達演習A」のレポート返却及びコメント 第2回 議論の方法やレポートの作成(問い、論証、答えの視点を学ぶ) 第3回 「教育発達演習A」のレポートテーマ・内容をさらに深めて報告・検討を行う1 第4回 「教育発達演習A」のレポートテーマ・内容をさらに深めて報告・検討を行う2 第5回 「教育発達演習A」のレポートテーマ・内容をさらに深めて報告・検討を行う3 第6回 文献購読と議論1 第7回 文献購読と議論2 第8回 文献購読と議論3 第9回 中間報告とレポート作成に向けて 第10回 学生が選んだテーマでの発表と議論1 第11回 学生が選んだテーマでの発表と議論2 第12回 学生が選んだテーマでの発表と議論3 第13回 学生が選んだテーマでの発表と議論4 第14回 学生が選んだテーマでの発表と議論5 第15回 総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回授業で扱う文献を予習する。図書館なども活用する。分からなかったところや疑問点を整理して、議論に備える。発表担当者は、レジュメを作成し、発表の練習を行う。加えて、後半(第10回~第14回)については、自分のテーマについて事前に調べておく必要がある。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 発表や議論で出た論点や意見を復習し、自分の問いを立て深める上での参考とする。(学習時間: 2時間)						
授業方法	演習: 適宜、文献以外にも視聴覚教材も用いて、学生相互の議論を行う。発表分担は授業内に決める。発表、レジュメやレポートの作成などについては、授業内外で教員と相談しながら進める。						
評価基準と評価方法	1. 平常点50点(授業での発言や発表・質疑応答)。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 2. レポート課題50点(学生が設定したテーマに即して、問いを立て、論証し、その問いについての答えを論理的に示しているかについて評価する)。到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	・議論を通じて多様な意見のやりとりを楽しみ、ときには悩みながら学びましょう。 ・授業での議論が中心になるので、出席は重視します。 ・必要に応じて、学外に研修・見学に行く場合があります。その場合にかかる交通費その他費用について自己負担となります。						
教科書	授業中に適宜指示する。						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	研究課題の精選と課題検討						
授業の概要	子どもを取り巻くさまざまな環境からくる健康問題について、教育現場や地域、家庭教育といった視点から考え、教職につく立場として理解を深めることを目的とする。 子どもの体力・運動能力、生活習慣、遊び文化などについて、テキストや文献、先行研究をもとに考え討議し、それらから卒業研究のテーマに向け進めていく。						
到達目標	(1)自分の卒業研究のテーマを精選することができる【知識・理解】 (2)より多くの文献を収集し、具体的にテーマと関連づけることができる【態度・志向性】 (3)文献の中から、研究テーマに即した論文をまとめ、発表し、意見を述べ合うことができる【態度・志向性、汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 各自のテーマ設定と文献収集についての説明 第3回 文献の収集 第4回 文献リスト作成 第5回 レジューメの作成法と発表方法 第6回 先行研究から学ぶ論文の書き方 第7回 講読発表 - 幼児・児童に関する文献 - 第8回 講読発表 - 運動に関する文献から - 第9回 講読発表 - 子どもの健康に関する文献から - 第10回 講読発表 - 生活習慣に関する文献から - 第11回 講読発表 - 保護者に関する文献から - 第12回 講読発表 - 保育者に関する文献から - 第13回 プロポーザル 第14回 プロポーザルの検討 第15回 まとめと卒業研究に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テーマに関する話題や文献収集を行う（学習時間3時間） 授業後学習：発表をふりかえり、研究テーマに関する文献を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：文献収集の方法と講読発表の内容について説明を行う。 演習：各自講読発表を行い、その後ディスカッションをし、さらに課題を見つける。						
評価基準と評価方法	文献収集と講読発表（50%）到達目標（1）（2）（3） 発表レポート（50%）到達目標（3）						
履修上の注意	1. 卒業研究につなげるための授業であるため、課題意識をもって臨むこと。 2. 授業は必ず出席をすること。やむを得ず休んだ場合は課題を提出する。						
教科書	テーマに沿ったプリントを配布する。						
参考書	「よくわかる卒論の書き方」白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 ISBN978-4 - 623-05111-3 「レポート・論文のまとめ方と書き方」宮内克男 川内書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育発達演習B						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K0312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育に関する問題意識を明確にする～卒業研究の準備						
授業の概要	前期内容および実習経験を踏まえ、各自の問題意識を明確にする。問いを立て、関連する先行研究を調べて整理する力をつける。また、研究方法について、先行研究から学ぶ。						
到達目標	(1) 保育に関する研究の「問い」を立てることができる。(汎用的技能、態度・志向性) (2) 関連する先行研究をレビューし、到達点と課題を整理することができる。(汎用的技能) (3) 研究の目的を明確にし、適切な研究方法を選択することができる。(汎用的技能)						
授業計画	第1回 前期の振り返りと後期ガイダンス 第2回 実習での経験から問題意識を共有する 第3回 各自の問題意識を整理する 第4回 文献検索方法の復習 第5回 先行研究の検討(各自の関心に基づいた検索) 第6回 先行研究の読み方を学ぶ 第7回 先行研究検討の報告(前半) 第8回 先行研究検討の報告(後半) 第9回 各自の研究の問いと卒業研究の目的を明確にする 第10回 研究方法について学ぶ 第11回 研究方法を学ぶための先行研究を読む 第12回 研究計画書作成と報告 第13回 現役保育者の話を聴く(ゲストスピーカー招聘) 第14回 4年生の卒業研究報告を聴く 第15回 まとめと次年度の見直しおよび春休みの課題提示						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・事前課題に取り組む(45分) ・発表準備を行う(75分) ・授業の復習と理解不足の点の学習(45分) ・自身の発表内容の自己評価と課題の明確化(15分)						
授業方法	各自の発表と議論を中心に実施します。						
評価基準と評価方法	・授業内発表・議論50%、研究計画書作成と報告50%						
履修上の注意	・発表・議論は責任をもって取り組むこと。 ・3分の1以上の欠席(5回以上)は評価対象外とする。						
教科書	・授業中に適宜指示する。						
参考書	・授業中に適宜指示する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職基本演習						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバ-	K74750
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職についての専門的な知識と実践的な指導力の育成						
授業の概要	本授業では、学生がこれまでの教職課程に関する履修や教職課程外での様々な活動を通じて、教員としての資質や能力が有機的に統合されながら形成されてきているかを、自己点検し確認する。また、教員になるために自分に不足している知識や技能・技術、能力や態度等を補い、教員として必要な資質と実践的指導力の向上を図るようにする。						
到達目標	学習指導について、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等の実施により、教職における専門的な知識や実践的な授業力を高める。(知識・理解)(汎用的技能)また、学級経営や生徒指導について、事例研究、グループによる演習、ロールプレイなどにより教師としての資質・能力や実践的な指導力を養う。(汎用的技能)(態度・志向性)						
授業計画	第1回 オリエンテーション：本授業のねらいと授業の概要 第2回 教員としての自分の点検・確認、自己の課題の把握 第3回 授業における基本的な展開や教師の役割(ユニバーサルデザインの授業の展開) 第4回 グループに分かれて学習指導案の作成 第5回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正(1) 第6回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正(2) 第7回 小学校教員の仕事内容(校務分掌と学校経営) 第8回 小学校の学級担任の仕事内容(1)：学級経営と学級づくり 第9回 小学校の学級担任の仕事内容(2)：学級事務、成績評価、懇談会等 第10回 小学校の学級担任の仕事内容(3)：集団指導と個別指導 第11回 生徒指導上の課題とその対応についての事例検討(1)：いじめ・不登校 第12回 生徒指導上の課題とその対応についての事例検討(2)：怠学、暴力行為、虞犯行為 第13回 児童理解の今日的課題と保護者との連携の在り方 第14回 ロールプレイによる保護者対応の在り方の実践と検討 第15回 まとめ：教員としての資質・能力についての自己評価および今後の課題						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・授業前学習：各回の授業で行う内容について、事前に指定する内容やキーワードについて、指定した図書や参考資料などで下調べをしたり、発表資料を作成したりする(学習時間2時間)。 ・授業後学習：授業で学んだことを復習し、次の授業や実習、就職した際に活かせるように、要点をまとめて報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する(学習時間2時間)						
授業方法	参加型の授業を中心に、グループで指導案を作成したり模擬授業を実施したり、事例の検索をして発表したりする。また、模擬授業や事例発表に対する相互評価を行ったり、全体やグループでディスカッションしたりする。						
評価基準と評価方法	・平常点60%(授業やグループ発表での内容や態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想などによる) ・学期末レポート40%(教員として必要な資質や能力に関すること)						
履修上の注意	1. 資料の配布は、各回の出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り配布) 2. 20分以上の遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領(平成29年3月)						
参考書	『小四教育技術8月号増刊「対話」にあふれ「深い学び」を生み出す4年の学級経営』、小学館、2017.7 『小六教育技術8月号増刊「対話」にあふれ「深い学び」を生み出す6年の学級経営』、小学館、2017.7						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・秋山 麗子					科目ナンバ-	K74650
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・秋山） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：秋山） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：秋山） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：秋山） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：秋山） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：秋山） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：秋山） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：秋山） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：秋山） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：秋山） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：秋山） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：秋山） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：秋山）。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 2. 自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 3. 事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。						
授業方法	1. 履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 2. フィールドワークで現場の考察を深める。 3. 模擬授業・保育はグループワークで行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
履修上の注意	1. 最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 2. フィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月上旬土曜に行う補講2コマに注意すること。 4. 2/3以上の出席に満たないと受験資格を失うこと。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。						
参考書	なし。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡靖・井上知子・林 悠子					科目ナンバ-	K74650
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・井上・林） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：林） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：林） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：林） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：林） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：林） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：林） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：林） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：林） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：林） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：林） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：林） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：林）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 2. 自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 3. 事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。						
授業方法	1. 履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 2. フィールドワークで現場の考察を深める。 3. 模擬授業・保育はグループワークで行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
履修上の注意	1. 最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 2. フィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月上旬土曜に行う補講2コマに注意すること。 4. 2/3以上の出席に満たないと受験資格を失うこと。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。						
参考書	なし。						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡靖・井上知子・林 悠子					科目ナンバ-	K74650
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・井上・林） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：井上） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：井上） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：井上） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：井上） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：井上） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：井上） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：井上） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：井上） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：井上） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：井上）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 2. 自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 3. 事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。						
授業方法	1. 履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 2. フィールドワークで現場の考察を深める。 3. 模擬授業・保育はグループワークで行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
履修上の注意	1. 最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 2. フィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月上旬土曜に行う補講2コマに注意すること。 4. 2/3以上の出席に満たないと受験資格を失うこと。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。						
参考書	なし。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	キリスト教保育						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K73740
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教保育の基本となるキリスト教における子ども観を理解する。 キリスト教保育で必要とされる「こどもさんびか」や「聖誕劇」について知る。						
授業の概要	教会暦について知ること、キリスト教と子どもについての基本的な考え方を紹介し、キリスト教保育への導入を図る。 「賛美歌」や「こどもさんびか」などのキリスト教音楽について関心を持ち、親しんでもらうことを目指す。 クリスマスの期間に上演される「聖誕劇」について、台詞や音楽を体験し表現することで、理解を深める。						
到達目標	(1) キリスト教における子ども観について知識のない人にもわかりやすく説明できる【知識・理解】 (2) 「賛美歌」や「こどもさんびか」を歌うこと、指導する方法を身につける【汎用的技能】 (3) キリスト教保育の特色を知り、キリスト教保育への興味・関心を具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス：授業の方法の説明 第2回 キリスト教と子ども：こどもさんびか 1 第3回 生活のうた：こどもさんびか 2 第4回 自然と子ども：こどもさんびか 3 第5回 聖誕劇について1：クリスマスの物語 第7回 聖誕劇について2：登場する人々 第8回 聖誕劇について3：台詞と音楽 第9回 聖誕劇について4：声と楽器のアンサンブル 第10回 ミュージック・ベルの奏法とクリスマスの楽曲 第11回 「聖誕劇」のまとめとディスカッション 第12回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（教会暦） 第13回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（祈り） 第14回 保育シミュレーションとディスカッション、及び ピアノによる礼拝曲（賛美） 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：こどもさんびか等、楽曲の課題は、十分に練習を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所について、配布する資料や参考図書を活用して確認・整理する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業における積極的な取り組み、小テストなど平常点の評価が50%、期末試験が50%。 期末試験：キリスト教保育に対する理解度について評価する。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認を行う。						
履修上の注意	授業は動きやすい服装で受講すること。 出席回数が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	楽譜等、資料はそのつど配布する。						
参考書	・「新キリスト教保育指針」キリスト教保育連盟 発行 ・「こどもさんびか」日本基督教団 発行 その他は授業で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健IA/小児保健A						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K7324A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発育・発達しつつある子どもの育ちや家庭への支援を小児保健の視点から理解する。						
授業の概要	子どもの心身の健康を守り、より積極的な健康を目指すことの重要性を認識し、小児保健・母子保健の意義と母子保健行政の役割について学ぶ。また、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期を経て学童・思春期に至る各時期の子どもの身体発育や生理機能、運動機能並びに精神機能の発達の特長を理解する。さらに、特別な配慮の必要な子ども（障がいのある子ども、病気の子、施設等で生活する子ども、子どもの虐待の防止）への支援についても学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを一人の尊厳ある人間として理解し、常に発育・発達しつつあり、身体的にも精神的にも未熟な存在であるという特徴について具体的事象をもって説明できる（知識・理解/汎用性技能）。</li> <li>2. 我が国の母子保健政策および子どもを取りまく環境についての現状と課題について説明できる（知識・理解/汎用性技能）。</li> <li>3. 胎児期、新生児期から学童に至るまでの各時期の子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達の過程と特徴を理解し、説明できる（知識・理解/汎用性技能）。</li> <li>4. 特別な配慮・支援の必要な子どもの支援について保育者の視点から提案できる（知識・理解/態度・志向性）。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：子どもの健康と保健①「健康の概念と子どもをめぐる環境の変化」</p> <p>第2回：子どもの健康と保健②「母子保健および小児保健統計」</p> <p>第3回：子どもの発育・発達のみちすじ①「胎児期の発育と発達」</p> <p>第4回：子どもの発育・発達のみちすじ②「乳児期前半の発育と発達」</p> <p>第5回：子どもの発育・発達のみちすじ③「乳児期後半の発育と発達」</p> <p>第6回：子どもの発育・発達のみちすじ④「幼児期（1歳半～2歳後半）の発育と発達」</p> <p>第7回：子どもの発育・発達のみちすじ⑤「幼児期（3歳前半～4歳後半）の発育と発達」</p> <p>第8回：子どもの発育・発達のみちすじ⑥「幼児期（5歳前半～6歳後半）の発育と発達」</p> <p>第9回：子どもの発育・発達のみちすじ⑦「学童期の発達と発達」（レポートA作成）</p> <p>第10回：特別な配慮の必要な子どもたち①「障害のある子どもの発達と支援」</p> <p>第11回：特別な配慮の必要な子どもたち②「病気の子どもの発達と支援」</p> <p>第12回：特別な配慮の必要な子どもたち③「施設等で育つ子どもたち」</p> <p>第13回：保育、教育的支援と発達の共感（レポートB作成）</p> <p>第14回：世界の子どもの成長・発達とそれを阻害する状況（グループ発表）</p> <p>第15回：定期テストとまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする、次回で取り上げる内容についての疑問、質問等を、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。第15回では、全講義を通してグループごとに関心のあるテーマを選び、プレゼンテーションを行う。</p> <p>授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>学生に対する評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①定期試験50%</li> <li>②レポート20%</li> <li>③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況20%</li> <li>④グループワーク、発表でのパフォーマンス10%</li> </ol> <p>①定期試験：授業で扱った健康の概念や母子保健、小児保健統計に関する知識、子どもの成長・発達に関する理解度について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。</p> <p>②レポート：子どもの成長・発達過程についての理解度、「発達」に対する自らの興味・関心の明確性・具体性、特別な配慮の必要な子どもへの共感的理解と支援方法に対する興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（3）（4）に関する到達度の確認。</p> <p>③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。</p> <p>④グループワーク、プレゼンテーションでのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワークやプレゼンテーションにおける積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。</p>						

履修上の注意	1. 積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 2. 2/3 以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 3. 遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。
教科書	『発達の扉』上, 初版, 白石正久, かもがわ出版, 978-4876991440
参考書	・ 『発達の扉』下, 初版, 白石正久, かもがわ出版, 978-4876992645 ・ 『子どもの発達と診断』シリーズ, 田中昌人・田中杉江, 大月書店 ・ 『教育と保育のための発達診断』, 初版, 白石正久・白石恵理子, 全障研出版部, 978-4881347744 ・ 『これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健 I』, 初版, 鈴木美枝子編著, 978-4794480712

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健IB/小児保健B						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K7324B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	我が国の母子保健、小児保健、子どもをめぐる現状と課題について理解した上で、子どもにとって望ましい保健的保育、教育的支援について検討する。						
授業の概要	「子どもの保健IA」で学んだことを基礎として、我が国の小児保健、母子保健施策、現代の子どもを取り巻く状況と政策、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもが罹患しやすい一般的な疾患の特徴やその予防、子どもに関わる事故と安全対策、応急処置方法についても学び、保育および教育実践において迅速かつ的確に対応ができるように学習する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の小児保健、母子保健政策の現状と課題について説明できる。(知識・理解)</li> <li>2. 現代の子どもを取りまく状況について理解し、問題点と課題、支援の在り方について説明できる。(知識・理解/汎用性技能)</li> <li>3. 子どもが罹患しやすい代表的な疾患の特徴と予防について理解し、保育および教育場面での対応方法について自らが保育場面にたったときをイメージして具体的に検討できる。(知識・理解/態度・志向性/汎用的技能)</li> <li>4. 子どもに関わる事故と安全対策、応急処置方法について理解し、保育および教育場面での対応方法について自らが保育場面にたったときをイメージして具体的に検討できる。(知識・理解/態度・志向性/汎用的技能)</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：子どもの発達過程についての復習と保育者としてあるべき視点  第2回：子どもをめぐる社会状況と我が国の小児保健、母子保健政策  第3回：望ましい保育環境①「保育現場における衛生管理」  第4回：望ましい保育環境②「子どもの事故」  第5回：望ましい保育環境③「保育現場における安全対策」  第6回：子どもの病気と保育①「子どもの健康状態の把握」  第7回：子どもの病気と保育②「子どものかかりやすい病気1-感染症」  第8回：子どもの病気と保育③「子どものかかりやすい病気2-耳・鼻・のどの病気、消化器系の病気」  第9回：子どもの病気と保育④「子どものかかりやすい病気3-皮膚の病気、泌尿器系の病気、脳神経の病気」  第10回：子どもの病気と保育⑤「子どものかかりやすい病気4-アレルギー疾患」  第11回：子どもの病気と保育⑥「先天異常とその他の病気」  第12回：子どもの病気と保育⑦「病気の子どもの遊びの必要性」  第13回：子どもの病気と保育⑧「感染症と予防接種」  第14回：子どもの病気と保育⑨「応急処置」  第15回：まとめ、グループ発表</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：既に学修を終えた「子どもの保健IA」の内容について復習しておくこと。  各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする(学習時間2時間)  授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義：毎回、テーマについてグループまたはペアでのディスカッションを行う。第15回では、全講義を通してグループごとに関心のあるテーマを選び、ロールプレイおよびプレゼンテーションを行う。  授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してリアクションペーパーの提出を実施する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>①グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス、10%  ②定期試験50%  ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況40%</p> <p>①グループワークでのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワーク、ペアワークや発表における積極性、協働性について評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。  ②定期試験：授業で扱った健康の概念や母子保健、小児保健統計に関する知識、子どもの成長・発達に関する理解度、望ましい保育環境、子どものかかりやすい病気についての知識・理解度について評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。  ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法  優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。</li> <li>・2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。</li> <li>・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。</li> </ul>						

教科書	『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』, 初版, 飯島一誠監修, 稲垣由子, 本田順子, 八木麻理子, 978-4-88924-264-5
参考書	<ul style="list-style-type: none"><li>・『子どもの健康と安全 演習ノート』, 初版, 小林美由紀編著, 978-4-7878-2406-6</li><li>・『これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健 I』, 初版, 鈴木美枝子編著, 978-4794480712』</li><li>・『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル: よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで (ハッピー保育アドバイス)』, 新谷まさこ, 初版, ひかりのくに, 978-4564608520</li><li>・『0〜5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』, 金澤治, 初版, ナツメ社, 978-4816351884</li></ul>

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健II／小児保健演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K74280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者として子どもの心とからだの健康づくりを担うという自覚を持ち、子どもの心身の健康と安全を保持・増進するための保健的知識や技術・方法を実践的に身につける。						
授業の概要	これまで学んできた子どもの発達や基本的な保健知識を保持・増進していくための実践力を身につける。子どもの発達段階と心身の健康状態に応じた支援の仕方を理解するため、講義と演習を取り入れて授業を展開する。演習では、現場の事例や実践などを取り入れながら学びを深めていく。さらに、変化しつつある現代社会における子どもを取り巻く家庭、地域、保育教育施設との連携推進を率先できる力を身につけられるよう図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発育・発達の観察と評価、健康観察と健康管理が適切にできる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> <li>2. 子どもの養護、体調不良への対応、応急手当が適切にできる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> <li>3. 屋内外における望ましい保育環境と安全対策について説明できる。(知識・理解／汎用的技能)</li> <li>4. 子どもの心とからだの健康づくりを、保育者として組織することができる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：導入および子どもの発育・発達の観察と評価① 「演習の意義と心構え、乳児・幼児の計測法とその評価」</p> <p>第2回：子どもの発育・発達の観察と評価②「乳児・幼児の計測の実際-演習」</p> <p>第3回：子どもの発育・発達の観察と評価③「乳児・幼児の計測の評価」</p> <p>第4回：子どもの健康観察と健康管理①「日常の保育における健康観察」</p> <p>第5回：子どもの健康観察と健康管理②「健康診断と健康管理」</p> <p>第6回：子どもの養護と教育①「子どもの養護-だっこ、おんぶ、おむつ、衣類」</p> <p>第7回：子どもの養護と教育②「子どもの養護-沐浴、シャワー浴、清拭」</p> <p>第8回：子どもの養護と教育③ 「子どもの養護-調乳と授乳、離乳食の与え方、清潔と感染予防、日常生活のケア」</p> <p>第9回：子どもの養護と教育④「子どもの養護-演習」(レポートA)</p> <p>第10回：子どもの体調不良への対応①「子どもの主な症状への対応」</p> <p>第11回：子どもの体調不良への対応②「感染症の予防と対策、子どもと薬」</p> <p>第12回：子どもの体調不良への対応③「個別の配慮を必要とする子どもへの支援」</p> <p>第13回：保育における応急手当①「応急手当-講義と演習」</p> <p>第14回：保育における応急手当②「一次救命-講義と演習」(レポートB)</p> <p>第15回：望ましい保育環境と安全対策「屋内外の保育環境と災害への対策、危機管理」</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：これまでの学修を終えた「子どもの保健IA」「子どもの保健IB」の内容を復習しておくこと。演習の前には事前に行った講義の内容該当箇所を必ず復習し、スムーズに演習に挑めるように準備しておくこと(学習時間2時間)</p> <p>授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードとその解説を確認し、確認テストで理解度を確かめる。また、次回の演習に備えて必ず復習・確認しておくこと。(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションやロールプレイを行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。</p> <p>演習：講義で学修した実技項目についてグループまたはペアによる演習を行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。</p> <p>授業の事後学習には、松蔭manabaを利用して確認テストを実施する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>①演習、実技講習でのパフォーマンス40%、到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。</p> <p>②各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容、記述的的確さ等を評価30%、到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認</p> <p>③レポート20%、到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認</p> <p>④グループワークでのパフォーマンス10%、到達目標(3)(4)に関する到達度の確認</p> <p>上記を総合的に評価するが、積極的に授業に参加する等の態度面を重視する。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 優秀レポート、リアクションペーパーについて翌週授業で紹介・解説する。 レポート、リアクションペーパーの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。またそれらに記載された質問については、翌週の授業で紹介・解説する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習中心の講義であるので、積極的に演習に参加する学生の受講を期待する。</li> <li>・2/3以上の出席に満たない者は、単位認定を行わない。</li> <li>・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない(20分以上の遅刻は欠席とみなす)。</li> <li>・演習を実施するのにふさわしい身だしなみや態度に注意すること。</li> <li>・欠席等でその項目の演習が出来ない場合は、別途日程を設定し、演習を行う。</li> </ul>						
教科書	『これならわかる 子どもの保健演習ノート 改定第3版』榊原洋一監修 小林美由紀、診断と治療社、978-4-7878-2289-5						

参考書	<ul style="list-style-type: none"><li>・『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480576</li><li>・『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園・保育要領 原本』内閣府，文部科学省，チャイルド本社，978-4805402580</li><li>・『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』，初版，飯島一誠監修，稲垣由子，本田順子，八木麻理子，978-4-88924-264-5</li><li>・『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル：よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで（ハッピー保育アドバイス）』，新谷まさこ，初版，ひかりのくに，978-4564608520</li><li>・『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』，金澤治，初版，ナツメ社，978-4816351884</li></ul>
-----	--



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健II／小児保健演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K74280
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者として子どもの心とからだの健康づくりを担うという自覚を持ち、子どもの心身の健康と安全を保持・増進するための保健的知識や技術・方法を実践的に身につける。						
授業の概要	これまで学んできた子どもの発達や基本的な保健知識を保持・増進していくための実践力を身につける。子どもの発達段階と心身の健康状態に応じた支援の仕方を理解するため、講義と演習を取り入れて授業を展開する。演習では、現場の事例や実践などを取り入れながら学びを深めていく。さらに、変化しつつある現代社会における子どもを取り巻く家庭、地域、保育教育施設との連携推進を率先できる力を身につけられるよう図る。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発育・発達の観察と評価、健康観察と健康管理が適切にできる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> <li>2. 子どもの養護、体調不良への対応、応急手当が適切にできる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> <li>3. 屋内外における望ましい保育環境と安全対策について説明できる。(知識・理解／汎用的技能)</li> <li>4. 子どもの心とからだの健康づくりを、保育者として組織することができる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：導入および子どもの発育・発達の観察と評価① 「演習の意義と心構え、乳児・幼児の計測法とその評価」</p> <p>第2回：子どもの発育・発達の観察と評価②「乳児・幼児の計測の実際-演習」</p> <p>第3回：子どもの発育・発達の観察と評価③「乳児・幼児の計測の評価」</p> <p>第4回：子どもの健康観察と健康管理①「日常の保育における健康観察」</p> <p>第5回：子どもの健康観察と健康管理②「健康診断と健康管理」</p> <p>第6回：子どもの養護と教育①「子どもの養護-だっこ、おんぶ、おむつ、衣類」</p> <p>第7回：子どもの養護と教育②「子どもの養護-沐浴、シャワー浴、清拭」</p> <p>第8回：子どもの養護と教育③ 「子どもの養護-調乳と授乳、離乳食の与え方、清潔と感染予防、日常生活のケア」</p> <p>第9回：子どもの養護と教育④「子どもの養護-演習」(レポートA)</p> <p>第10回：子どもの体調不良への対応①「子どもの主な症状への対応」</p> <p>第11回：子どもの体調不良への対応②「感染症の予防と対策、子どもと薬」</p> <p>第12回：子どもの体調不良への対応③「個別の配慮を必要とする子どもへの支援」</p> <p>第13回：保育における応急手当①「応急手当-講義と演習」</p> <p>第14回：保育における応急手当②「一次救命-講義と演習」(レポートB)</p> <p>第15回：望ましい保育環境と安全対策「屋内外の保育環境と災害への対策、危機管理」</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：これまでの学修を終えた「子どもの保健IA」「子どもの保健IB」の内容を復習しておくこと。演習の前には事前に行った講義の内容該当箇所を必ず復習し、スムーズに演習に挑めるように準備しておくこと(学習時間2時間)</p> <p>授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードとその解説を確認し、確認テストで理解度を確かめる。また、次回の演習に備えて必ず復習・確認しておくこと。(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションやロールプレイを行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。</p> <p>演習：講義で学修した実技項目についてグループまたはペアによる演習を行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。</p> <p>授業の事後学習には、松蔭manabaを利用して確認テストを実施する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>①演習、実技講習でのパフォーマンス40%、到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。</p> <p>②各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容、記述的的確さ等を評価30%、到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認</p> <p>③レポート20%、到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認</p> <p>④グループワークでのパフォーマンス10%、到達目標(3)(4)に関する到達度の確認</p> <p>上記を総合的に評価するが、積極的に授業に参加する等の態度面を重視する。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 優秀レポート、リアクションペーパーについて翌週授業で紹介・解説する。 レポート、リアクションペーパーの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。またそれらに記載された質問については、翌週の授業で紹介・解説する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習中心の講義であるので、積極的に演習に参加する学生の受講を期待する。</li> <li>・2/3以上の出席に満たない者は、単位認定を行わない。</li> <li>・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない(20分以上の遅刻は欠席とみなす)。</li> <li>・演習を実施するのにふさわしい身だしなみや態度に注意すること。</li> <li>・欠席等でその項目の演習が出来ない場合は、別途日程を設定し、演習を行う。</li> </ul>						
教科書	『これならわかる 子どもの保健演習ノート 改定第3版』榊原洋一監修 小林美由紀、診断と治療社、978-4-7878-2289-5						

参考書	<ul style="list-style-type: none"><li>・『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』, 初版, 飯島一誠監修, 稲垣由子, 本田順子, 八木麻理子, 978-4-88924-264-5</li><li>・『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル: よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで (ハッピー保育アドバイス)』, 新谷まさこ, 初版, ひかりのくに, 978-4564608520</li><li>・『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』, 金澤治, 初版, ナツメ社, 978-4816351884</li></ul>
-----	---

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科研究						
担当教員	村岡 弘朗					科目ナンバ-	K72490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	確かな学力が身に付き、楽しく学べる社会科学習のあり方を追究する						
授業の概要	社会科成立の趣旨を理解し、現在に至るまでの社会科教育史を概観し、小学校社会科教育は、公民的資質の基礎を養うことを究極の目標にしていることに理解する。さらに、学習指導要領で求められている資質・能力、教科の目標や内容を理解する。そして、それに基づいた授業づくりのための指導計画、指導案、教材研究、教材づくりについて理解をふかめ、1時間の授業案が作成できるようになる。						
到達目標	学習指導要領で示された社会科の教育目標や内容、育成を目指す資質・能力について理解を深める（理解・技能） 「問題解決的な学習」の理論を学び、教材や資料を作り、授業案に位置付けることができる。（理解・技能） 授業の各場面における自分の考えを、根拠をもってわかりやすく説明することができる（汎用的技能）						
授業計画	第1回 オリエンテーション：どのような社会科の授業が求められるか。 第2回 社会科教育の出發 第3回 社会科教育の変遷 第4回 学習指導要領で社会科に求められているもの 社会的なものの方・考え方、指導と評価 第5回 第3学年の目標と内容（地域教材・市の学習） 地域の素材、人材、施設を生かす 第6回 第4学年の目標と内容（県の学習） 地図帳の活用 第7回 第5学年の目標と内容（国の学習） 国土と地理的環境 第8回 第6学年の目標と内容（政治単元） 政治に関心を持たせるために 第9回 第6学年の目標と内容（歴史単元） 人物・文化遺産中心の学習 第10回 問題解決的な学習（主体的・対話的で深い学び） 学習問題づくり 第11回 基礎的資料を活用する授業づくり 資料の特性を生かす 第12回 映像資料を活用する授業づくり 具体的でわかりやすい資料の活用 第13回 社会科教育における防災教育①：「生きる力」と社会科 第14回 社会科教育における防災教育②：「阪神・淡路大震災」をどう伝えるか 第15回 まとめ：講義全体を振り返る。テストをする。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：学習にかかわる学習指導要領を読み、課題意識をもって授業に臨めるようにする。（2時間） 授業後：授業で学習したことをノートに整理する。また、授業で話題になった事例や場所などに実際に行き確かめたり、文献等でさらに詳しく調べたりする。（2時間）						
授業方法	重要な項目を講義し、それに関連する演習を行い、自分の考えを交流する。 自分のまとめたものや考えをプレゼンテーションする。						
評価基準と評価方法	[評価基準] ・社会科の理念や歴史的な変遷、学習指導要領で示されている目標や内容について理解できている。 ・各学年の目標や内容をふまえ、問題解決的な学習ができるような教材開発や資料作りができる。 [評価方法] ・毎授業の授業に取り組む態度、演習や授業のまとめ等の記述物・レポート：60% ・テスト：40%						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験の受験資格を失う。						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月）						
参考書	「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」 北俊夫著（明治図書）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K73360
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく学べる社会科学学習のあり方を追求し、新学習指導要領社会科の目標と内容を踏まえた上で、問題解決的学習ができるようにする						
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのまま使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。						
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」を目指して、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導要領の目標と内容を踏まえた問題解決的な学習指導案を作成し【知識・理解】、模擬授業を実践し【汎用的技能(1)】、体験的・実践的な学びを進める【汎用的技能(2)】。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション : 「社会科が好き」な子どもたちを目指して</p> <p>第2回：学習指導要領 : 教育課程のよりどころとしての学習指導要領</p> <p>第3回：社会科の指導について : 問題解決学習と系統学習の関係について</p> <p>第4回：社会科の目標と内容① : 第3・4学年の学習を例に具体的に説明</p> <p>第5回：社会科の目標と内容② : 地図帳の活用について…ゲストスピーカー招聘予定</p> <p>第6回：地域学習、産業学習 : 身近な素材の教材化</p> <p>第7回：歴史学習 : 人物中心の学習</p> <p>第8回：社会科指導案の作成 : 目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方</p> <p>第9回：指導案の作成① : 子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して</p> <p>第10回：模擬授業① : 3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に</p> <p>第11回：指導案の作成 : 板書の工夫を中心に</p> <p>第12回：模擬授業② : 5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」</p> <p>第13回：学習指導案の作成 : 単元の目標の確認と「単元について」の作成</p> <p>第14回：模擬授業③ : 6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」</p> <p>第15回：主体的対話的で深い学びを実現する授業とは？についてまとめる テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：個別の授業については学習指導要領の該当箇所を熟読する。模擬授業を実施するにあたっては、学習指導要領解説の該当箇所を熟読し、教科書での該当箇所を照らし合わせて、指導案を作成する。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業後はノート整理や復習を整理すると共に、教師の発問と児童の発言シートと授業後の研究会で検討したことを参考に作成した指導案を改訂し、提出する。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業を実施するにあたっての指導案作成についての講義</li> <li>・指導案作成についての演習</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<p>〔評価基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科授の授業を実施するにあたって、社会科の目標や内容を理解できている。</li> <li>・模擬授業にあたって学習指導要領の目標と内容踏まえた上で問題解決的な学習を展開することができる。</li> </ul> <p>〔評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（授業への参加度・提出物）30% ・学習指導案と模擬授業の成果 30% ・テスト 40%</li> </ul>						
履修上の注意	参加型の授業をするので、必ず出席し発言をすること 学習指導案などの提出物は、必ず提出すること						
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成29年3月） 文部科学省 楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院						
参考書	小学校社会科教師の専門性の育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会科指導法						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K73360
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく学べる社会科学学習のあり方を追求し、新学習指導要領社会科の目標と内容を踏まえた上で、問題解決的学習ができるようにする						
授業の概要	社会科を得意とする子供は多い、しかし社会科を苦手とする子供も少なくない。社会科はそれほど好き嫌いが極端な教科である。教師の中にも社会科の指導を苦手としているものが少なくない。それは社会が嫌いというよりは地域の特性などで教科書をそのまま使うことができないことなど、社会科の授業の進め方が分からないということに起因していると考えられる。そこで、覚えたり調べたりするだけの学習ではなく、驚きと疑問を解決していく「楽しく学べる社会学習」の指導法を、実際の模擬授業を通して目標に迫っていく。						
到達目標	「楽しい社会科授業づくり」を目指して、子どもたちが満足して学習を終える授業づくりを、学習指導要領の目標と内容を踏まえた問題解決的な学習指導案を作成し【知識・理解】、模擬授業を実践し【汎用的技能(1)】、体験的・実践的な学びを進める【汎用的技能(2)】。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション : 「社会科が好き」な子どもたちを目指して</p> <p>第2回：学習指導要領 : 教育課程のよりどころとしての学習指導要領</p> <p>第3回：社会科の指導について : 問題解決学習と系統学習の関係について</p> <p>第4回：社会科の目標と内容① : 第3・4学年の学習を例に具体的に説明</p> <p>第5回：社会科の目標と内容② : 地図帳の活用について…ゲストスピーカー招聘予定</p> <p>第6回：地域学習、産業学習 : 身近な素材の教材化</p> <p>第7回：歴史学習 : 人物中心の学習</p> <p>第8回：社会科指導案の作成 : 目標、単元について、指導計画、評価計画の書き方</p> <p>第9回：指導案の作成① : 子どもたちの驚きを「学習問題」に高めることを意識して</p> <p>第10回：模擬授業① : 3・4年生の地域学習「教科書の資料」の活用を中心に</p> <p>第11回：指導案の作成 : 板書の工夫を中心に</p> <p>第12回：模擬授業② : 5年生の産業学習「庄内平野の米づくり」</p> <p>第13回：学習指導案の作成 : 単元の目標の確認と「単元について」の作成</p> <p>第14回：模擬授業③ : 6年生の歴史学習「室町時代の政治と文化」</p> <p>第15回：主体的対話的で深い学びを実現する授業とは？についてまとめる テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：個別の授業については学習指導要領の該当箇所を熟読する。模擬授業を実施するにあたっては、学習指導要領解説の該当箇所を熟読し、教科書での該当箇所を照らし合わせて、指導案を作成する。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業後はノート整理や復習を整理すると共に、教師の発問と児童の発言シートと授業後の研究会で検討したことを参考に作成した指導案を改訂し、提出する。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業を実施するにあたっての指導案作成についての講義</li> <li>・指導案作成についての演習</li> </ul>						
評価基準と評価方法	<p>〔評価基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科授の授業を実施するにあたって、社会科の目標や内容を理解できている。</li> <li>・模擬授業にあたって学習指導要領の目標と内容踏まえた上で問題解決的な学習を展開することができる。</li> </ul> <p>〔評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（授業への参加度・提出物）30% ・学習指導案と模擬授業の成果 30% ・テスト 40%</li> </ul>						
履修上の注意	参加型の授業をするので、必ず出席し発言をすること 学習指導案などの提出物は、必ず提出すること						
教科書	小学校学習指導要領解説社会編（平成29年3月） 文部科学省 楽しく学ぶ小学生の地図帳 帝国書院						
参考書	小学校社会科教師の専門性の育成 教育出版 東京学芸大学社会科教育研究室編 授業実践ナビ 社会 文溪堂 安野功著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会的養護／養護原理						
担当教員	大西 能成					科目ナンバ-	K71130
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会的養護の概要を学ぶ						
授業の概要	保育所保育指針に則って、保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行う必要性について学ぶとともに、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」という社会的養護の理念について理解する。そのうえで、社会的養護がどのようにこれまでに展開されてきたのか、また、現在どのような制度・方法の下で行われているのか、といった基本的な内容について理解し、社会的養護の体系や施設養護の実際、役割を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>						
授業計画	第1回オリエンテーション、社会的養護とは 第2回社会的養護の基本理念と原理 第3回社会的養護の現状 第4回社会的養護の歴史 第5回子どもの権利擁護 第6回社会的養護の制度と法体系 第7回社会的養護の仕組みと実施体制 第8回社会的養護の領域と概要(1)：施設養護① 第9回社会的養護の領域と概要(2)：施設養護② 第10回社会的養護の領域と概要(3)：家庭養護 第11回社会的養護に関わる専門職と職業倫理 第12回社会的養護とソーシャルワーク 第13回社会的養護の課題(1)：新しい社会的養育ビジョン 第14回社会的養護の課題(2)：親・家族、地域支援など 第15回まとめ、試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業対象範囲を参考書等で予習すること(60分) 授業後学習：毎回授業後にリアクションペーパーを提出のこと。 また講義資料等により授業で学んだ内容を確認、整理し、不明な点等を明らかにすること(60分) その他：日頃から、社会的養護(児童虐待、児童福祉施設、里親、養子縁組など)に関心を持ち、新聞、テレビ、書籍等が扱う問題等について自分なりの考えを持つこと また、レポート課題について自分の意見等をまとめ、提出すること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点：30% 毎回、授業での学び、感想などに関するコメント、質問等についてリアクションペーパーを提出のこと(各回の到達度等を確認するとともに、講義内容等についての意見などが自分の言葉で書かれているかなどを評価) レポート：20% 提出はもとより、課題に対応した内容・記述の的確さ(自分の考えなどが簡潔かつ分かりやすくまとめられているか)等々を評価 試験：50% 筆記試験により授業全体の目標に対する到達度を確認						
履修上の注意	授業回数2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う なお、遅刻、早退は欠席1/2としてカウントする						
教科書	授業時に資料(プリント)配布						
参考書	新・基本保育シリーズ6「社会的養護I」(中央法規出版) 監修:公益財団法人児童育成協会 編集:相澤仁/林浩康 ISBN 978-4-8058-5786-1 みらい×子どもの福祉ボックス「社会的養護」(みらい) 監修:喜多一憲 編集:堀場純矢 ISBN 978-4-86015-418-9						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉／子ども発達Ⅳ（人権と福祉）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	K73230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉の理念、制度、実践の基礎を学び、保育士としての支援の視点を考察する。						
授業の概要	子どもの健やかな成長・発達は、安定した暮らしを基盤として、年齢に応じた社会参加を通じて促進されていく。しかし、人々が安定した暮らしを確保し、社会参加を進めていく過程で、さまざまな困難と向き合わざるをえないときがある。社会福祉はこのような状況にある人々が困難を解決していくことを支える制度と実践といえる。本授業では、社会福祉の理念と歴史、社会福祉の制度と実施体系、社会福祉における相談援助の概要、権利擁護と苦情解決・評価制度、社会福祉の現状と課題について学びを深めていく。						
到達目標	(1) 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷を説明できる。【知識・理解】 (2) 社会福祉の制度と実施体系を説明できる。【知識・理解】 (3) 社会福祉における相談援助の概要を説明できる。【知識・理解】 (4) 社会福祉における利用者保護の仕組みを説明できる。【知識・理解】 (5) 社会福祉における子ども家庭支援の視点を説明できる。【汎用的技能】 (6) 社会福祉の動向と今日的課題を説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション／社会福祉の理念と歴史①社会福祉の理念と概要 第2回 社会福祉の理念と歴史②社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の理念と歴史③基本的人権と社会福祉 第4回 社会福祉の制度と実施体系①社会福祉の法体系と制度（社会保険、公的扶助を含む） 第5回 社会福祉の制度と実施体系②社会福祉の行財政と計画（社会保険、公的扶助を含む） 第6回 社会福祉の制度と実施体系③社会福祉の実施機関 第7回 社会福祉の制度と実施体系④社会福祉事業と社会福祉施設 第8回 社会福祉の制度と実施体系⑤社会福祉専門職・実施者 第9回 社会福祉における相談援助の概要 第10回 権利擁護と苦情解決・評価制度 第11回 社会福祉の現状と課題①孤立や貧困と地域ネットワークの構築 第12回 社会福祉の現状と課題②高齢・多死社会の到来 第13回 社会福祉の現状と課題③子ども・子育て支援の総合政策 第14回 社会福祉の現状と課題④ノーマライゼーションの現状と課題 第15回 社会福祉の現状と課題⑤国際化と多様性支援の現状と課題 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習 ①プレパレーションペーパーはマナバを通して課題提示する。 テキストの該当箇所、その他資料を用いて取り組み、授業前の期限までに提出する。 プレパレーションペーパーの記述は受講生が閲覧できるように設定するので、 個人の経験を記述する場合は個人情報に留意する。 ②教員への質問はメールをとおしてやりとりする。 ③福祉制度や身近な福祉サービスの社会資源リストを作成する。 ワードやエクセルで作成し、授業過程で更新することが望ましい。 （学習時間120分程度） 授業後学習： ①提出されたプレパレーションペーパーに対する再検討の指示がある場合は、 授業後に、その指示に従って作業を行い、再提出する。 ②講義を通して学んだこと（知識・理解が不十分であったこと、 問題意識をもったことなど）は、忘れないうちにメモをとっておきたい。 ③リアクションペーパーを後日返却する。 コメントがある場合は目を通して、その後の学習に生かしていく。 （学習時間60分程度）						
授業方法	①講義に加え、プレパレーションペーパーを通しての事前学習と授業での活用、 グループワークとプレゼンテーション、リアクションペーパー作成などを組み合わせる。 ②マナバをとおして、教員からの課題の提示、学生によるレポート等の提出、教員からの コメント提示などを行う。						
評価基準と評価方法	1. 点数の配分 ①プレパレーションペーパー：30% ②グループワークとプレゼンテーション：10% ③リアクションペーパー：10% ④期末テスト：50% 2. 目標との関連 知識・技術の目標 (1) 10点 (2) 40点 (3) 10点 (4) 10点：計70点 汎用的技能の目標 (5) 10点 (6) 30点：計30点 採点基準 ・基本を押さえているが不十分である：6割前後 ・基本を押さえている：7割から8割まで						

評価基準と評価方法	・発展性・独自性が認められる：8割から10割
履修上の注意	①プレパレーションペーパーはマナバを通して提示する。 ②資料類、リアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。 欠席者は谷川に連絡して入手すること。 ③実習による欠席については、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成する。さらに、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。 そのほかの欠席時も同様にすることが望ましい。 ③授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。
教科書	『社会福祉概論』，立花直樹・波多埜英治（編著），ミネルヴァ書房，978-4623080847
参考書	『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人に』，棕野美智子・田中耕太郎，有斐閣，978-4641221123 『社会福祉概論 その基礎の学習のために』，西村昇・日開野博・山下正國，中央法規，978-4805854747 『社会福祉』，宇山勝義・小林理（編著），光生館，978-4-332-60102-9 『相談援助』，倉石哲也・大竹智（編著），ミネルヴァ書房，978-4-623-07928-5



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III (障害児と環境)						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	K72210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していけるような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。						
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していけるような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかわるかについて、検討を進めていきたい。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。</li> <li>2. 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。</li> <li>3. 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。</li> <li>4. 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：障害のある子どもと保育</p> <p>第2回：発達の個人差と偏り</p> <p>第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する</p> <p>①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由</p> <p>第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害</p> <p>第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱</p> <p>第6回：支援方法を理解する①「心の支援」</p> <p>第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」</p> <p>第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」</p> <p>第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」</p> <p>第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」</p> <p>第11回：保護者の支援</p> <p>第12回：きょうだいの支援</p> <p>第13回：医療、福祉との連携</p> <p>第14回：個別の教育支援計画</p> <p>第15回：ケーススタディ</p> <p>定期試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業前準備学習：プレパレーションペーパー(レポート)の作成(学習時間120分程度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレパレーションペーパーは「レポート」として評価する。</li> <li>・課題は授業の原則1週間前にマナバに掲示する。テキストの指定箇所(必要に応じて配付資料)を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。テキストの指定箇所(必要に応じて配付資料)を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。</li> <li>・教材・教具の作成等、マナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。</li> <li>・プレパレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。</li> <li>・授業計画とテキストの該当箇所は下記の通りである。</li> <li>・学習状況を踏まえて調整する場合はマナバにて通知する。</li> </ul> </li> </ol> <p>第1回 テキスト lesson1</p> <p>第2回 テキスト lesson2, 3</p> <p>第3回 テキスト lesson4</p> <p>第4回 テキスト lesson4, lesson5</p> <p>第5回 テキスト lesson4</p> <p>第6回 テキスト lesson6</p> <p>第7回 テキスト lesson7</p> <p>第8回 テキスト lesson8</p> <p>第9回 テキスト lesson9</p> <p>第10回 テキスト lesson10</p> <p>第11回 テキスト lesson14</p> <p>第12回 別途配付資料</p> <p>第13回 別途配付資料</p> <p>第14回 テキスト lesson11, 12</p> <p>第15回 テキスト lesson13</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 授業後学習：振り返り(学習時間60分程度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていきたい点を整理する。</li> <li>・ノートと合わせて返却されたリアクションペーパーを整理しておく。</li> <li>・プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。</li> </ul> </li> </ol>						

授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義にグループワーク、発表等を加えて進めていく。</li> <li>・提出されたプレパレーションペーパーの内容と教員のコメントを共有して授業（講義、グループワーク）に活かしていく。</li> <li>・学生が主体となってミニ授業等を行うことがある。</li> </ul>
評価基準と評価方法	<p>定期試験50% レポート35% 発表・提出物15%</p> <p>発表・提出物は、グループワークの成果物やアクションペーパーをさす。</p>
履修上の注意	<p>&lt;連絡&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。</li> </ul> <p>&lt;欠席&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料類やアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取る。</li> <li>・学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。</li> <li>・授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標への配分（各々について定期テスト50%、レポート35%、発表・提出物15%）</li> <li>①障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる（知識・技術）。40点</li> <li>②個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる（汎用的技能）。40点</li> <li>③障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる（知識・技術）。10点</li> <li>④障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる（知識・技術）。10点</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準が下記を基本とする。</li> <li>AA、A：根拠をもって述べることができる、発展性・独自性が認められる。</li> <li>B：おおむね基本を押さえている。</li> <li>C：基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート」として評価する（全体の35%）。記述が不十分な場合には再提出を求めることがある。</li> <li>・グループワークの成果物には、発表やミニ授業とそれに使われた資料類を含む。また、振り返りのためにアクションペーパーの提出を求めることがある。これらは「発表・提出物」として評価する（全体の15%）。</li> </ul> <p>&lt;理解を確実なものとするために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。</li> </ul> <p>&lt;試験について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験は16回目に実施する。</li> <li>・定期試験の詳細は授業中に説明する。</li> </ul>
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木（編）、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7</li> <li>・『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9</li> <li>・『障害児保育』、第2版、鯨岡峻（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3</li> <li>・『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子（編）、全障研出版部、978-4-88134-125-4</li> <li>・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4</li> </ul>

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	K72210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していけるような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。						
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していけるような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかわるかについて、検討を進めていきたい。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。</li> <li>2. 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。</li> <li>3. 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。</li> <li>4. 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：障害のある子どもと保育  第2回：発達の個人差と偏り  第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する  ①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由  第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害  第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱  第6回：支援方法を理解する①「心の支援」  第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」  第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」  第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」  第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」  第11回：保護者の支援  第12回：きょうだいの支援  第13回：医療、福祉との連携  第14回：個別の教育支援計画  第15回：ケーススタディ  定期試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業前準備学習：プレパレーションペーパー（レポート）の作成（学習時間120分程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレパレーションペーパーは「レポート」として評価する。</li> <li>・課題は授業の原則1週間前にマナバに掲示する。テキストの指定箇所（必要に応じて配付資料）を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。テキストの指定箇所（必要に応じて配付資料）を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。教材・教具の作成等、マナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。</li> <li>・プレパレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。</li> <li>・授業計画とテキストの該当箇所は下記の通りである。</li> <li>学習状況を踏まえて調整する場合はマナバにて通知する。</li> </ul> </li> </ol> <p>第1回 テキスト lesson1  第2回 テキスト lesson2, 3  第3回 テキスト lesson4  第4回 テキスト lesson4, lesson5  第5回 テキスト lesson4  第6回 テキスト lesson6  第7回 テキスト lesson7  第8回 テキスト lesson8  第9回 テキスト lesson9  第10回 テキスト lesson10  第11回 テキスト lesson14  第12回 別途配付資料  第13回 別途配付資料  第14回 テキスト lesson11, 12  第15回 テキスト lesson13</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 授業後学習：振り返り（学習時間60分程度） <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていきたい点を整理する。</li> <li>・ノートと合わせて返却されたリアクションペーパーを整理しておく。</li> <li>・プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。</li> </ul> </li> </ol>						

授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義にグループワーク、発表等を加えて進めていく。</li> <li>・提出されたプレパレーションペーパーの内容と教員のコメントを共有して授業（講義、グループワーク）に活かしていく。</li> <li>・学生が主体となってミニ授業等を行うことがある。</li> </ul>
評価基準と評価方法	<p>定期試験50% レポート35% 発表・提出物15%</p> <p>発表・提出物は、グループワークの成果物やアクションペーパーをさす。</p>
履修上の注意	<p>&lt;連絡&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。</li> </ul> <p>&lt;欠席&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料類やアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取る。</li> <li>・学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。</li> <li>・授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標への配分（各々について定期テスト50%、レポート35%、発表・提出物15%）</li> <li>①障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる（知識・技術）。40点</li> <li>②個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる（汎用的技能）。40点</li> <li>③障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる（知識・技術）。10点</li> <li>④障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる（知識・技術）。10点</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準が下記を基本とする。</li> <li>AA、A：根拠をもって述べることができる、発展性・独自性が認められる。</li> <li>B：おおむね基本を押さえている。</li> <li>C：基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート」として評価する（全体の35%）。記述が不十分な場合には再提出を求めることがある。</li> <li>・グループワークの成果物には、発表やミニ授業とそれに使われた資料類を含む。また、振り返りのためにアクションペーパーの提出を求めることがある。これらは「発表・提出物」として評価する（全体の15%）。</li> </ul> <p>&lt;理解を確実なものとするために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。</li> </ul> <p>&lt;試験について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験は16回目に実施する。</li> <li>・定期試験の詳細は授業中に説明する。</li> </ul>
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木（編）、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7</li> <li>・『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9</li> <li>・『障害児保育』、第2版、鯨岡峻（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3</li> <li>・『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子（編）、全障研出版部、978-4-88134-125-4</li> <li>・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4</li> </ul>

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	児童家庭福祉／子ども発達II（児童福祉）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバ-	K72150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	児童家庭福祉の意義と役割						
授業の概要	この科目では、子どもと家庭の捉え方を歴史的経緯の中で理解することで、現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、現代社会における児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスの概要を理解し、こうした制度やサービスの活用の仕方について探究する。そのために児童問題に対応するための児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を学ぶ。児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童家庭福祉の理念、仕組み、法律、制度を理解し、主たる法律、制度を列挙できる。[知識・理解]</li> <li>2 現代の子どもと家庭を取り巻く環境について考え、児童問題とそれに対応する児童家庭福祉制度やサービスについて理解し、活用の仕方について説明できる。[汎用的技能]</li> <li>3 子どもの人権擁護について理解し、考え方や制度等が説明できる。[汎用的技能]</li> <li>4 児童家庭福祉の現状と課題を理解し、今後の展望について考えることができる。[態度・志向性]</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション、児童家庭福祉の理念と概念</li> <li>第2回：児童家庭福祉を取り巻く状況</li> <li>第3回：子どもの人権擁護</li> <li>第4回：児童家庭福祉の歴史（外国）</li> <li>第5回：児童家庭福祉の歴史（日本）</li> <li>第6回：児童家庭福祉の法体系</li> <li>第7回：児童家庭福祉の行政、機関、施設</li> <li>第8回：保育サービス</li> <li>第9回：ひとり親家庭への福祉サービス</li> <li>第10回：子ども虐待の防止とその対応</li> <li>第11回：社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策</li> <li>第12回：障害がある子どもへの福祉施策</li> <li>第13回：非行問題を抱える子どもへの支援</li> <li>第14回：児童家庭福祉の専門職と連携</li> <li>第15回：まとめと試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業該当範囲をテキスト等で予習する（2時間）</li> <li>・日頃から子ども家庭福祉に関する新聞、テレビ、書籍等が扱う問題（児童虐待等）について関心を持ち知識の習得に努めるとともに自分なりの考えを持ちレポートを作成し、提出する（2時間）</li> </ul>						
授業方法	講義を主とするが、テーマによりグループ又はペアによるディスカッションを導入する						
評価基準と評価方法	平常点30%（授業内の提出物、質疑応答） 小レポート20% 試験50%						
履修上の注意	・授業回数の2/3以上の出席に満たない学生は試験の受験資格を失う						
教科書	みらい×子どもの福祉ボックス 「児童家庭福祉」 喜多一憲 監修 堀場純矢 編集 みらい						
参考書	毎回、プリントを配布						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科指導法						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K73390
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「図画工作」の授業を構想し実践する						
授業の概要	柔軟な発想で児童の表現を捉えることができるように、多様な授業場面や児童の表現を実践例を通して学ぶ。図画工作科の教育内容を理解し、図工科研究で学んだ図工科の基本理念を反映して、授業の計画立案、実施、評価を実践的に行う。指導案を作成しそれに基づいて制作した作品をプレゼンテーションすることを含めた模擬授業を行う。						
到達目標	(1) 学習指導要領の目標と内容を解説することができる。 (2) 題材、材料・用具、表現方法などを対象に合わせて選択し、指導案を作成することができる。 (3) 作例を制作し、指導案に沿って模擬授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 学習指導要領における教科の位置付け 第2回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価 (1) : 低学年～中学年の学年別目標を見据えて 第3回 「楽しい造形活動・造形遊び」の指導と評価 (2) : 高学年の学年別目標を見据えて 第4回 「絵に表す」の指導と評価 (1) : 低学年の学年別目標を見据えて 第5回 「絵に表す」の指導と評価 (2) : 中学年～高学年の学年別目標を見据えて (指導の実際: ゲストスピーカーの講義を中心に) 第6回 「立体や工作に表す」の指導と評価 第7回 「鑑賞」の指導と評価 第8回 指導案の作成と授業の準備 (1) 指導案作成 第9回 指導案の作成と授業の準備 (2) 授業案に基づく授業の準備 第10回 学生グループによる模擬授業 (1) 例 : 立体 第11回 学生グループによる模擬授業 (2) : 造形遊び 第12回 学生グループによる模擬授業 (3) : 絵画 第13回 学生グループによる模擬授業 (4) : 工作 第14回 学生グループによる模擬授業 (5) : 鑑賞 第15回 まとめ: 図画工作科における教師の役割・指導と評価						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画に従って授業毎に必要な次回の課題を提示する。各回のシラバスのタイトルにあるワードを参考図書等で調べて理解しておくこと。(学習時間2時間) 授業後学習: 授業回ごとに事後学習用の小課題を課す。各自学習し次回提出する。(学習時間2時間) グループワークの場合は、事後にグループ毎の話し合いをし、問題解決しなかったことについては次回授業で検討する。(学習時間2時間)						
授業方法	演習: 各回テーマに沿ったグループ討議を交えて、発表形式で進める。また、各学年の授業の実践的研究及び模擬授業はグループワークで行う。各回振り返りの時間を設け、授業研究の時間を持つ。						
評価基準と評価方法	模擬授業関連の作品・活動に関わるレポート、発表、模擬授業等80%、日常の提出物、参加態度等20%で評価する。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材 (1年次の図工実技 I で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する) を全員購入すること。各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。						
教科書	小学校図工科教育法』山口善雄・佐藤昌彦・奥村高明編著、建帛社 ISBN 978-4-7679-2113-6 C3037 文部科学省『小学校学習指導要領図画工作編』日本文教出版 ISBN978-4-536-59011- 2C3037						
参考書	図画工作教科書: 日本文教出版 1, 2年 (上下)、3, 4年 (上下)、5, 6年 (上下) 開隆堂 1, 2年 (上下)、3, 4年 (上下)、5, 6年 (上下) その他、適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバ-	K73420
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	個別的な問題行動に対する対処ばかりでなく、全ての児童生徒の人格を高める積極的な生徒指導の在り方を考える						
授業の概要	教職に就くものとして、生徒指導を単なる問題行動の対応ではなく、学級経営を含めた児童の健全育成に資する開発促進的な広義なものとして捉え、教員のなるための資質向上を図る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の意義や原理について理解し、全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について検討する。【知識・理解】</li> <li>・児童生徒の生徒指導上の課題を把握し、チームとしての学校を確立し、外部の関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を検討する。【汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 オリエンテーション積極的生徒指導の意義と原理 第2回 生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について 第3回 学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて 第4回 全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について 第5回 学校における問題行動の現状と課題 第6回 いじめについて具体的な対応策の検討（事例研究） 第7回 不登校について、家庭訪問を含めた対応策を検討する（事例研究） 第8回 児童虐待について、児童相談所や警察との連携を通じた対応策について（事例研究） 第9回 発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて 第10回 校種間連携の現状と課題（講義と事例研究） 第11回 青少年の学校外の生活と生徒指導について -児童生徒の問題行動（インターネットや性的問題等）をめぐる学校・家庭・地域・関係機関との連携の現状と課題- 第12回 生徒指導と学級・学校経営について 第13回 問題行動に対する懲戒と関連法規について 第14回 キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方 第15回 積極的生徒指導のまとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で行う教科書の当該箇所について、「生徒指導提要」や参考書を基に、問題行動への対応という視点だけでなく、積極的な生徒指導の視点を持って授業に備える。（学習時間2時間） 授業後学習：授業で配布したプリントを基に、内容の要点箇所を確認する（学習時間2時間）						
授業方法	講義とロールプレイによる演習、短縮事例研究を活用したグループワークなど、参加型のプログラムを通して、実践的な予防と開発など積極的生徒指導の方法を獲得できるようにする。						
評価基準と評価方法	授業内での討議への参加度、短縮事例研究のやりアクションペーパーによる記述 50% 期末試験：授業で扱った理論の理解、具体的な対応の仕方の解釈 50%						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを中心に授業を進めていくので、積極的に話し合いに参加すること</li> <li>・グループワーク中の退席は認めません</li> </ul>						
教科書	文部科学省「生徒指導提要」平成22年3月 教育図書						
参考書	中村豊「子どもの社会性を育む積極的生徒指導」学事出版						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	総合的な学習の時間の指導法						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバ-	
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	「総合的な学習の時間」の意義について理解し、授業として実践するための基礎を身に付ける。						
授業の概要	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す教科外学習である。ここでは、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを児童生徒は行う必要がある。そこで、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につけることを目指す。						
到達目標	「総合的な学習の時間」の理念や意義への理解を深めるために、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。【知識・理解】また、総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。【汎用的技能】このとき、総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「総合的な学習の時間」の成立、現状と課題 第3回 総合学習の源流：歴史的背景 第4回 総合学習の源流：各国における試み 第5回 現場実践の紹介：体験学習としてのものづくり 第6回 「総合的な学習の時間」で取り組むキャリア教育 第7回 「総合的な学習の時間」で取り組む生命教育と食育 第8回 「総合的な学習の時間」で取り組む環境教育と国際理解教育 第9回 生徒指導と「総合的な学習の時間」 第10回 「総合的な学習の時間」において求められる教師の力量 第11回 「総合的な学習の時間」の指導計画づくり（第3学年、第4学年） 第12回 「総合的な学習の時間」の指導計画を発表する（第3学年、第4学年） 第13回 「総合的な学習の時間」の指導計画づくり（第5学年、第6学年） 第14回 「総合的な学習の時間」の指導計画を発表する（第5学年、第6学年） 第15回 「総合的な学習の時間」における評価とまとめ：ポートフォリオ評価を中心に						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：総合的な学習の時間の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、総合的な学習の時間の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業毎の課題：30%、指導計画の提出：40%、発表：30%						
履修上の注意	使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月） 中園大三郎編著 総合的な学習・探求の時間の指導－学習指導要領に準拠した理論と実践－（令和2年1月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	相談援助／社会福祉援助技術						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	K73260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育士に求められる相談援助の知識と技術を学び、支援過程を検討する。						
授業の概要	人々はそれぞれのライフコースにおいて自分らしくありたいと願い、安定した暮らしを確保し、社会に参加することを通して、ウェルビーイングを得ることができる。その過程は、いつも順調とは限らず、重い病気や障害、失業、社会的孤立、DVなどの生活問題に直面することがある。相談援助は、これらの生活問題に直面する人々をエンパワメントし、問題解決を支える専門的な支援といえる。それは、困難を抱える個人や家族に対する支援だけでなく、地域や制度に働きかける支援なども含む。 本講義では、相談支援の理念と方法を学ぶことで、保育士が寄り添う子どもと家族がさまざまな生活問題を抱えるとき、どのようにかかわり、問題解決を支援できるのか、学びを深めていく。						
到達目標	(1)相談援助の定義、ベースにある人間観と倫理観、生活課題とその解決の捉え方などの概要を説明できる。【知識・理解】 (2)相談援助の方法と技術について説明でき、保育士が用いる相談援助の方法と技術について意見を述べることができる。【知識・理解】 (3)相談援助の具体的展開の諸局面の各々の位置、役割、課題を、事例を通して検討できる。【汎用的技能】 (4)保育所における相談援助事例を通して、相談援助の展開を決定づけている保育士（保育所）の判断と行動を抽出、整理し、総合的に評価、検討できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション／相談援助とは何か①相談援助の意義 第2回 相談援助とは何か②相談援助の理論 第3回 相談援助とは何か③相談援助の機能 第4回 相談援助とは何か④相談援助とソーシャルワーク 第5回 相談援助とは何か⑤保育とソーシャルワーク 第6回 相談援助の方法と技術①相談援助の対象 第7回 相談援助の方法と技術②相談援助の展開過程 第8回 相談援助の方法と技術③相談援助の技術・アプローチ 第9回 相談援助の具体的展開①相談援助の計画・記録・評価 第10回 相談援助の具体的展開②関係機関との協働 第11回 相談援助の具体的展開③多様な専門職との連携 第12回 相談援助の具体的展開④社会資源の活用、調整、開発 第13回 事例の検討①虐待・ネグレクトへの支援 第14回 事例の検討②発達に課題がある子どもとその保護者への支援 第15回 事例の検討③ロールプレイ、フィールドワークによる事例の理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習 ①プレパレーションペーパーはマナバを通して課題提示する。 テキストの該当箇所、その他資料等を検索するなどして参照の上完成させ、授業前の期限までに提出する。 提出後のプレパレーションペーパーは受講生が閲覧できるように設定するので、個人の経験を記述する場合は個人情報に留意する。 ②教員への質問はメールを通してやりとりする。 ③授業に向けて必要な福祉制度、身近な福祉サービスなどの社会資源リストを作成し、更新していくことが望まれる。 (学習時間120分程度) 2. 授業後学習 ①演習を通して学んだこと（知識・理解が不十分であったこと、授業で得た視点、新たな情報など）は各自ノートに整理する。 とくに他者（他の受講生）の視点に学ぶことで視野を広げるので、留意されたい。 ②リアクションペーパーは後日返却する。 コメントが入っている場合は目を通し、その後の学習に生かすこと。 必要があれば教員に質問をすること。 (学習時間60分程度)						
授業方法	①グループワークとプレゼンテーションを基本とする。 ②グループワークは提出したプレパレーションペーパーを基礎に行う。 プレパレーションペーパーの解答の不十分さを補うなど、必要に応じて、ワークの前に教員が解説を行う。 ③プレゼンテーションはグループワークの成果を発表し、意見交換を行う。 ④マナバを通して教員からの課題提示、学生によるレポートの提出、教員の評価とコメント提示などを行う。						
評価基準と評価方法	1. 点数の配分 ①プレパレーションペーパー：20% ②グループワーク・発表：30% ③リアクションペーパー：10% ④最終のレポート：40% 2. 目標との関連 知識・理解の目標 (1) 30点 (2) 20点 汎用的技能の目標 (3) 30点 (4) 20点						

評価基準と評価方法	<p>3. 採点の基本的な基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の押さえが不十分である：6割前後</li> <li>・基本を押さええている：7割から8割まで</li> <li>・発展性・独自性が認められる：8割から10割</li> </ul>
履修上の注意	<p>① プレパレーションペーパー、レポート課題はマナバで提示する。</p> <p>② 資料類、リアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。 欠席者は谷川に連絡して入手すること。</p> <p>③ 演習であるので、出席して取り組んだことを重視して評価する。 実習による欠席者は、実習終了後にプレパレーションペーパーを作成する。 また、その回の演習課題に関する考察をA4判、1枚程度にまとめて提出する。 そのほかの理由での欠席でも同様に対応することが望ましい。</p> <p>④ 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験（レポートによる）の受験資格を失うものとする。</p>
教科書	『相談援助』 倉石哲也・大竹智（編），ミネルヴァ書房，978- 4623079285
参考書	<p>『ソーシャルワーク論』，空閑浩人，ミネルヴァ書房，978-4623075553</p> <p>『社会福祉概論 その基礎学習のために』西村昇ほか（編著），中央法規，978-4-8058-5474-7</p> <p>『ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック』 ジョアン・ラーセン，明石書房，978-4750341712</p>

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	相談援助／社会福祉援助技術						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ-	K73260
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育士に求められる相談援助の知識と技術を学び、支援過程を検討する。						
授業の概要	人々はそれぞれのライフコースにおいて自分らしくありたいと願い、安定した暮らしを確保し、社会に参加することを通して、ウェルビーイングを得ることができる。その過程は、いつも順調とは限らず、重い病気や障害、失業、社会的孤立、DVなどの生活問題に直面することがある。相談援助は、これらの生活問題に直面する人々をエンパワメントし、問題解決を支える専門的な支援といえる。それは、困難を抱える個人や家族に対する支援だけでなく、地域や制度に働きかける支援なども含む。 本講義では、相談支援の理念と方法を学ぶことで、保育士が寄り添う子どもと家族がさまざまな生活問題を抱えるとき、どのようにかわり、問題解決を支援できるのか、学びを深めていく。						
到達目標	(1)相談援助の定義、ベースにある人間観と倫理観、生活課題とその解決の捉え方などの概要を説明できる。【知識・理解】 (2)相談援助の方法と技術について説明でき、保育士が用いる相談援助の方法と技術について意見を述べるができる。【知識・理解】 (3)相談援助の具体的展開の諸局面の各々の位置、役割、課題を、事例を通して検討できる。【汎用的技能】 (4)保育所における相談援助事例を通して、相談援助の展開を決定づけている保育士（保育所）の判断と行動を抽出、整理し、総合的に評価、検討できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション／相談援助とは何か①相談援助の意義 第2回 相談援助とは何か②相談援助の理論 第3回 相談援助とは何か③相談援助の機能 第4回 相談援助とは何か④相談援助とソーシャルワーク 第5回 相談援助とは何か⑤保育とソーシャルワーク 第6回 相談援助の方法と技術①相談援助の対象 第7回 相談援助の方法と技術②相談援助の展開過程 第8回 相談援助の方法と技術③相談援助の技術・アプローチ 第9回 相談援助の具体的展開①相談援助の計画・記録・評価 第10回 相談援助の具体的展開②関係機関との協働 第11回 相談援助の具体的展開③多様な専門職との連携 第12回 相談援助の具体的展開④社会資源の活用、調整、開発 第13回 事例の検討①虐待・ネグレクトへの支援 第14回 事例の検討②発達に課題がある子どもとその保護者への支援 第15回 事例の検討③ロールプレイ、フィールドワークによる事例の理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習 ①プレパレーションペーパーはマナバを通して課題提示する。 テキストの該当箇所、その他資料等を検索するなどして参照の上完成させ、授業前の期限までに提出する。 提出後のプレパレーションペーパーは受講生が閲覧できるように設定するので、個人の経験を記述する場合は個人情報に留意する。 ②教員への質問はメールを通してやりとりする。 ③授業に向けて必要な福祉制度、身近な福祉サービスなどの社会資源リストを作成し、更新していくことが望まれる。 (学習時間120分程度) 2. 授業後学習 ①演習を通して学んだこと（知識・理解が不十分であったこと、授業で得た視点、新たな情報など）は各自ノートに整理する。 とくに他者（他の受講生）の視点に学ぶことで視野を広げるので、留意されたい。 ②リアクションペーパーは後日返却する。 コメントが入っている場合は目を通し、その後の学習に生かすこと。 必要があれば教員に質問をすること。 (学習時間60分程度)						
授業方法	①グループワークとプレゼンテーションを基本とする。 ②グループワークは提出したプレパレーションペーパーを基礎に行う。 プレパレーションペーパーの解答の不十分さを補うなど、必要に応じて、ワークの前に教員が解説を行う。 ③プレゼンテーションはグループワークの成果を発表し、意見交換を行う。 ④マナバを通して教員からの課題提示、学生によるレポートの提出、教員の評価とコメント提示などを行う。						
評価基準と評価方法	1. 点数の配分 ①プレパレーションペーパー：20% ②グループワーク・発表：30% ③リアクションペーパー：10% ④最終のレポート：40% 2. 目標との関連 知識・理解の目標 (1) 30点 (2) 20点 汎用的技能の目標 (3) 30点 (4) 20点						

評価基準と評価方法	<p>3. 採点の基本的な基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の押さえが不十分である：6割前後</li> <li>・基本を押さええている：7割から8割まで</li> <li>・発展性・独自性が認められる：8割から10割</li> </ul>
履修上の注意	<p>① プレパレーションペーパー、レポート課題はマナバで提示する。</p> <p>② 資料類、リアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。 欠席者は谷川に連絡して入手すること。</p> <p>③ 演習であるので、出席して取り組んだことを重視して評価する。 実習による欠席者は、実習終了後にプレパレーションペーパーを作成する。 また、その回の演習課題に関する考察をA4判、1枚程度にまとめて提出する。 そのほかの理由での欠席でも同様に対応することが望ましい。</p> <p>④ 授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験（レポートによる）の受験資格を失うものとする。</p>
教科書	『相談援助』 倉石哲也・大竹智（編），ミネルヴァ書房，978- 4623079285
参考書	<p>『ソーシャルワーク論』，空閑浩人，ミネルヴァ書房，978-4623075553</p> <p>『社会福祉概論 その基礎学習のために』西村昇ほか（編著），中央法規，978-4-8058-5474-7</p> <p>『ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック』 ジョアン・ラーセン，明石書房，978-4750341712</p>

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えられるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	現場で求められている、理科を教えられる小学校の教員となるため、理科教育の知識や技能を興味深く修得し、また具体的な先行事例について調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。3年生のゼミ内容を引き継いで内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	(1) 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力を身につけ、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーションをすることができる。【汎用的技能】 (2) 自立した人間として自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きようとする。【態度・志向性】 (3) 小学校で理科の授業を行える知識技術を身につけ、模擬授業などで発揮できる。【知識・理解】						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 5年生「植物の発芽、成長、結実」学習内容と実験 第03回 5年生「植物の発芽、成長、結実」模擬授業 第04回 5年生「流水の働き」学習内容と実験 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 5年生「流水の働き」模擬授業 第07回 6年生「燃焼の仕組み」学習内容と実験 第08回 6年生「燃焼の仕組み」模擬授業 第09回 6年生「水溶液の性質」学習内容と実験 第10回 6年生「水溶液の性質」模擬授業 第11回 6年生「てこの規則性」学習内容と実験 第12回 6年生「てこの規則性」模擬授業 第13回 研究テーマの設定(1) 第14回 研究テーマの設定(2) 第15回 中間まとめ 第16回 6年生「電気の利用」学習内容と実験 第17回 6年生「電気の利用」模擬授業 第18回 先行事例研究、輪読1(小学校3年理科) 第19回 先行事例研究、輪読2(小学校4年理科) 第20回 先行事例研究、輪読3(小学校5年理科) 第21回 先行事例研究、輪読4(小学校6年理科) 第22回 中間報告 第23回 教材研究開発1 第24回 教材研究開発2 第25回 教材研究開発3 第26回 教材研究開発4 第27回 発表、指導1 第28回 発表、指導2 第29回 発表、指導3 第30回 まとめ(小学校理科を教えるには)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で取り扱う単元の予習、先行研究調査、文献検索、データ収集などを行う(学習時間2時間) 授業後学習：松蔭manabaを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する(学習時間2時間)						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	理科研究、理科指導法、教育発達演習ABの内容を確認復習しておくこと。						

教科書	無し
参考書	

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えられるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	現場で求められている、理科を教えられる小学校の教員となるため、理科教育の知識や技能を興味深く修得し、また具体的な先行事例について調査研究をしながらその方法を身に付けることを内容とする。3回生のゼミ内容を引き継いで内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	(1) 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力を身につけ、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーションをすることができる。【汎用的技能】 (2) 自立した人間として自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きようとする。【態度・志向性】 (3) 小学校で理科の授業を行える知識技術を身につけ、模擬授業などで発揮できる。【知識・理解】						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 5年生「植物の発芽、成長、結実」学習内容と実験 第03回 5年生「植物の発芽、成長、結実」模擬授業 第04回 5年生「流水の働き」学習内容と実験 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 5年生「流水の働き」模擬授業 第07回 6年生「燃焼の仕組み」学習内容と実験 第08回 6年生「燃焼の仕組み」模擬授業 第09回 6年生「水溶液の性質」学習内容と実験 第10回 6年生「水溶液の性質」模擬授業 第11回 6年生「てこの規則性」学習内容と実験 第12回 6年生「てこの規則性」模擬授業 第13回 研究テーマの設定(1) 第14回 研究テーマの設定(2) 第15回 中間まとめ 第16回 6年生「電気の利用」学習内容と実験 第17回 6年生「電気の利用」模擬授業 第18回 先行事例研究、輪読1(小学校3年理科) 第19回 先行事例研究、輪読2(小学校4年理科) 第20回 先行事例研究、輪読3(小学校5年理科) 第21回 先行事例研究、輪読4(小学校6年理科) 第22回 中間報告 第23回 教材研究開発1 第24回 教材研究開発2 第25回 教材研究開発3 第26回 教材研究開発4 第27回 発表、指導1 第28回 発表、指導2 第29回 発表、指導3 第30回 まとめ(小学校理科を教えるには)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で取り扱う単元の予習、先行研究調査、文献検索、データ収集などを行う(学習時間2時間) 授業後学習：松蔭manabaを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する(学習時間2時間)						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	理科研究、理科指導法、教育発達演習ABの内容を確認復習しておくこと。						

教科書	無し
参考書	



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育方法学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業では、各学生が、自分のテーマの基本文献を素材にした発表や、論文の構想の発表を交代で行い、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、テーマの深め方や論文のまとめ方に関する指導を適宜行う。</li> <li>「卒業研究」の成果を論文にまとめるために、論文に書き方についても詳細に指導する。学期末には成果を発表する場を設け、学生による相互評価と教員による成績評価を行う。</li> <li>卒業論文のために、学生は主体的に学ぶ。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>学生自身のよりよい保育・教育実践の糧となるような研究を行う。</li> <li>学術論文に必要な調査・思考を実際に体験し、学士としてふさわしい卒業論文を執筆する</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションおよびレポートをコメントをつけて返却する。</p> <p>第2回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第3回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第4回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第5回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第6回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第7回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第8回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第9回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第10回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第11回 卒業論文の構想発表</p> <p>第12回 卒業論文の構想発表</p> <p>第13回 卒業論文の構想発表</p> <p>第14回 卒業論文の構想発表</p> <p>第15回 論文のまとめ方・書き方について指導する。</p> <p>第16回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第17回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第18回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第19回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第20回 論文執筆と個別指導</p> <p>第21回 論文執筆と個別指導</p> <p>第22回 論文執筆と個別指導</p> <p>第23回 論文執筆と個別指導</p> <p>第24回 論文執筆と個別指導</p> <p>第25回 卒業論文の初校の発表と検討</p> <p>第26回 卒業論文の初校の発表と検討</p> <p>第27回 卒業論文の初校の発表と検討</p> <p>第28回 卒業論文の報告会と相互評価</p> <p>第29回 卒業論文の報告会と相互評価</p> <p>第30回 まとめ：研究成果を自分の進路にいかんにかきかき議論する</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>卒業論文執筆に向けて、各自図書館で文献を探すなど、下記時間に関わらず自覚的に時間をかけて、質にこだわること</li> <li>事前学習：発表に向けて自ら調べる（2時間）</li> <li>事後学習：発表等で得たコメントを基に深める（2時間）</li> </ol> <p>2. 学年末には相互評価を行うため、批判的な読み方、作文指導の素養を、自らの研究の過程で習得するよう励むこと</p>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>前半は、先行研究を整理し、各自のテーマにおける学術的な論点を模索する</li> <li>後半は、発見した論点について、様々な角度から迫る文献を読み、必要に応じてインタビューなどの手法を取り入れて、説得力のある文章を書き、論文を仕上げる。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業毎の課題および発表：50点</li> <li>卒業論文：50点</li> </ol>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>全員が自分のテーマで、複数回発表する。</li> <li>毎回の授業で、他の学生の報告について、コメントを必ず行う。</li> </ol>						

教科書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスを行う。
参考書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスを行う。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育方法学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回の授業では、各学生が、自分のテーマの基本文献を素材にした発表や、論文の構想の発表を交代で行い、発表内容について学生全員で議論する。教員も議論に加わり、テーマの深め方や論文のまとめ方に関する指導を適宜行う。</li> <li>2. 「卒業研究」の成果を論文にまとめるために、論文に書き方についても詳細に指導する。学期末には成果を発表する場を設け、学生による相互評価と教員による成績評価を行う。</li> <li>3. 卒業論文のために、学生は主体的に学ぶ</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生自身のよりよい保育・教育実践の糧となるような研究を行う。</li> <li>2. 学術論文に必要な調査・思考を実際に体験し、学士としてふさわしい卒業論文を執筆する</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションおよびレポートをコメントをつけて返却する。</p> <p>第2回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第3回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第4回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第5回 レポートに沿って進捗を発表する。</p> <p>第6回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第7回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第8回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第9回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第10回 テーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解について指導する。</p> <p>第11回 卒業論文の構想発表</p> <p>第12回 卒業論文の構想発表</p> <p>第13回 卒業論文の構想発表</p> <p>第14回 卒業論文の構想発表</p> <p>第15回 論文のまとめ方・書き方について指導する。</p> <p>第16回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第17回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第18回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第19回 卒業論文の進捗報告</p> <p>第20回 論文執筆と個別指導</p> <p>第21回 論文執筆と個別指導</p> <p>第22回 論文執筆と個別指導</p> <p>第23回 論文執筆と個別指導</p> <p>第24回 論文執筆と個別指導</p> <p>第25回 卒業論文の初校の発表と検討</p> <p>第26回 卒業論文の初校の発表と検討</p> <p>第27回 卒業論文の初校の発表と検討</p> <p>第28回 卒業論文の報告会と相互評価</p> <p>第29回 卒業論文の報告会と相互評価</p> <p>第30回 まとめ：研究成果を自分の進路にいかんにかきかき議論する</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業論文執筆に向けて、各自図書館で文献を探すなど、下記時間に関わらず自覚的に時間をかけて、質にこだわること</li> </ol> <p>事前学習：発表に向けて自ら調べる（2時間）  事後学習：発表等で得たコメントを基に深める（2時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 学年末には相互評価を行うため、批判的な読み方、作文指導の素養を、自らの研究の過程で習得するよう励むこと</li> </ol>						
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前半は、先行研究を整理し、各自のテーマにおける学術的な論点を模索する</li> <li>2. 後半は、発見した論点について、様々な角度から迫る文献を読み、必要に応じてインタビューなどの手法を取り入れて、説得力のある文章を書き、論文を仕上げる。</li> </ol>						
評価基準と評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業毎の課題および発表：50点</li> <li>2. 卒業論文：50点</li> </ol>						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全員が自分のテーマで、複数回発表する。</li> <li>2. 毎回の授業で、他の学生の報告について、コメントを必ず行う。</li> </ol>						

教科書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスを行う。
参考書	各自のテーマに応じて、適宜アドバイスを行う。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	音楽教育について、自らの問題意識に沿って、卒業研究としてまとめる。						
授業の概要	それぞれの課題について、レポートの作成、発表、全員での討論を交えて授業を進める。メンバー間での討論や発表で的確な表現力を身につける。						
到達目標	<p>1. 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断することができる。【汎用的技能】</p> <p>2. 現代に求められる音楽教育のあり方について、自分の考えを的確に表現することができるようになる【汎用的技能】</p> <p>3. 自身の将来におけるよりよい保育・教育実践に活かすことができる【態度・志向性】</p> <p>2. 、学士としてふさわしい卒業論文を執筆する</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 3年次に進めてきた研究テーマについての確認。</p> <p>第3回 3年次に進めてきた研究テーマについての確認。</p> <p>第4回 テーマに関する先行研究や関連図書の収集。</p> <p>第5回 テーマに関する先行研究や関連図書の収集。</p> <p>第6回 文献の解読について指導する。各自の研究を進める。</p> <p>第7回 文献の解読について指導する。各自の研究を進める。</p> <p>第8回 文献の解読について指導する。各自の研究を進める。</p> <p>第9回 研究の進捗状況を発表。</p> <p>第11回 発表と討論1</p> <p>第12回 発表と討論2</p> <p>第13回 個別指導。</p> <p>第14回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。</p> <p>第15回 レポート提出</p> <p>第16回 夏季休暇中の進捗状況について報告する。</p> <p>第17回 研究報告について全体への指導。</p> <p>第18回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。</p> <p>第19回 これまでの研究成果の中間発表。</p> <p>第20回 中間発表に対する指導。方向性の確認。</p> <p>第21回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。</p> <p>第22回 個別指導。</p> <p>第23回 論文の構成の確認。</p> <p>第24回 個別指導。</p> <p>第25回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。</p> <p>第26回 個別指導。全員での討論の時間を設ける。</p> <p>第27回 卒業研究の仮提出</p> <p>第28回 卒業研究の提出</p> <p>第29回 卒業研究発表についての指導</p> <p>第30回 卒業研究の成果発表</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	それぞれの研究を進める。授業では、進捗状況の確認と修正を行う。 (学習時間：4時間)						
授業方法	演習 個別指導						
評価基準と評価方法	課題への取り組みとゼミ活動への積極的な参加 50% 中間発表 20% 最終発表30% 卒業研究論文の提出は必須。						
履修上の注意	レポート等提出物の期日、発表の期日を厳守すること。 学外に見学、研修などに出かけて、交通費その他の費用が発生する場合には自己負担となる。						

教科書	適宜指示をする。
参考書	そのつど紹介する。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育政策学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。						
授業の概要	「教育学演習A・B」での学びに基づいて、学生が自らが興味があるテーマについて、先行研究を調べ、研究のテーマを設定する。仮説を立て、これを検証するための妥当な研究方法（インタビュー、アンケート、文献研究など）を指導を受けながら選択し、研究を行う。「卒業研究」の成果をまとめるために、論文の書き方や作品としての表現の仕方についても詳細に指導を行う。複数回の中間報告の場を持ち、成果を発表し、学生や教員からのコメントや助言を踏まえて、探究を深め、論文や作品としての完成度を高める。なお、テーマに応じて論文以外にも、制作や表現も認め、大学における4年間の学びの集大成としての成果を一つの作品として完成させる。						
到達目標	①卒業論文のテーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解方法を学習する。【知識・理解】 ②参加者が興味・関心のある教育政策学等の基本学術論文・文献を、各自で調べて議論を重ねて、卒業論文を作成する。【汎用的技能】 ③自分の興味関心のテーマをより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「教育学演習A・B」での学びに基づき、卒業論文のテーマを各自で整理し発表する。 第3回 卒業論文のテーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解方法について解説する。 第4回 図書館での論文ガイダンス（1） 第5回 先行研究：近年における教育政策の改革動向 第6回 先行研究：論文と図書 第7回 先行研究の収集状況に対する報告（1） 第8回 先行研究の収集状況に対する報告（2） 第9回 先行研究の収集に対する検討・反省 第10回 卒業論文の構想発表：課題を考える 第11回 卒業論文の構想発表：テーマを仮設定する 第12回 卒業論文の構想発表：構成を考える 第13回 卒業論文の構想発表：文章を作成する 第14回 卒業論文の全体に対する質疑応答 第15回 前期の振り返りと後期の見通し 第16回 卒業論文の進捗状況についての報告 第17回 図書館での論文ガイダンス（2） 第18回 卒業論文の発表と検討：テーマを調整する 第19回 卒業論文の発表と検討：テーマを調整する 第20回 卒業論文の発表と検討：補足資料を検索する 第21回 卒業論文の発表と検討：補足資料を検索する 第22回 卒業論文の発表と検討：文章を作成・追加する 第23回 卒業論文の発表と検討：文章を作成・追加する 第24回 中間のまとめと質疑応答 第25回 学生による発表① 第26回 学生による発表② 第27回 学生による発表③ 第28回 全員でのグループ討論と相互評価 第29回 卒業論文の全体に対する質疑応答 第30回 全体のまとめと進路の報告						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）						
授業方法	1. 前半は先行研究を整理し、関連図書の収集・読解方法を学習する。 2. 中盤は各自のテーマにおける学術的な論点を模索し、論文の構成を考える。 3. 後半は各自の成果を発表し、学生や教員からのコメントや助言を踏まえて、探究をさらに深め、論文を仕上げる。						
評価基準と評価方法	平常点20%（コメントカードや授業での発言など）到達目標①、③に関する到達度の確認 発表点30%（授業毎の課題および発表）到達目標②、③に関する到達度の確認 卒業論文50%（自分のテーマ）。到達目標①、②、③に関する到達度の確認						
履修上の注意	1. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。 2. 全員が教科書や自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員が積極的に発言する。						

教科書	各自のテーマに応じて、個別指導を行う。
参考書	各自のテーマに応じて、個別指導を行う。



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	特別支援教育またはインクルーシブ教育に関する卒業論文の執筆（あるいは作品・表現の完成と評価）を通して、学問としての特別支援教育を探求し、教育現場における実践力の基礎固めを行い、学士課程教育の集大成とする。						
授業の概要	「教育学演習A・B」での学びに基づいて、学生が自らが興味があるテーマについて、先行研究を調べ、研究のテーマを設定する。仮説を立て、これを検証するための妥当な研究方法（インタビュー、アンケート、文献研究など）を指導を受けながら選択し、研究を行う。「卒業研究」の成果をまとめるために、論文の書き方や作品としての表現の仕方についても詳細に指導を行う。複数回の中間報告の場を持ち、成果を発表し、学生や教員からのコメントや助言を踏まえて、探究を深め、論文や作品としての完成度を高める。なお、テーマに応じて論文以外にも、制作や表現も認め、大学における4年間の学びの集大成としての成果を一つの作品として完成させる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育またはインクルーシブ教育に関する研究テーマを立て、先行研究及び諸資料との対話によって背景を整理し、研究の目的や意義（論文でどこまで明らかにするか、作品・表現のコンセプトなど）やそれに応じた研究方法を設定し、他者が理解できる研究論文として執筆することができる。（汎用的技能）</li> <li>2. 研究倫理に従って研究をすすめることができる。（汎用的技能）</li> <li>3. 特別支援教育やインクルーシブ教育にかんする興味・関心を研究上の問いとして昇華し、問いに対する自分なりの答えを導く作業を通して、教育現場で働くときの視点につなぐことができる（態度・志向性）。</li> <li>4. 受講生同士が、互いの研究過程とときどきの思い、視点、悩みなどを共有し、支援し合うチーミングを展開し、対話的な姿勢を深めることができる。（態度・志向性）</li> </ol>						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：3年生で決めた卒業論文のテーマを振り返り発表する</p> <p>第3回：テーマの調整と先行研究・諸資料の収集計画</p> <p>第4回：特別支援教育の研究法（1）：文献研究（理論研究、歴史研究）の方法を学ぶ。</p> <p>第5回：特別支援教育の研究法（2）：フィールドワークやアンケート・インタビュー調査の技法を学ぶ。</p> <p>第6回：特別支援教育に関する先行研究・諸資料のレビューの実施（1）：収集状況報告とレビューの視点の明確化</p> <p>第7回：特別支援教育に関する先行研究・諸資料のレビューの実施（2）：レビュー結果の発表</p> <p>第8回：特別支援教育に関する先行研究・諸資料のレビューの実施（3）：レビュー結果の発表の続き</p> <p>第9回：目的の明確化と方法の設定（1）：目的の絞り込みと方法の調整、倫理審査の要否判断</p> <p>第10回：目的の明確化と方法の設定（2）：研究方法の手続き・手順の調整</p> <p>第11回：目的の明確化と方法の設定（3）：目的と方法並びに手順の決定</p> <p>第12回：研究計画の発表</p> <p>第13回：背景・目的・方法の執筆と計画の進捗状況報告（1）：計画全体の発表と修正</p> <p>第14回：背景・目的・方法の執筆と計画の進捗状況報告（2）：修正した計画の発表と再吟味</p> <p>第15回：夏休みの計画発表</p> <p>第16回：夏休みまでの進捗状況の報告</p> <p>第17回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（1）：研究目的や研究の背景にかんする対話</p> <p>第18回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（2）：研究方法にかんする対話</p> <p>第19回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（3）：研究結果、考察にかんする対話</p> <p>第20回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（4）：中間報告の作成</p> <p>第21回：全体での中間報告</p> <p>第22回：中間報告を基にした議論</p> <p>第23回：1次稿の作成と提出</p> <p>第24回：1次稿のグループ内での相互検討と教員の指導（1）：研究目的と研究背景、研究方法にかんする対話</p> <p>第25回：1次稿のグループ内での相互検討と教員の指導（2）：研究結果と考察にかんする対話</p> <p>第26回：学生・教員による1次稿の課題や問題点の整理・共有</p> <p>第27回：2次稿の作成と提出</p> <p>第28回：卒業論文の最終報告の作成と準備</p> <p>第29回：最終報告会</p> <p>第30回：卒業論文の反省会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う文献を予習する。図書館なども活用する。分からなかったところや疑問点を整理して、議論に備える。発表担当者は、レジュメを作成し、発表の練習を行う。加えて、後半（第10回～第14回）については、自分のテーマについて事前に調べておく必要がある。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：発表や議論で出た論点や意見を復習し、自分の問いを立て深める上での参考とする。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	演習：適宜、文献以外にも視聴覚教材も用いて、学生相互の議論を行う。発表分担は授業内に決める。発表、レジュメやレポートの作成などについては、授業内外で教員と相談しながら進める。						
評価基準と評価方法	発表やゼミ運営への参加55%、課題提出45%						

履修上の注意	・議論を通じて多様な意見のやりとりを楽しみ、ときには悩みながら学びましょう。 ・授業での議論が中心になるので、出席は重視します。 ・必要に応じて、学外に研修・見学に行く場合があります。その場合にかかる交通費その他費用について自己負担となります。
教科書	とくに設定しない。
参考書	授業中に適宜指示をする。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	子どもの健康分野についての論文作成						
授業の概要	子どもの健康教育を主とした内容で、「教育発達演習A・B」での学習をもとに、それぞれの研究テーマに沿って進めていく。 研究方法は調査研究、文献研究とし、先行研究を熟読したうえで卒業研究の作成に取り組む。 3年次の研究計画に基づき、計画的に進め、研究目的から結果が得られるよう完成させる。						
到達目標	(1) 卒業研究に関する文献を収集し課題を意識し講読することができる【知識・理解】 (2) テーマに沿った文献を講読発表し、他者に説明できる【汎用的技能】 (3) 先行研究を熟読したうえで、構成に基づき論文を仕上げる【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて</li> <li>2. 研究テーマの検討</li> <li>3. 研究テーマ設定</li> <li>4. 研究テーマについてディスカッション</li> <li>5. プロポーザルについて</li> <li>6. プロポーザル発表 -子どもに関して-</li> <li>7. プロポーザル発表 -保護者・保育者に関して-</li> <li>8. 論文の書き方 -構成について-</li> <li>9. 論文の書き方 -引用方法-</li> <li>10. 文献検索</li> <li>11. 先行研究の検討</li> <li>12. 中間発表に向けて</li> <li>13. 中間発表 -子どもに関して-</li> <li>14. 中間発表 -保護者・保育者に関して-</li> <li>15. 論文作成</li> <li>16. 論文作成 -考察のまとめ方-</li> <li>17. 論文作成</li> <li>18~27 個別指導</li> <li>28. 卒研発表に向けて</li> <li>29~30 卒業研究発表会</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマの沿った先行研究、新聞等文献の収集（学習時間3時間） 授業後学習：卒研発表に向け、論文の見直しやパワーポイント等の発表準備（学習時間3時間）						
授業方法	全体指導と個別指導 講義では、テーマの設定、論文の構成の考え方、引用文献の用い方を説明する。 個別指導では、構成に沿って論文を書きながら課題を見つけ完成させる。						
評価基準と評価方法	論文に対する積極的な発表や質問。到達目標 (1) (2) 20% 論文作成。到達目標 (3) 60% 卒研発表。到達目標 (2) 20%						
履修上の注意	研究テーマに基づき意欲的に進める。特に就活や実習と時期が重なることがあるので計画を立て臨むこと。						
教科書	内容に応じて資料を配布する。						
参考書	「よくわかる論文の書き方」 白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 「spssで学ぶ統計分析入門」 馬場浩也 東洋経済新報社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	子どもの健康分野についての論文作成						
授業の概要	子どもの健康教育を主とした内容で、「教育発達演習A・B」での学習をもとに、それぞれの研究テーマに沿って進めていく。 研究方法は調査研究、文献研究とし、先行研究を熟読したうえで卒業研究の作成に取り組む。 3年次の研究計画に基づき、計画的に進め、研究目的から結果が得られるよう完成させる。						
到達目標	(1) 卒業研究に関する文献を収集し課題を意識し講読することができる【知識・理解】 (2) テーマに沿った文献を講読発表し、他者に説明できる【汎用的技能】 (3) 先行研究を熟読したうえで、構成に基づき論文を仕上げる【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて</li> <li>2. 研究テーマの検討</li> <li>3. 研究テーマ設定</li> <li>4. 研究テーマについてディスカッション</li> <li>5. プロポーザルについて</li> <li>6. プロポーザル発表 -子どもに関して-</li> <li>7. プロポーザル発表 -保護者・保育者に関して-</li> <li>8. 論文の書き方 -構成について-</li> <li>9. 論文の書き方 -引用方法-</li> <li>10. 文献検索</li> <li>11. 先行研究の検討</li> <li>12. 中間発表に向けて</li> <li>13. 中間発表 -子どもに関して-</li> <li>14. 中間発表 -保護者・保育者に関して-</li> <li>15. 論文作成</li> <li>16. 論文作成 -考察のまとめ方-</li> <li>17. 論文作成</li> <li>18~27 個別指導</li> <li>28. 卒研発表に向けて</li> <li>29~30 卒業研究発表会</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマの沿った先行研究、新聞等文献の収集（学習時間3時間） 授業後学習：卒研発表に向け、論文の見直しやパワーポイント等の発表準備（学習時間3時間）						
授業方法	全体指導と個別指導 講義では、テーマの設定、論文の構成の考え方、引用文献の用い方を説明する。 個別指導では、構成に沿って論文を書きながら課題を見つけ完成させる。						
評価基準と評価方法	論文に対する積極的な発表や質問。到達目標 (1) (2) 20% 論文作成。到達目標 (3) 60% 卒研発表。到達目標 (2) 20%						
履修上の注意	研究テーマに基づき意欲的に進める。特に就活や実習と時期が重なることがあるので計画を立て臨むこと。						
教科書	内容に応じて資料を配布する。						
参考書	「よくわかる論文の書き方」 白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 「spssで学ぶ統計分析入門」 馬場浩也 東洋経済新報社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ-	K04140
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	乳幼児の発達研究と養育・保育の場における理論と実践に関する研究 卒業研究への取り組み						
授業の概要	概要：ここでは「教育発達演習A・B」での研究をもとに、卒業研究に取り組みます。自己の研究課題をもとに、先行研究を購読し、研究目的および仮説設定を行い、プロポーザルを完成させるとともに、それに基づいた実験・調査・観察等を本格的に実施し、そこから得た結果をまとめ、考察して卒業論文を作成します。						
到達目標	(1) 自己課題をもとにテーマを設定し、それに関連した学術書や学術論文の購読を通して、専門的な知識や理論、研究の流れを説明できる。【知識・理解】 (2) テーマに基づいた理論や先行研究を整理し、それらを活かして自己の研究課題をプレゼンテーションすることができる。【汎用的技術】 (3) 研究結果を活かして、乳幼児の教育・保育、保育実践を考えようとする意識をもつ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 自己課題の設定と研究法について 第3回 文献輪読・グループディスカッション(1) 第4回 文献輪読・グループディスカッション(2) 第5回 文献輪読・グループディスカッション(3) 第6回 文献輪読・グループディスカッション(4) 第7回 文献輪読・グループディスカッション(5) 第8回 中間報告 第9回 文献購読・プロポーザルの作成(1) 第10回 実験・調査計画 第11回 実験・調査方法 第12回 実験・調査の実施 第13回 実験・調査の結果のまとめ 第14回 中間レポートの作成 第15回 中間報告プレゼンテーション 第16回 研究の目的について 第17回 先行研究の整理とまとめ 第18回 研究目的と研究方法 第19回 研究方法と結果 第20回 結果のまとめ方(1) 第21回 結果のまとめ方(2) 第22回 結果のまとめ方(3) 第23回 結果と考察(1) 第25回 結果と考察(2) 第26回 結果と考察(3) 第27回 文献整理 第28回 要約と発表レジメの作成 第29回 プレゼンテーション準備 第30回 プレゼンテーション						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前の準備学習：各授業で取り扱うテーマを自己決定し、先行研究を検索してレジメをさくせいする。(学習時間2時間) 授業後の準備学習：各授業で討議した結果をまとめ、レジメをもとに、研究の今後の方向性を再考し、まとめる。(学習時間2時間)						
授業方法	グループワークあるいは個人研究を中心とします。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート(30)・プレゼンテーション(20)・報告書(50)						
履修上の注意	個別指導を中心とするので、主体的に取り組むことを望みます。						
教科書	必要に応じて示します。						

参考書	必要に応じて示す。
-----	-----------

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	乳幼児の発達研究と養育・保育の場における理論と実践に関する研究 卒業研究への取り組み						
授業の概要	概要：ここでは「教育発達演習A・B」での研究をもとに、卒業研究に取り組みます。自己の研究課題をもとに、先行研究を購読し、研究目的および仮説設定を行い、プロポーザルを完成させるとともに、それに基づいた実験・調査・観察等を本格的に実施し、そこから得た結果をまとめ、考察して卒業論文を作成します。						
到達目標	(1) 自己課題をもとにテーマを設定し、それに関連した学術書や学術論文の購読を通して、専門的な知識や理論、研究の流れを説明できる。【知識・理解】 (2) テーマに基づいた理論や先行研究を整理し、それらを活かして自己の研究課題をプレゼンテーションすることができる。【汎用的技術】 (3) 研究結果を活かして、乳幼児の教育・保育、保育実践を考えようとする意識をもつ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 自己課題の設定と研究法について 第3回 文献輪読・グループディスカッション(1) 第4回 文献輪読・グループディスカッション(2) 第5回 文献輪読・グループディスカッション(3) 第6回 文献輪読・グループディスカッション(4) 第7回 文献輪読・グループディスカッション(5) 第8回 中間報告 第9回 文献購読・プロポーザルの作成(1) 第10回 実験・調査計画 第11回 実験・調査方法 第12回 実験・調査の実施 第13回 実験・調査の結果のまとめ 第14回 中間レポートの作成 第15回 中間報告プレゼンテーション 第16回 研究の目的について 第17回 先行研究の整理とまとめ 第18回 研究目的と研究方法 第19回 研究方法と結果 第20回 結果のまとめ方(1) 第21回 結果のまとめ方(2) 第22回 結果のまとめ方(3) 第23回 結果と考察(1) 第25回 結果と考察(2) 第26回 結果と考察(3) 第27回 文献整理 第28回 要約と発表レジメの作成 第29回 プレゼンテーション準備 第30回 プレゼンテーション						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前の準備学習：各授業で取り扱うテーマを自己決定し、先行研究を検索してレジメをさくせいする。(学習時間2時間) 授業後の準備学習：各授業で討議した結果をまとめ、レジメをもとに、研究の今後の方向性を再考し、まとめる。(学習時間2時間)						
授業方法	グループワークあるいは個人研究を中心とします。						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート(30)・プレゼンテーション(20)・報告書(50)						
履修上の注意	個別指導を中心とするので、主体的に取り組むことを望みます。						
教科書	必要に応じて示します。						

参考書	必要に応じて示す。
-----	-----------



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	保育・教育の質的研究を深めて卒業論文にまとめよう。						
授業の概要	1. 保育・教育を扱う教科書について学生が報告する。 2. 学生の関心に応じた調査と発表を教員が支援する。 3. 卒業研究の中間報告と論文作成を教員が指導する。						
到達目標	1. 保育・教育の専門家としての知識・思考の水準を引き上げる【知識・理解】。 2. 問い一追及一答え、論理とデータを兼ね備えた文章を書ける【汎用的技能】。 3. 発表と執筆を繰り返して学士号に価する研究を完成させる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 卒業研究オリエンテーション(1) 第2回 図書館での論文ガイダンス(1) 第3回 教科書(1): 幼児教育の意義はどこにあるか? 第4回 教科書(2): 現代の日本の子どもの特徴とは? 第5回 教科書(3): 幼児教育のための内容と方法は? 第6回 教科書(4): 保幼小の連携をいかに進めるか? 第7回 教科書(5): 労働・社会保障としての教育は? 第8回 教科書(6): 投資部門と職業希望への道筋は? 第9回 学生による中間報告(1): テーマを作る 第10回 学生による中間報告(2): 資料を探す 第11回 学生による中間報告(3): 構成を考える 第12回 学生による中間報告(4): 文章を整える 第13回 学生による発表と質疑(1) 第14回 学生による発表と質疑(2) 第15回 前期の振り返りと後期の見通し 第16回 卒業研究オリエンテーション(2) 第17回 図書館での論文ガイダンス(2) 第18回 学生による中間報告(6): テーマを調整する 第19回 学生による中間報告(7): テーマを調整する 第20回 学生による中間報告(8): 資料を探す 第21回 学生による中間報告(9): 資料を探す 第22回 学生による中間報告(10): 構成を考える 第23回 学生による中間報告(11): 構成を考える 第24回 学生による中間報告(12): 文章を整える 第25回 学生による中間報告(13): 文章を整える 第26回 学生による発表と質疑(1) 第27回 学生による発表と質疑(2) 第28回 学生による発表と質疑(3) 第29回 3年生向けの卒研発表会 第30回 4年間の振り返りと進路の報告						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	1. 教科書の分担した部分の発表を準備すること(学習時間40時間)。 2. 自分のテーマで卒業研究報告を準備すること(学習時間40時間)。 3. 3年生向けに卒業研究の発表を準備すること(学習時間40時間)。						
授業方法	1. 序盤は教科書を使った報告と質疑を中心とする。 2. 中盤は各自の卒業研究の中間報告を中心とする。 3. 終盤は卒業研究の発表と質疑応答を中心とする。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点(コメントカードや授業中の発言など)。 2. 発表点20点(担当したプレゼンと質疑応答による)。 3. 卒業論文50点(各自のテーマで12月中に仕上げる)。						
履修上の注意	1. 全員が教科書と自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員に質疑応答を義務づける。 3. 原則として欠席が10回を超えた場合不可とする。						
教科書	なし						

参考書	『希望をつむぎだす幼児教育』、鬢櫛久美子・石川昭義、あいり出版、978-4-901903-79-0。 図書館での論文ガイダンスを活用し、自分の興味・問題に沿って検索すること。
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	松岡 靖					科目ナンバ-	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	保育・教育の質的研究を深めて卒業論文にまとめよう。						
授業の概要	1. 保育・教育を扱う教科書について学生が報告する。 2. 学生の関心に応じた調査と発表を教員が支援する。 3. 卒業研究の中間報告と論文作成を教員が指導する。						
到達目標	1. 保育・教育の専門家としての知識・思考の水準を引き上げる【知識・理解】。 2. 問い一追及一答え、論理とデータを兼ね備えた文章を書ける【汎用的技能】。 3. 発表と執筆を繰り返して学士号に価する研究を完成させる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 卒業研究オリエンテーション(1) 第2回 図書館での論文ガイダンス(1) 第3回 教科書(1)：幼児教育の意義はどこにあるか？ 第4回 教科書(2)：現代の日本の子どもの特徴とは？ 第5回 教科書(3)：幼児教育のための内容と方法は？ 第6回 教科書(4)：保幼小の連携をいかに進めるか？ 第7回 教科書(5)：労働・社会保障としての教育は？ 第8回 教科書(6)：投資部門と職業希望への道筋は？ 第9回 学生による中間報告(1)：テーマを作る 第10回 学生による中間報告(2)：資料を探す 第11回 学生による中間報告(3)：構成を考える 第12回 学生による中間報告(4)：文章を整える 第13回 学生による発表と質疑(1) 第14回 学生による発表と質疑(2) 第15回 前期の振り返りと後期の見通し 第16回 卒業研究オリエンテーション(2) 第17回 図書館での論文ガイダンス(2) 第18回 学生による中間報告(6)：テーマを調整する 第19回 学生による中間報告(7)：テーマを調整する 第20回 学生による中間報告(8)：資料を探す 第21回 学生による中間報告(9)：資料を探す 第22回 学生による中間報告(10)：構成を考える 第23回 学生による中間報告(11)：構成を考える 第24回 学生による中間報告(12)：文章を整える 第25回 学生による中間報告(13)：文章を整える 第26回 学生による発表と質疑(1) 第27回 学生による発表と質疑(2) 第28回 学生による発表と質疑(3) 第29回 3年生向けの卒研発表会 第30回 4年間の振り返りと進路の報告						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	1. 教科書の分担した部分の発表を準備すること(学習時間40時間)。 2. 自分のテーマで卒業研究報告を準備すること(学習時間40時間)。 3. 3年生向けに卒業研究の発表を準備すること(学習時間40時間)。						
授業方法	1. 序盤は教科書を使った報告と質疑を中心とする。 2. 中盤は各自の卒業研究の中間報告を中心とする。 3. 終盤は卒業研究の発表と質疑応答を中心とする。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点(コメントカードや授業中の発言など)。 2. 発表点20点(担当したプレゼンと質疑応答による)。 3. 卒業論文50点(各自のテーマで12月中に仕上げる)。						
履修上の注意	1. 全員が教科書と自分のテーマで何度か発表する。 2. 毎回の授業で学生全員に質疑応答を義務づける。 3. 原則として欠席が10回を超えた場合不可とする。						
教科書	なし						

参考書	『希望をつむぎだす幼児教育』、鬢櫛久美子・石川昭義、あいり出版、978-4-901903-79-0。 図書館での論文ガイダンスを活用し、自分の興味・問題に沿って検索すること。
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科学研究						
担当教員	前田 正登					科目ナンバ-	K71440
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践						
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における指導の領域を理解し、指導する力を身につける。また、幼児教育、中等教育との接続を踏まえ、自身の身体能力を高めることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通してコミュニケーション能力を育成し、教師としてこれらを育成する前提となる学習を行う。さらに、論理的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたって運動に親しむことができるように指導する能力を養う。						
到達目標	小学校における体育科を考えると、低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならない。本授業の到達目標は、①各学年において学習する運動領域を理解する【知識・理解】、②小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高める【汎用的技能】、の2つができることとする。						
授業計画	授業計画 第1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 第2回 小学校体育の意義とねらい 第3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 第4回 幼児期の運動遊び 第5回 小学校体育の考え方 第6回 からだほぐし運動 第7回 からだづくり運動 第8回 ボール運動（中学年） 第9回 ボール運動（高学年） 第10回 子どもの体力と遊び 第11回 走・跳の運動 第12回 器械運動（マット・跳び箱） 第13回 ボール運動（ゴール型） 第14回 ボール運動（ベースボール型） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	小学校学習指導要領解説 体育編および小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年・中学年・高学年を読み、各学年の目標や内容を把握しておくこと。（準備のための学習：1.5時間）。また、授業後にはその授業回のテーマおよび内容についてまとめるとともに発展型として、その回のテーマでの授業指導案を簡易的に作成する（応用の学習：2.5時間）。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業態度(50%)、課題達成度(30%)、レポート(20%)						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師になるための授業であることを理解し、まじめに取り組むこと。</li> <li>・授業に臨む態度は厳正に評価する。</li> <li>・演習にあたっては、運動に適した服装で、シューズを着用し頭髪などの身なりを整えて受講すること。</li> <li>・12回以上出席すること。</li> </ul> ※ 授業に関する質問は授業の前後に受け付けます。それ以外の時間帯は、教職支援センターに申し出てください。						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月） 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年・中学年・高学年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科指導法						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K73370
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校「体育科」の指導法について学ぶ						
授業の概要	小学校体育における教科と学年における各領域について理解し、その指導方法を習得することにある。児童生徒が自ら意欲的に楽しく、かつ安全に取り組めるよう教師として授業方法の工夫を考える必要がある。教師としての理念、専門的な知識について学ぶ。また、近年問題になっている児童の保健に関する授業の在り方を考えていく。						
到達目標	(1) 各学年における目標と運動領域を十分に理解している【知識・理解】 (2) 運動や保健領域における各学年の目標と内容を理解し、指導案を作成することができる【汎用的技能】 (3) 各学年と領域から、単元を設定し指導案に基づいて授業が展開できる【態度・志向性】						
授業計画	第1回 授業概要と小学校体育の役割 第2回 幼児期から小学校体育へのつながり 第3回 新体力テストの実施概要 第4回 中学年における器械運動（マット） 第5回 高学年における器械運動（マット） 第6回 中学年・高学年における器械運動（跳び箱） 第7回 体づくり運動 第8回 走・挑の運動 第9回 陸上運動 第10回 ボール運動（ゴール型・ベースボール型） 第11回 ボール運動（ネット型） 第12回 運動会における問題点・組体操を考える 第13回 保健－毎日の生活と健康－ 第14回 保健－育ちゆく体とわたし 第15回 到達目標の確認とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：小学校学習要領「体育編」を熟読し、体育科研究で学んだ内容を振り返り、学年の理解を深めておくこと。（学習時間3時間） 授業後学習：模擬授業終了後、各自、反省を踏まえ新たに指導案を作成する（授業時間2時間）						
授業方法	講義：小学校学習指導要領[体育編]から、教科の目標および内容について講義する。 各学年の運動・保健領域を理解し指導案を立案する。 演習：指導案に基づき、模擬授業を行う。その後、発表者、受講者の振り返りをする。						
評価基準と評価方法	授業内での提出：指導案30%、発表者についてのリアクションペーパー30%。到達目標（1）（2） 模擬授業 40%、到達目標（3）						
履修上の注意	(1) 小学校教諭になることをイメージして、基本的な服装、態度、言葉に留意すること。 (2) 意欲的に授業に臨み、自己評価や他者評価が積極的にできるよう受講する。 (3) 授業回数の3分の1以上の欠席は認めない。						
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版 ISBN978-4-491-02375-5C3037						
参考書	全単元・全時間の授業のすべて 藤崎敬 東洋館出版 (1年から6年) 1年 ISBN978-4-491-02655-8 2年 978-4-491-02656-5 3年 978-4-491-02657-2 4年 978-4-491-02658-9 5年 978-449102659-6 6年 978-4-491-02660-2						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	特別支援教育入門						
担当教員	金丸・渡部・谷川・垂髪					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。						
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、金丸が、特別支援教育の歴史・思想の事項、渡部が特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱いながら、金丸・渡部が共同で行う。						
到達目標	<p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。</p> <p>(3) 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。</p>						
授業計画	第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないの要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。						
履修上の注意	・定期試験（70%）・レポート（30%）						
教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』 吉利 宗久，是永 かな子，大沼 直樹培風館 ISBN 9784563052492						

参考書	参考書・参考資料等 ・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』，玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ，ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』，渡部昭男編，三学出版，ISBN978-4-903520-70-4
-----	---



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	乳児保育／乳児保育演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバ-	K72200
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳児期の子どもの豊かな発達について理解し、子どもが主体性を発揮できるような乳児保育の在り方について検討する。						
授業の概要	乳児期は人としての基礎を培う大切な時期と言われている。この科目では、0,1,2歳児の発達の特徴について学ぶことでどのような保育が必要かを理解できるようにする。また、障害のある乳児の理解と支援についても学ぶ。さらに、保護者との連携のもとでより質の高い保育を目指すことができるよう、具体的な事例を紹介しつつ、乳児保育を担当する保育者の役割についても理解を図っていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが主体的であるためにはどのような乳児保育が必要であることを理解し、説明できる。(知識・理解／汎用性技能)</li> <li>2. 人としての基礎を培う乳児期の体と心の発達について理解し、説明できる。(知識・理解／汎用性技能)</li> <li>3. 乳児期の豊かな発達を支える生活リズムやおとなの配慮等について、保育現場に立ったときをイメージして具体的に説明できる。(知識・理解／態度・志向性／汎用的技能)</li> <li>4. 乳児のための適切な保育環境について考え、説明や提示ができる。(知識・理解／汎用的技能)</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：導入「子どもが主体的に育つための乳児保育とは」</p> <p>第2回：0歳児への保育①「0～3カ月児への保育」</p> <p>第3回：0歳児への保育②「4～6カ月児への保育」</p> <p>第4回：0歳児への保育③「7～9カ月児への保育」</p> <p>第5回：0歳児への保育④「10～12カ月児への保育」</p> <p>第6回：0歳児への保育⑤「0歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」(レポートA)</p> <p>第7回：1歳児への保育①「13～15カ月児への保育」</p> <p>第8回：1歳児への保育②「16～24カ月児への保育」</p> <p>第9回：1歳児への保育③「1歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」(レポートB)</p> <p>第10回：2歳児への保育①「25～36カ月児への保育」</p> <p>第11回：2歳児への保育③「2歳児クラスの日課、遊びの空間と道具の整備」</p> <p>第12回：保護者との連携、在宅保育支援</p> <p>第13回：特別な配慮の必要な乳児への保育(レポートC)</p> <p>第14回：子どもの発達に応じた環境づくり①「乳児の発達に応じた空間と道具の整備」</p> <p>第15回：子どもの発達に応じた環境づくり②とまとめ(プレゼンテーション)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする(学習時間2時間)</p> <p>授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ(ペア)ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。第14～15回では、全講義を通しての学修を踏まえて、グループまたはペアで手作りおもちゃを作成し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>①定期試験 50%</p> <p>②レポート 45%</p> <p>③グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス 5%</p> <p>①定期試験：授業で扱った乳児保育の意義、乳児の発達過程、乳児への望ましい保育環境等に関する理解度について評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。</p> <p>②レポートA, B, C：0歳児、1歳児、2歳児それぞれの発達過程とそれに対する保育の在り方についての理解度、「発達」に対する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>③グループワーク、ペアワーク、発表でのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワークや発表における積極性、協働性について評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。</li> <li>・2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。</li> <li>・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。</li> </ul>						

教科書	『乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために』, 吉本和子, 第6版, エイデル出版社, 978-4871683432
参考書	参考書・参考資料等 ・『睡眠・食事・生活の基本（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻）』, 三池輝久, 上野有理, 小西行郎他, 初版, 中央法規出版, 978-4805854181 ・『運動・遊び・音楽（赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第2巻）』, 小西行郎, 小西薫, 志村洋子, 日本赤ちゃん学協会編, 初版, 中央法規出版, 978-4805854198 ・『乳児の発達と保育-遊びと育児』, 園と家庭を結ぶ「げんき」編集部, 初版, エイデル研究所, 978-4871684927 ・『抱っこを育てる乳児保育-育児担当者がめざすもの』樋口正春, 初版, 解放出版社, 978-4759222630

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	発達障害の理解／子ども心理Ⅳ（発達障害）						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバ-	K73700
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発達のアンバランスの理解と支援						
授業の概要	近年の教育・保育現場で注目されている発達アンバランス（発達障害）について正しい理解を持ち、適切な支援策を講じることができるような知識基盤を得ることを目的とする。 LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどについて概説し、発達障害児の特性を十分知った上で、学校や日常生活場面での彼らに対する適切な教育・訓練や対応の仕方を学ぶ。障害を持つ人が社会で誇りと満足を持って生きていくにはどうすればいいかを考えるきっかけとしたい。受講人数次第では論文講読・グループ発表を行う。						
到達目標	発達アンバランスについての知識を得て、各種の障害に応じた教育・保育活動を工夫できる（汎用的技能(1)）。 。将来の教育・保育現場を見据えて、発達障害児への対処法を学び、適切なコミュニケーションの準備ができる（汎用的技能(2)）。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. LD 特徴、ワーキングメモリー</li> <li>2. LD 事例、支援</li> <li>3. ADHD 特徴、査定</li> <li>4. ADHD 事例、支援、大人のADHD</li> <li>5. ASD/PDD 特徴、原因</li> <li>6. ASD/PDD 事例、訓練</li> <li>7. ASD/PDD 支援の取り組み</li> <li>8. 知的遅滞 特徴、心理査定、支援の事例</li> <li>9. ダウン症 特徴</li> <li>10. 認知訓練の実際 中間テスト</li> <li>11. 論文講読① 「発達障害の特徴」</li> <li>12. 論文講読② 「自閉症について」</li> <li>13. 論文講読③ 「園での発達障害児の支援の方法」</li> <li>14. 論文講読④ 「学校での発達障害児の支援の方法」</li> <li>15. 論文講読⑤ 「発達障害者の社会参加」</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①授業前に各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、②授業後には授業中に示した課題について報告文を作成し、①と②を合わせてA4紙1枚の3/4以上に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間①2時間、②2時間						
授業方法	講義、視聴覚教材、討論、論文講読と発表						
評価基準と評価方法	中間テストにて発達障害に関する知識を問う（30%）。他に、発表のわかりやすさ・本人理解（30%）、筆記試験（40%）などにより総合的に評価を行う。						
履修上の注意	発表の日に欠席しないように。						
教科書	プリント教材を配ります。						
参考書	藤本・金網・榊原「読んでわかる児童心理学」サイエンス社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術実技Ⅰ/Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	表現の展開に挑む						
授業の概要	多様な表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、カラージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術に挑戦することにより自己表現を深める自由制作にも挑戦する。						
到達目標	(1) 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 (2) 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 (3) 造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 : ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 : ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 : ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体：発砲球(1)：動く原理 第7回 : 発砲球(2)：デザイン 第8回 : 発砲球(3)：評価 第9回 版：版画(1)：版による表現 第10回 : 版画(2)：制作及び刷り 第11回 : 版画(3)：刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作(選択) (1) 構想および制作 第13回 : (2) 制作 第14回 : (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際の専門用語を使用できるように課題要旨にあげてくること。(学習時間2時間) 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるようにする。そのた自作を自己評価し、造形言語を使用した自作の解説文を書き、提出する。(学習時間2時間)						
授業方法	実技・演習：美術表現の基本的な材料と表現技術を各回のテーマに沿って実技を中心に行う。制作および作品鑑賞をグループワークで行い、意見交換を通じて鑑賞力と作品評価の能力を培う。						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材(1年次のⅠで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する)を全員購入しておくこと。各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを配布する。						
参考書	『折り紙建築』茶谷正洋著 彰国社 他、折り紙建築シリーズ その他、適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術実技Ⅰ/Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	表現の展開に挑む						
授業の概要	多様な表現方法に向かい表現技術を高め、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養う。図工実技Ⅱでは、自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、カラーージュ、版表現、立体や半立体による制作など、新たな表現技術に挑戦することにより自己表現を深める自由制作にも挑戦する。						
到達目標	(1) 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。 (2) 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化することができる。 (3) 造形言語を使って自分の作品を言語化できる。						
授業計画	第1回 材料と表現について：授業概要、評価の方法の説明を含む 第2回 紙の立体：ペーパークラフト(1)：基本形、紙の操作 第3回 : ペーパークラフト(2)：ポップアップのしくみを知る 第4回 : ペーパークラフト(3)：ポップアップカード制作 第5回 : ペーパークラフト(4)：ポップアップカード制作・完成 第6回 立体：発砲球(1)：動く原理 第7回 : 発砲球(2)：デザイン 第8回 : 発砲球(3)：評価 第9回 版：版画(1)：版による表現 第10回 : 版画(2)：制作及び刷り 第11回 : 版画(3)：刷り及び評価 第12回 自由制作・課題制作(選択) (1) 構想および制作 第13回 : (2) 制作 第14回 : (3) 完成・展示 第15回 合評会とまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際の専門用語を使用できるように課題要旨にあげてくること。(学習時間2時間) 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化できるようにする。そのた自作を自己評価し、造形言語を使用した自作の解説文を書き、提出する。(学習時間2時間)						
授業方法	実技・演習：美術表現の基本的な材料と表現技術を各回のテーマに沿って実技を中心に行う。制作および作品鑑賞をグループワークで行い、意見交換を通じて鑑賞力と作品評価の能力を培う。						
評価基準と評価方法	表現履歴等の提出による評価20%、課題レポート及び課題作品の提出による評価80%。						
履修上の注意	履修者は基本的な美術教材(1年次の図工実技Ⅰで購入し、4年間の美術系科目共通で使用する)を全員購入しておくこと。各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備すること。						
教科書	テキストは使用しない。プリントを配布する。						
参考書	『折り紙建築』茶谷正洋著 彰国社 他、折り紙建築シリーズ その他、適宜紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術表現						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K01160
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。(知識・理解)</li> <li>2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。(知識・理解)</li> <li>3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。(汎用的技能)</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：子どもと美術—領域表現と子どもの美術（造形）—</p> <p>第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋</p> <p>第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方</p> <p>第4回：材料と表現</p> <p>第5回：形と色の表現</p> <p>第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同）</p> <p>第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する</p> <p>第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び</p> <p>第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び</p> <p>第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び</p> <p>第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用</p> <p>第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング</p> <p>第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現</p> <p>第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成</p> <p>第15回：鑑賞を愉しむ—まとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。2時間。</p> <p>授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。学んだ理論や実技的内容を応用できるように、子どもの表現や作家の作品を見て鑑賞眼を養うこと。2時間。</p>						
授業方法	<p>演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやでディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特徴や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。</p>						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	<p>授業に必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。</p> <p>指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。</p>						
教科書	<p>テキストは使用しない。</p> <p>プリントを適宜配布する。</p>						
参考書	<p>文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月）</p> <p>厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月）</p> <p>内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）</p>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育原理						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ-	K71120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所・認定こども園の役割と社会責務、保育の基本と方法、保育の環境構成、保育のPDCA、実践の在り方、保育者の役割						
授業の概要	保育所や認定こども園の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目的ならびに目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。理論だけでなく具体的な理解を促すために、保育所や認定こども園、子育て支援現場の見学や、実際の活動への参加を通して、実践的に学ぶ。						
到達目標	(1) 保育所、認定こども園の役割と社会的責務、保育の特性・意義・基本、保育の展開の在り方、保育者の役割について理解することができる。【知識・理解】 (2) 子どもの存在を理解し、子どもとの関わりと援助方法・技術を学ぶことができる。【汎用的技術】 (3) 子どもの保育の展開について、具体的にイメージし、保育者のあり方を自分なりに模索することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 現代社会と保育—子ども子育て新制度を巡って 第2回 保育所と認定こども園における保育の意義と基底 第3回 保育所・認定こども園における保育の方針と概要 第4回 保育所および認定こども園における保育の特性 第5回 保育所および認定こども園における保育の基本 第6回 保育の原理と方法(1)—養護と教育、環境を通して行う保育 第7回 保育の原理と方法(2)—保育の環境 第8回 保育の計画および評価—保育の全体計画とPDCA 第9回 育みたい資質・能力と幼児期に育ってほしい姿 第10回 保育の環境構成と保育者の内容—乳児、3歳未満児 第11回 保育の環境構成と保育者の内容—3歳以上児 第12回 健康および安全 第13回 子育て支援—まっぼっくり実習(子育て支援現場で参加実習と観察記録の作成、ディスカッション) 第14回 保育者の専門性と資質の向上 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前の準備学習:各授業で取り扱う内容のキーワードを事前に調べておく。(学習時間2時間) 授業後の準備学習:事前に調べたキーワードの内容を確認し、各授業で学んだ内容をそれらのキーワードを用いて簡単なアサインメントを作成する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義と実習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 実習レポート20点、小レポート20点、テスト60点						
履修上の注意	主体的な取り組みが望まれます。 松徳利における参加実習は必修です。これに参加しなかった場合は、単位を取ることができません。						
教科書	配布資料						
参考書	必要に応じて示します。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	鎮 朋子					科目ナンバ-	K72160
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる専門性とは何か						
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、まず、現代日本における保育者の制度的位置づけを確認する。そのうえで、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷について学ぶ。最後に、現代の保育士がどのような課題を抱えているのか、保育行政に沿ってどのように変化しつつあるのか、を踏まえて、将来に向けて保育にどのような専門性が求められているのか、どのようなミッションが課されているのか、について展望する。						
到達目標	<b>【到達目標】</b> ・保育者の役割と倫理について理解することができる ・保育者の専門性と協働について理解することができる ・保育者の専門職的成長について理解することができる						
授業計画	第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは 第2回 保育者の役割と倫理（1）保育者の役割 第3回 保育者の役割と倫理（2）保育者の倫理 第4回 保育者の職務内容（1）保育者の制度的位置づけ 第5回 保育者の職務内容（2）保育者の責任と義務 第6回 保育者の専門性（1）子どもとともに生きる 第7回 保育者の専門性（2）保護者支援・家庭支援 第8回 保育者の専門性（3）知識・技術及び判断 第9回 保育者の専門性（4）保育課程による保育の展開と自己評価 第10回 保育者の協働（1）：保育者同士の協働 第11回 保育者の協働（2）：保護者及び地域社会との協働 第12回 保育者の協働（3）：専門職間及び専門機関との連携 第13回 保育者の専門職的成長（1）：専門性向上と組織的取組 第14回 保育者の専門職的成長（2）：生涯発達とキャリア形成 第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業準備としてテキスト内容の確認を10分、授業後に内容の復習を10分、行うことが望ましい。						
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。保育の諸課題について、小グループで検討、発表する場合もある。						
評価基準と評価方法	定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する。評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。						
履修上の注意	欠席等については学内の規定に準ずる。そのほかの注意点については授業内で指示する。						
教科書	『保育者論—子どものかたわらに』 小川圭子編（株）みらい 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館）						
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館）						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	鎮 朋子					科目ナンバ-	K72160
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる専門性とは何か						
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、まず、現代日本における保育者の制度的位置づけを確認する。そのうえで、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷について学ぶ。最後に、現代の保育士がどのような課題を抱えているのか、保育行政に沿ってどのように変化しつつあるのか、を踏まえて、将来に向けて保育にどのような専門性が求められているのか、どのようなミッションが課されているのか、について展望する。						
到達目標	<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の役割と倫理について理解することができる</li> <li>・保育者の専門性と協働について理解することができる</li> <li>・保育者の専門職的成長について理解することができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について 保育者とは 第2回 保育者の役割と倫理（1）保育者の役割 第3回 保育者の役割と倫理（2）保育者の倫理 第4回 保育者の職務内容（1）保育者の制度的位置づけ 第5回 保育者の職務内容（2）保育者の責任と義務 第6回 保育者の専門性（1）子どもとともに生きる 第7回 保育者の専門性（2）保護者支援・家庭支援 第8回 保育者の専門性（3）知識・技術及び判断 第9回 保育者の専門性（4）保育課程による保育の展開と自己評価 第10回 保育者の協働（1）：保育者同士の協働 第11回 保育者の協働（2）：保護者及び地域社会との協働 第12回 保育者の協働（3）：専門職間及び専門機関との連携 第13回 保育者の専門職的成長（1）：専門性向上と組織的取組 第14回 保育者の専門職的成長（2）：生涯発達とキャリア形成 第15回 おわりに：まとめ、到達度の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業準備としてテキスト内容の確認を10分、授業後に内容の復習を10分、行うことが望ましい。						
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。保育の諸課題について、小グループで検討、発表する場合もある。						
評価基準と評価方法	定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する。 評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。						
履修上の注意	欠席等については学内の規定に準ずる。そのほかの注意点については授業内で指示する。						
教科書	『保育者論—子どものかたわらに』 小川圭子編（株）みらい 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館）						
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	保育指導法																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K74090																																													
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法																																																			
授業の概要	幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。																																																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の「遊び」や「学び」の意味や重要性を理解し、その意義について述べるができる。【知識・理解】</li> <li>・ 幼児期の発達の特性を理解し、育ちを支える保育者の役割や実践するための様々な方法を知る。【汎用的技能】</li> </ul>																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 授業概要 「主体性」について考える</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼児期にふさわしい生活</td> <td>: 主体的な遊びが生まれる環境</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>環境の構成と保育の展開</td> <td>: 「環境を通して行う教育」とは</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>「遊び」の指導</td> <td>: 「遊び」の中にある「学び」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>「生活」の指導</td> <td>: 「生活」の中にある「経験」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>学び合い育ち合うクラスづくり</td> <td>: 個と集団の関係</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>園内外の環境を生かした保育</td> <td>: 地域とのかかわり、園外保育</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育活動と行事</td> <td>: 環境としての行事</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>指導計画の立て方</td> <td>: 「ねらい」と「内容」の立て方</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>幼稚園・保育所・小学校の連携</td> <td>: 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>事例研究</td> <td>: DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>危機管理</td> <td>: 安全管理と主体性</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>家庭との連携</td> <td>: 保護者対応と情報発信</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>保育者としての資質向上</td> <td>: 園内研修や記録の活用 筆記試験</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価(レポート提出)</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	: 授業概要 「主体性」について考える	第2回	幼児期にふさわしい生活	: 主体的な遊びが生まれる環境	第3回	環境の構成と保育の展開	: 「環境を通して行う教育」とは	第4回	「遊び」の指導	: 「遊び」の中にある「学び」	第5回	「生活」の指導	: 「生活」の中にある「経験」	第6回	学び合い育ち合うクラスづくり	: 個と集団の関係	第7回	園内外の環境を生かした保育	: 地域とのかかわり、園外保育	第8回	保育活動と行事	: 環境としての行事	第9回	指導計画の立て方	: 「ねらい」と「内容」の立て方	第10回	幼稚園・保育所・小学校の連携	: 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目	第11回	事例研究	: DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢	第12回	危機管理	: 安全管理と主体性	第13回	家庭との連携	: 保護者対応と情報発信	第14回	保育者としての資質向上	: 園内研修や記録の活用 筆記試験	第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	
第1回	オリエンテーション	: 授業概要 「主体性」について考える																																																		
第2回	幼児期にふさわしい生活	: 主体的な遊びが生まれる環境																																																		
第3回	環境の構成と保育の展開	: 「環境を通して行う教育」とは																																																		
第4回	「遊び」の指導	: 「遊び」の中にある「学び」																																																		
第5回	「生活」の指導	: 「生活」の中にある「経験」																																																		
第6回	学び合い育ち合うクラスづくり	: 個と集団の関係																																																		
第7回	園内外の環境を生かした保育	: 地域とのかかわり、園外保育																																																		
第8回	保育活動と行事	: 環境としての行事																																																		
第9回	指導計画の立て方	: 「ねらい」と「内容」の立て方																																																		
第10回	幼稚園・保育所・小学校の連携	: 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目																																																		
第11回	事例研究	: DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢																																																		
第12回	危機管理	: 安全管理と主体性																																																		
第13回	家庭との連携	: 保護者対応と情報発信																																																		
第14回	保育者としての資質向上	: 園内研修や記録の活用 筆記試験																																																		
第15回	まとめと授業評価(レポート提出)																																																			
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 目標に迫るための模擬保育が行えるよう、教材研究などを行う。 教科書の該当ページを読んでおく。(週2時間程度)</p> <p>授業後学習: 学習した内容を教科書で確認する。(週2時間程度) 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。</p>																																																			
授業方法	講義 事例やDVD視聴後にグループでディスカッションし、感想や考えを出し合う。正解を求めるのではなく、考えを言語化する経験を大切にしたい。																																																			
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。																																																			
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。																																																			
教科書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 フレーベル館																																																			
参考書	保育所保育指針 厚生労働省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	保育指導法																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K74090																																													
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法																																																			
授業の概要	幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。																																																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の「遊び」や「学び」の意味や重要性を理解し、その意義について述べるができる。【知識・理解】</li> <li>・ 幼児期の発達の特性を理解し、育ちを支える保育者の役割や実践するための様々な方法を知る。【汎用的技能】</li> </ul>																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 授業概要 「主体性」について考える</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼児期にふさわしい生活</td> <td>: 主体的な遊びが生まれる環境</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>環境の構成と保育の展開</td> <td>: 「環境を通して行う教育」とは</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>「遊び」の指導</td> <td>: 「遊び」の中にある「学び」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>「生活」の指導</td> <td>: 「生活」の中にある「経験」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>学び合い育ち合うクラスづくり</td> <td>: 個と集団の関係</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>園内外の環境を生かした保育</td> <td>: 地域とのかかわり、園外保育</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育活動と行事</td> <td>: 環境としての行事</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>指導計画の立て方</td> <td>: 「ねらい」と「内容」の立て方</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>幼稚園・保育所・小学校の連携</td> <td>: 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>事例研究</td> <td>: DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>危機管理</td> <td>: 安全管理と主体性</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>家庭との連携</td> <td>: 保護者対応と情報発信</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>保育者としての資質向上</td> <td>: 園内研修や記録の活用 筆記試験</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価(レポート提出)</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	: 授業概要 「主体性」について考える	第2回	幼児期にふさわしい生活	: 主体的な遊びが生まれる環境	第3回	環境の構成と保育の展開	: 「環境を通して行う教育」とは	第4回	「遊び」の指導	: 「遊び」の中にある「学び」	第5回	「生活」の指導	: 「生活」の中にある「経験」	第6回	学び合い育ち合うクラスづくり	: 個と集団の関係	第7回	園内外の環境を生かした保育	: 地域とのかかわり、園外保育	第8回	保育活動と行事	: 環境としての行事	第9回	指導計画の立て方	: 「ねらい」と「内容」の立て方	第10回	幼稚園・保育所・小学校の連携	: 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目	第11回	事例研究	: DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢	第12回	危機管理	: 安全管理と主体性	第13回	家庭との連携	: 保護者対応と情報発信	第14回	保育者としての資質向上	: 園内研修や記録の活用 筆記試験	第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	
第1回	オリエンテーション	: 授業概要 「主体性」について考える																																																		
第2回	幼児期にふさわしい生活	: 主体的な遊びが生まれる環境																																																		
第3回	環境の構成と保育の展開	: 「環境を通して行う教育」とは																																																		
第4回	「遊び」の指導	: 「遊び」の中にある「学び」																																																		
第5回	「生活」の指導	: 「生活」の中にある「経験」																																																		
第6回	学び合い育ち合うクラスづくり	: 個と集団の関係																																																		
第7回	園内外の環境を生かした保育	: 地域とのかかわり、園外保育																																																		
第8回	保育活動と行事	: 環境としての行事																																																		
第9回	指導計画の立て方	: 「ねらい」と「内容」の立て方																																																		
第10回	幼稚園・保育所・小学校の連携	: 学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目																																																		
第11回	事例研究	: DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢																																																		
第12回	危機管理	: 安全管理と主体性																																																		
第13回	家庭との連携	: 保護者対応と情報発信																																																		
第14回	保育者としての資質向上	: 園内研修や記録の活用 筆記試験																																																		
第15回	まとめと授業評価(レポート提出)																																																			
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 目標に迫るための模擬保育が行えるよう、教材研究などを行う。 教科書の該当ページを読んでおく。(週2時間程度)</p> <p>授業後学習: 学習した内容を教科書で確認する。(週2時間程度) 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。</p>																																																			
授業方法	講義 事例やDVD視聴後にグループでディスカッションし、感想や考えを出し合う。正解を求めるのではなく、考えを言語化する経験を大切にしたい。																																																			
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。																																																			
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。																																																			
教科書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 フレーベル館																																																			
参考書	保育所保育指針 厚生労働省																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバ-	K73560
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	児童福祉施設の保育士のあるべき姿を学ぶ						
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と生活を共にする中で、子どもや利用者の理解、施設で働く保育士の職務、職員間の連携や施設の役割・責任などの理解、家庭環境の理解などを実践的に学ぶ						
到達目標	施設で過ごす子どもや利用者との関わりを体験し、子どもや利用者に対し適切な対応や共感的な対応ができる。 （汎用的技能）（態度・志向性） 施設の役割や保育士の基本的な役割を説明できる。（知識・理解）						
授業計画	<p>授業は実習先である児童福祉施設において行われる。10日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。</p> <p>○実習前段階として *学内での事前指導（実習の心得、諸注意、実習意義・目的・内容・方法、それぞれの施設の対象児・者の理解・かかわり方、児童福祉施設に関する制度・法律・社会背景などの理解を深める）</p> <p>○第1段階（1～7日目） 観察実習（実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する）</p> <p>○第2段階（8～10日目） 観察に加え、部分的な参加を伴う参加実習（子どもや利用者へのサポートやかかわりを実際に保育士の補助をしながら体験する。また、環境整備や教材準備等を補助する。援助計画を理解する）</p> <p>○実習事後段階として *事後指導（自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等） *実習全期間を通して実習の記録をする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>児童福祉施設の見学、施設でのボランティアを体験する。 現代の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、子どもたちの育ちの様子等に関する情報をまとめる。（2時間） 児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。（1時間） 実習中毎日振り返りを行い、反省考察を記録する。（3時間）</p>						
授業方法	児童福祉施設における実習、教員による巡回訪問指導						
評価基準と評価方法	<p>実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる） 20%</p> <p>実習記録の内容 20%</p> <p>諸手続きへの取り組み 10%</p> <p>施設先の実習評価（出席を含め） 50%</p>						
履修上の注意	遅刻・欠勤がないことはもとより、積極的、誠実に実習に臨む。 施設の特徴を踏まえ、特に守秘義務の遵守、倫理観の基づく態度を持って実習に臨む。 指導者の助言を真摯に受け止め、子どもや利用者の立場を理解して共感的な態度で臨む。						
教科書	実習の手引き、事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K73550
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して【汎用的技能】、保育士に求められる基礎的な専門的知識・技能を習得する【態度・志向性】。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の社会的機能を具体的に理解する。（知識・理解）</li> <li>・保育所生活の特性を理解する。（知識・理解）</li> <li>・子どもの発達過程を理解する。（知識・理解）</li> <li>・子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。（汎用的技能）</li> <li>・保育士の職務の具体的内容を体得する。（態度・志向性）</li> </ul>						
授業計画	<p>実習Ⅰ（10日間）の、標準的な内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける</li> <li>・見学・観察実習</li> <li>・参加(部分)実習</li> <li>・実習記録(日誌)の作成、指導案の作成</li> <li>・事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。</li> <li>・実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。</li> <li>・保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。</li> </ul>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習完了の基礎点 40%</li> <li>・実習園の評価 40%</li> <li>・実習記録・レポート 20%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中の無断での欠席、遅刻、早退は厳禁する。</li> <li>・実習時間の確保には、各自で十分に留意する。</li> <li>・実習園の園の方針を理解し、それに応じた実習姿勢をとる。</li> </ul>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『実習の手引き』</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに</li> </ul>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習II (保育所)						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K73580
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる応用的な専門的知識・技能を習得する。</li> <li>・ 実習記録への記載方法を習得し、記録を作成する。</li> <li>・ 実習指導案の作成方法を理解し、実際に指導案を作成し、自ら保育を実施する。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の社会的機能を具体的に理解する。(知識・理解)</li> <li>・ 保育所生活の特性を理解する。(知識・理解)</li> <li>・ 子どもの発達過程を理解する。(知識・理解)</li> <li>・ 子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。(汎用的技能)</li> <li>・ 保育士の職務の具体的内容を体得する。(態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	<p>実習II(10日間)の、標準的な内容は以下のとおりである</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける</li> <li>・ 参加(部分)実習：数回の参加実習を、指導案を作成したうえで実施する</li> <li>・ 責任実習：1～2回の責任実習を、指導案を作成したうえで実施する</li> <li>・ 保育所の保護者に対する子育て支援への参加</li> <li>・ 実習記録(日誌)の作成</li> <li>・ 事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実習Iの内容の反省をする。</li> <li>・ 保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。</li> <li>・ 実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。</li> <li>・ 保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。</li> </ul>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習完了の基礎点 40%</li> <li>・ 実習園の評価 40%</li> <li>・ 実習記録・レポート 20%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中の無断での欠席、遅刻、早退は厳禁する。</li> <li>・ 実習時間の確保には、各自で十分に留意する。</li> <li>・ 実習園の方針を理解し、それに応じた実習姿勢をとる。</li> </ul>						
教科書	「実習の手引き」						
参考書	なし						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習III (施設)						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K73600
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習 I (施設) の経験を踏まえ、総合的に学習する。						
授業の概要	療育・養育のあり方や地域の中での施設の役割を理解する。保育士やその他の専門職員の働きの実態に触れ、連携や専門性の重要性について理解する。援助計画や支援計画を立案し指導する。子どもや利用者、保護者とのかわりを通して理解を深める。						
到達目標	児童福祉施設で保育士の職務を理解し、施設保育士とともに基本的な職務を果たすことができる (知識・理解) (態度・志向性) 子どもの課題を理解し、短期的な援助計画を立てることができる (汎用的技能)						
授業計画	<p>授業は施設での実習の形で進められる。10日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。</p> <p>○実習前段階 オリエンテーション (諸注意、心得、実習施設の概要・理念、運営方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等) を受ける。</p> <p>○実習中 ①主体性を持って養護、療育に参加し、子どもや利用者とかかわる ②施設の組織、職員のチームワーク力、環境への留意などの観察を行う ③日々の目標又は自立支援計画に基づいて実践し、実践の評価反省をする ④施設が実施する地域におけるイベント、事業などに参加する ⑤研究的な視点を持って子どもや利用者とかかわる ⑥職員のかかわりの意図を理解し、記録する</p> <p>○実習後段階 全体を通じた自己評価・反省・レポートの提出、実習の振り返り、「実習記録」の提出、施設で働くことをイメージし、今後の学習への課題の明確化等</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>事前学習：実習前、施設でのボランティア活動をする 施設実習指導の内容を復習する (2時間)</p> <p>事後学習：実習記録の作成及び振り返り (2時間)</p>						
授業方法	施設における実習、教員による訪問指導						
評価基準と評価方法	<p>施設の評価 50%</p> <p>実習記録の内容 30%</p> <p>レポート 20%</p>						
履修上の注意	遅刻、欠勤がないことはもとより、積極的かつ誠実に実習に臨む。 守秘義務の遵守、倫理観に基づく態度でもって実習に臨む。 指導者の助言を真摯に受け止め、向上心を持って臨む。						
教科書	「実習の手引き」事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導II						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K73570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解と振り返り						
授業の概要	<p>保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。</p> <p>①保育所の社会的機能          ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ          ③実習に必要なとされる知識・技能          ④実習生の倫理と義務          ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法          ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にできる。(汎用的技能、態度・志向性)</li> <li>・実習に必要な知識・技能を習得し、自家菜籠中の物とすることができる。(汎用的技能、態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り          第2回 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りの共有          第3回 保育実習Ⅱの課題設定と共有          第4回 指導案作成          第5回 指導案発表          第6回 保育記録(場面記録)          第7回 事後指導(実習簿に基づくふりかえり)          第8回 事後指導(実習先の評価に基づくふりかえり)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備および授業後学修:実習に向けて各自での教材研究および子どもと関わる機会を積極的に設けることが求められる。(毎週2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場への参加(ボランティア等)</li> <li>・保育雑誌、書籍からの資料の収集</li> <li>・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加等</li> </ul>						
授業方法	講義および演習形式(グループワークも取り入れます)						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 40%</li> <li>・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 40%</li> <li>・提出課題 20%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導には保育実習Ⅰ(保育所)の実習簿を持参してください。</li> <li>・8回の授業すべてに出席すること。1回でも欠席の場合は評価対象外となります。</li> </ul>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』</li> <li>・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに</li> </ul>						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導II						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K73570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習IIへの取り組み方法の理解と振り返り						
授業の概要	<p>保育実習IIに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。</p> <p>①保育所の社会的機能          ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ          ③実習に必要なとされる知識・技能          ④実習生の倫理と義務          ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法          ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Iの取り組みを反省し、実習IIへ向けての各自の課題を明確にできる。(汎用的技能、態度・志向性)</li> <li>・実習に必要な知識・技能を習得し、自家菜籠中の物とすることができる。(汎用的技能、態度・志向性)</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 保育実習I(保育所)の振り返り          第2回 保育実習I(保育所)の振り返りの共有          第3回 保育実習IIの課題設定と共有          第4回 指導案作成          第5回 指導案発表          第6回 保育記録(場面記録)          第7回 事後指導(実習簿に基づくふりかえり)          第8回 事後指導(実習先の評価に基づくふりかえり)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備および授業後学修:実習に向けて各自での教材研究および子どもと関わる機会を積極的に設けることが求められる。(毎週2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場への参加(ボランティア等)</li> <li>・保育雑誌、書籍からの資料の収集</li> <li>・地域子育て支援コミュニティルーム「まつぼっくり」への参加等</li> </ul>						
授業方法	講義および演習形式(グループワークも取り入れます)						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題の明確化(レポートの作成、発表) 40%</li> <li>・指導案の作成(プレゼンテーション含む) 40%</li> <li>・提出課題 20%</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導には保育実習I(保育所)の実習簿を持参してください。</li> <li>・8回の授業すべてに出席すること。1回でも欠席の場合は評価対象外となります。</li> </ul>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』</li> <li>・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに</li> </ul>						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導III						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバ-	K73590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習 I（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する						
授業の概要	実習に臨むにあたって、より深く児童福祉施設に求められている役割と機能、保育士に求められている専門的な知識や技術等に関する指導を行う。 実習の計画と具体的な準備をさせる。						
到達目標	問題行動を有する子どもとのかかわり方、保護者支援や家庭支援のための知識・技術を養い、子どもの問題行動への適切な対応ができる。（知識・理解）（汎用的技能） 実習課題を明確にし、具体的な実習内容を計画できる（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習1の振り返り（問題行動への対応） 第3回 実習1の振り返り（甘え、トラブル、生活指導） 第4回 各施設における施設実習を深めるために（施設等の理解） 第5回 各施設における施設実習を深めるために（子どもの理解と対応、職員の役割等の理解） 第6回 自立支援計画作成の視点、他の専門職種や関係機関との連携 第7回 親・家族への対応と支援、課題の明確化 第8回 事後指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	施設でのボランティア活動を行う 毎回出席を原則とし、無断欠席は禁ずる						
授業方法	講義とグループ討議、演習						
評価基準と評価方法	実習目的の理解や子どもや親への適切な対応等の理解（小テスト、レポート等） 50% 実習課題の明確化 30% 平常点 20%						
履修上の注意	授業前準備：実習1で学んだり、経験したことを振り返り整理すること（2時間） 授業後の学習：毎回授業で取り上げた内容について確認整理すること（2時間）						
教科書	実習の手引き、その他プリントを配布						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	永井 マリア					科目ナンバ-	K74290
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門的な知識や技術を生かした保育相談支援のあり方を理解する。						
授業の概要	保護者への子育てに関する相談や助言について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	(1) 保育相談支援の意義と原則について説明できる[知識・理解] (2) 保育の専門性を生かした保育支援や技術、支援方法を学び、実践に生かすことができる[汎用的技能] (3) 個人情報取り扱いを理解し、配慮できる[態度・志向性]						
授業計画	第1回：ガイダンス、保育相談支援とは 第2回：保育相談支援の意義 第3回：保育相談支援の基本Ⅰ－子どもの最善の利益－ 第4回：保育相談支援の基本Ⅱ－保護者理解－ 第5回：保育相談支援の基本Ⅲ－対人援助技術－ 第6回：保育相談支援の基本Ⅳ－社会的資源の活用－ 第7回：保育相談支援の実際Ⅰ－保護者支援のあり方について考える－ 第8回：保育相談支援の実際Ⅱ－保護者支援の内容－ 第9回：保育相談支援の実際Ⅲ－保護者支援の方法と技術－ 第10回：保育相談支援の実際Ⅳ－保育相談支援の計画・記録・評価・カンファレンス－ 第11回：保育相談支援の実際Ⅰ－配慮を要する家庭への支援－ 第12回：保育相談支援の実際Ⅱ－発達に気がかりな点がある子どもと家庭への支援－ 第13回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ－要保護児童家庭への保育相談支援－ 第14回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ－障害児（者）施設における保育相談支援－ 第15回：保育士に求められる保育相談支援とは						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事後学習（学習時間2時間） ・実習やその他の活動時、保護者や子どもの心情について考える。 ・日頃の生活のなかで、授業で学んだ内容や技術を意識して他者と関わる。 事前学習（学習時間1時間） ・テキストに沿って授業を行うため、事前に該当チャプターに目を通し、自分なりにキーワード等を見つけてみる。						
授業方法	講義・演習形式 ・授業の前半では講義を行い、授業の後半では個別ワークやグループ（ペア）ワーク・ディスカッションを行う。 ・質問は授業時間中に受け付けます。自分なりに理解し、説明できるように積極的に質問をして下さい。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物40％・期末試験60％ ・授業内での提出物：小レポートの内容・記述的的確さ（問われている内容を把握し、自分の言葉で端的かつ分かり易くまとめることができているか）等を評価する。到達目標1～3の確認。 ・保育相談支援に関する理解度、実践に繋がる技術や支援方法に関する明確性・具体性について評価する。到達目標の1～3の確認。						
履修上の注意	・授業回数の3分の1欠席すると、期末試験の受験資格を失うこととする。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・自身の受講時限に出席をすること。どうしても難しい回は事前連絡すること。 ・配布資料は各回の出席者にものみ配布する。欠席の場合は翌週に限り、再配布する。 ・席は見えやすい、聞こえやすい位置に着席すること。						
教科書	大嶋恭二・金子恵美（編著）2011「保育相談支援」建帛社（ISBN:978-4-7679-5034-1）						
参考書	永野典詞・岸本元気（著）2016「保育士・幼稚園教諭のための保護者支援-保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援（新版）」風鳴舎（ISBN:978-4907537005）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育相談支援						
担当教員	永井 マリア					科目ナンバ-	K74290
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門的な知識や技術を生かした保育相談支援のあり方を理解する。						
授業の概要	保護者への子育てに関する相談や助言について、事例を通して具体的に考える。						
到達目標	(1) 保育相談支援の意義と原則について説明できる[知識・理解] (2) 保育の専門性を生かした保育支援や技術、支援方法を学び、実践に生かすことができる[汎用的技能] (3) 個人情報取り扱いを理解し、配慮できる[態度・志向性]						
授業計画	第1回：ガイダンス、保育相談支援とは 第2回：保育相談支援の意義 第3回：保育相談支援の基本Ⅰ－子どもの最善の利益－ 第4回：保育相談支援の基本Ⅱ－保護者理解－ 第5回：保育相談支援の基本Ⅲ－対人援助技術－ 第6回：保育相談支援の基本Ⅳ－社会的資源の活用－ 第7回：保育相談支援の実際Ⅰ－保護者支援のあり方について考える－ 第8回：保育相談支援の実際Ⅱ－保護者支援の内容－ 第9回：保育相談支援の実際Ⅲ－保護者支援の方法と技術－ 第10回：保育相談支援の実際Ⅳ－保育相談支援の計画・記録・評価・カンファレンス－ 第11回：保育相談支援の実際Ⅰ－配慮を要する家庭への支援－ 第12回：保育相談支援の実際Ⅱ－発達に気がかりな点がある子どもと家庭への支援－ 第13回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ－要保護児童家庭への保育相談支援－ 第14回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ－障害児（者）施設における保育相談支援－ 第15回：保育士に求められる保育相談支援とは						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事後学習（学習時間2時間） ・実習やその他の活動時、保護者や子どもの心情について考える。 ・日頃の生活のなかで、授業で学んだ内容や技術を意識して他者と関わる。 事前学習（学習時間1時間） ・テキストに沿って授業を行うため、事前に該当チャプターに目を通し、自分なりにキーワード等を見つけてみる。						
授業方法	講義・演習形式 ・授業の前半では講義を行い、授業の後半では個別ワークやグループ（ペア）ワーク・ディスカッションを行う。 ・質問は授業時間中に受け付けます。自分なりに理解し、説明できるように積極的に質問をして下さい。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物40％・期末試験60％ ・授業内での提出物：小レポートの内容・記述的的確さ（問われている内容を把握し、自分の言葉で端的かつ分かり易くまとめることができているか）等を評価する。到達目標1～3の確認。 ・保育相談支援に関する理解度、実践に繋がる技術や支援方法に関する明確性・具体性について評価する。到達目標の1～3の確認。						
履修上の注意	・授業回数の3分の1欠席すると、期末試験の受験資格を失うこととする。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・自身の受講時限に出席をすること。どうしても難しい回は事前連絡すること。 ・配布資料は各回の出席者にものみ配布する。欠席の場合は翌週に限り、再配布する。 ・席は見えやすい、聞こえやすい位置に着席すること。						
教科書	大嶋恭二・金子恵美（編著）2011「保育相談支援」建帛社（ISBN:978-4-7679-5034-1）						
参考書	永野典詞・岸本元気（著）2016「保育士・幼稚園教諭のための保護者支援-保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援（新版）」風鳴舎（ISBN:978-4907537005）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容環境／保育内容（環境）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K72020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	領域（環境）の指導法に必要な知識と技術を修得する。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「環境」のねらいと内容を以下の項目で学ぶ。幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や、算数の基礎や環境に生きる生き物といった学習の基盤を培う。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学ぶ。さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化、およびこれらを学ぶ上で効果的にICTを活用した保育などについて事例を通じて理解を深める。実際に演習を行って実践的な力を養成していく。						
到達目標	領域「環境」のねらいと項目を修得するために、幼児が環境に関わる経験を通して算数の基礎や生き物との触れ合いを学ぶことを指導するための基盤を養成する（知識・理解）。また幼児の共感者そして援助者となるために必要な知識や技術を、遊びや活動を含む演習を通じて修得し、幼児教育を実践できる力を養成する（汎用的技能）。						
授業計画	第1回：保育内容環境の意義 第2回：保育内容環境と幼児理解 第3回：好奇心・探求心を育てる指導、思考力の芽生えを育む指導 第4回：人的環境としての友達、保育者 第5回：物的環境としての園具・遊具・素材 第6回：自然環境としての動植物 第7回：日常生活の中での興味や関心 第8回：地域・行事との関わり 第9回：環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第10回：乳幼児の安全環境 第11回：保育内容環境からみた実践的課題 第12回：食農教育・食育 第13回：環境との関わりを育てる保育計画の作成 第14回：模擬保育の実施（前半グループ） 第15回：模擬保育の実施（後半グループ） まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%						
履修上の注意	・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取るということに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容環境／保育内容（環境）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K72020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	領域（環境）の指導法に必要な知識と技術を修得する。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「環境」のねらいと内容を以下の項目で学ぶ。幼児は自然、人、社会、物、文化などの身近な環境に直接かかわる体験を通して、人としての基盤や、算数の基礎や環境に生きる生き物といった学習の基盤を培う。この授業ではこのような「環境にかかわる保育」の意義について学ぶ。さらにより共感者、援助者となるために必要な知識や技術を身につけるため、自然あそびや動物飼育、栽培や製作活動、伝統や生活文化、およびこれらを学ぶ上で効果的にICTを活用した保育などについて事例を通じて理解を深める。実際に演習を行って実践的な力を養成していく。						
到達目標	領域「環境」のねらいと項目を修得するために、幼児が環境に関わる経験を通して算数の基礎や生き物との触れ合いを学ぶことを指導するための基盤を養成する（知識・理解）。また幼児の共感者そして援助者となるために必要な知識や技術を、遊びや活動を含む演習を通じて修得し、幼児教育を実践できる力を養成する（汎用的技能）。						
授業計画	第1回：保育内容環境の意義 第2回：保育内容環境と幼児理解 第3回：好奇心・探求心を育てる指導、思考力の芽生えを育む指導 第4回：人的環境としての友達、保育者 第5回：物的環境としての園具・遊具・素材 第6回：自然環境としての動植物 第7回：日常生活の中での興味や関心 第8回：地域・行事との関わり 第9回：環境からみた道徳性の芽生えを培う指導 第10回：乳幼児の安全環境 第11回：保育内容環境からみた実践的課題 第12回：食農教育・食育 第13回：環境との関わりを育てる保育計画の作成 第14回：模擬保育の実施（前半グループ） 第15回：模擬保育の実施（後半グループ） まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返し、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%						
履修上の注意	・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取るということに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月） 保育実践に活かす保育内容環境 保育出版社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容健康／保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K73070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康と運動						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域「健康」のねらい・内容を理解し、他領域と関連して考えることができる【知識・理解】 (2) 年齢による発達段階を理解し、年齢に応じた援助や指導ができる【汎用的技能】 (3) 幼児を取り巻く現状と課題を探り、保育者として学ぶ姿勢をもっている【態度・志向性】						
授業計画	1回 今日における健康の課題 2回 子どもの発育・発達－0歳から5歳－ 3回 0歳児から3歳までの運動発達－DVD視聴からまとめる－ 4回 子どもを取り巻く環境の現状および子どもと自然5回 基本的な生活習慣について－自立と支援－ 5回 救急法について－応急手当の重要性－(DVD) 6回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理(ゲストスピーカー予定) 7回 領域「健康」のねらいと内容 8回 基本的な生活習慣の自立と重要性－食事・睡眠－ 9回 基本的な生活習慣の自立と重要性－排泄・清潔・衣服の着脱－ 10回 子どもと運動遊び－生活からみる動きから考える－ 11回 子どもにとっての体力の考え方 12回 運動遊びの重要性－幼児期運動指針から－ 13回 動機づけと保育者のかかわりと援助 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事業前準備：子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高め、その意義を調べておく(学習時間2時間) 授業後学習：授業で学んだ幼児期の発達段階を復習し、実習に臨めるよう準備しておく(学習時間3時間)						
授業方法	講義と演習(グループワーク) 講義では幼児期の特徴や発達、援助や指導方法を述べる。 演習ではグループワークを通して援助法や指導法を学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業で取り上げた課題をリアクションペーパーと発表で評価する。到達目標(1)(2)(40%) 期末試験では、幼児期の理解や保育者の指導の在り方や考え方を評価する。到達目標(1)(3)(60%)						
履修上の注意	(1) 幼・保の免許必修科目である。保育者としての意識をもって受講すること。 (2) 授業回数の3分の2以上の出席であること。3分の1以上欠席した者は期末試験の受験資格を失う。						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-471-4C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容健康／保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K73070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康と運動						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域「健康」のねらい・内容を理解し、他領域と関連して考えることができる【知識・理解】 (2) 年齢による発達段階を理解し、年齢に応じた援助や指導ができる【汎用的技能】 (3) 幼児を取り巻く現状と課題を探り、保育者として学ぶ姿勢をもっている【態度・志向性】						
授業計画	1回 今日における健康の課題 2回 子どもの発育・発達－0歳から5歳－ 3回 0歳児から3歳までの運動発達－DVD視聴からまとめる－ 4回 子どもを取り巻く環境の現状および子どもと自然5回 基本的生活習慣について－自立と支援－ 5回 救急法について－応急手当の重要性－(DVD) 6回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理(ゲストスピーカー予定) 7回 領域「健康」のねらいと内容 8回 基本的生活習慣の自立と重要性－食事・睡眠－ 9回 基本的生活習慣の自立と重要性－排泄・清潔・衣服の着脱－ 10回 子どもと運動遊び－生活からみる動きから考える－ 11回 子どもに取っての体力の考え方 12回 運動遊びの重要性－幼児期運動指針から－ 13回 動機づけと保育者のかかわりと援助 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事業前準備：子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高め、その意義を調べておく(学習時間2時間) 授業後学習：授業で学んだ幼児期の発達段階を復習し、実習に臨めるよう準備しておく(学習時間3時間)						
授業方法	講義と演習(グループワーク) 講義では幼児期の特徴や発達、援助や指導方法を述べる。 演習ではグループワークを通して援助法や指導法を学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業で取り上げた課題をリアクションペーパーと発表で評価する。到達目標(1)(2)(40%) 期末試験では、幼児期の理解や保育者の指導の在り方や考え方を評価する。到達目標(1)(3)(60%)						
履修上の注意	(1) 幼・保の免許必修科目である。保育者としての意識をもって受講すること。 (2) 授業回数の3分の2以上の出席であること。3分の1以上欠席した者は期末試験の受験資格を失う。						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-471-4C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容言葉／保育内容（言葉）						
担当教員	古茂田 貴子					科目ナンバ-	K73080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児教育の専門的な知識を得ると共に、子ども達のことばを豊かにする環境について考える。						
授業の概要	ことばは、最も優れたコミュニケーションの道具の一つです。この講義では、ことばの大切さやことばの発達過程を学び、子ども達が豊かなことばを獲得するために、保育者としてどのような援助や環境構成が必要かについて考えます。						
到達目標	①領域「言葉」の内容を理解し、保育におけることばの教育の位置づけを知る。（知識・理解） ②子どものことばの発達過程を学び、ことばの面白さ、コミュニケーションの道具としての重要性を理解する。（汎用的技能） ③子どものことばの発達を促す環境構成や保育活動について考える力を養う。（態度・志向性）						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 幼稚園教育要領の根拠となる法令について 第3回 幼稚園教育要領について（目標・ねらい） 第4回 幼稚園教育要領について（内容・内容の取扱い） 第5回 ことばの発達（1～2歳） 第6回 ことばの発達（3～4歳） 第7回 ことばの発達（5～6歳） 第8回 文化としてのことば・幼児語幼児音 第9回 一次ることば二次のことば・文字教育について 第10回 聞くことについて 第11回 ことばがけについて 第12回 子どものおそについて 第13回 豊かなことばの発達を促す児童文化財の重要性について 第14回 絵本・お話について 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習は必要ありませんが、授業や参考図書・資料などを通して、自分なりに興味を持って知識を広げてください。授業ノート・配布資料等を見て、復習を必ず行ってください。幼稚園・保育所実習や見学の機会を通して、また、学生一人一人が積極的に子どもと関わる機会をつくり、その関わりを通して、講義の内容の理解に努めるようにしてください。（学習時間4時間）						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業の中で適宜提出する小レポート（40%）と授業の中で行う振り返りテスト（40%）また、授業中に行う発表（20%）を中心に評価します。						
履修上の注意	出席を取ります。出席するだけでなく、意欲的に授業から知識を得てください。授業回数の3分の1以上欠席した人は、単位取得資格を失うものとします。						
教科書	適宜、資料を配布します。						
参考書	『増補版 ことばと保育』古茂田貴子編著 久美株式会社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論						
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K72180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児期の教育、保育における「内容」の意義理解とその実践化						
授業の概要	第一に、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された「保育の内容」の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方法について学ぶ。第二に、幼稚園教育要領に示された幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目について、具体的な幼児の発達の様子を例示しながら、カリキュラム・マネジメントを適切に行うために必要な保育内容の選択ポイントや幼児理解のための視点を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領の変遷を知ることで、幼児期の教育の意義や今、求められていることを理解することができる。【知識・理解】</li> <li>・幼児期の発達の特性を具体的な幼児の姿から理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に至る過程をイメージすることができる。【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回：幼稚園・保育所・認定こども園で行う保育と教育：授業概要と施設概要、養護と教育 第2回：幼稚園教育要領改訂の変遷：保育内容の不易と流行 第3回：「環境を通じた教育」とは：環境を構成するポイント 第4回：小学校教育との連続性：幼稚園教育において育みたい資質・能力 第5回：「遊びを通して学ぶ」とは(1)：「遊び」の中にある「学び」 第6回：「遊びを通して学ぶ」とは(2)：事例研究（動画視聴とグループ討議） 第7回：乳幼児期の発達特性に応じた保育内容 第8回：乳幼児期の発達特性に応じた保育形態：個と集団 第9回：幼児理解と保育記録(1)：エピソード記録の取り方 第10回：幼児理解と保育記録(2)：事例研究（動画視聴とグループ討議） 第11回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(1)：10項目について 第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(2)：アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラム 第13回：資質・能力を育む「学びの過程」：事例研究（動画視聴とグループ討議） 第14回：保育内容の選択ポイント 第15回：まとめと授業評価（レポート提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスに沿って教科書に目を通しておく。（週2時間程度） 授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を整理し、次回に備える（週2時間程度）						
授業方法	幼稚園教育要領に示される幼児の姿や教育内容が、実際の幼児の生活の中ではどのように表れどのように指導が行われるのかを事例などを通して学ぶ。						
評価基準と評価方法	筆記試験による評価50% 授業態度、レポート等による評価50%						
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容総論						
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K72180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児期の教育、保育における「内容」の意義理解とその実践化						
授業の概要	第一に、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された「保育の内容」の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方法について学ぶ。第二に、幼稚園教育要領に示された幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目について、具体的な幼児の発達の様子を例示しながら、カリキュラム・マネジメントを適切に行うために必要な保育内容の選択ポイントや幼児理解のための視点を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領の変遷を知ることで、幼児期の教育の意義や今、求められていることを理解することができる。【知識・理解】</li> <li>・幼児期の発達の特性を具体的な幼児の姿から理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に至る過程をイメージすることができる。【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回：幼稚園・保育所・認定こども園で行う保育と教育：授業概要と施設概要、養護と教育 第2回：幼稚園教育要領改訂の変遷：保育内容の不易と流行 第3回：「環境を通じた教育」とは：環境を構成するポイント 第4回：小学校教育との連続性：幼稚園教育において育みたい資質・能力 第5回：「遊びを通して学ぶ」とは(1)：「遊び」の中にある「学び」 第6回：「遊びを通して学ぶ」とは(2)：事例研究（動画視聴とグループ討議） 第7回：乳幼児期の発達特性に応じた保育内容 第8回：乳幼児期の発達特性に応じた保育形態：個と集団 第9回：幼児理解と保育記録(1)：エピソード記録の取り方 第10回：幼児理解と保育記録(2)：事例研究（動画視聴とグループ討議） 第11回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(1)：10項目について 第12回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(2)：アプローチ・カリキュラムとスタート・カリキュラム 第13回：資質・能力を育む「学びの過程」：事例研究（動画視聴とグループ討議） 第14回：保育内容の選択ポイント 第15回：まとめと授業評価（レポート提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスに沿って教科書に目を通しておく。（週2時間程度） 授業後学習：配布プリント等に沿って学習内容を整理し、次回に備える（週2時間程度）						
授業方法	幼稚園教育要領に示される幼児の姿や教育内容が、実際の幼児の生活の中ではどのように表れどのように指導が行われるのかを事例などを通して学ぶ。						
評価基準と評価方法	筆記試験による評価50% 授業態度、レポート等による評価50%						
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容人間関係／保育内容（人間関係）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K72060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	領域「人間関係」への理解を深め、保育として計画し、実践する。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「人間関係」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。この科目では他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うことを狙いとしている。乳幼児期における人との関わりの意義と育ちの過程を理解するとともに、保育における実践事例を通して、子どもの発達に応じた人間関係づくり、多世代交流や異年齢交流、地域交流などによる多様な人間関係づくり、保護者同士の関係づくりなど、人間関係の育ちを促す保育の在り方や保育内容について理解を事例などによって深める。こうした理解をICTを効果的に取り入れた模擬保育として、展開する。						
到達目標	他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う保育を構想し、実践することを狙いとしている。そのために、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい、および、内容について、背景となる専門領域と関連付けて、理解を深める（知識・理解）。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で、深い学びが実現される過程を、具体的な指導場面を想定して学ぶ（汎用的技能）。						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち：発達の気がかりな子ども 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活・遊びと人間関係一個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育ー地域交流 第11回 人とのかかわりを育てる保育計画づくり①ねらいと環境構成 第12回 人とのかかわりを育てる保育計画づくり②具体的活動の導入・展開・まとめ 第13回 人とのかかわりを育てる保育の実践①模擬保育（前半グループ） 第14回 人とのかかわりを育てる保育の実践②模擬保育（後半グループ） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%。						
履修上の注意	・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取るということに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容人間関係／保育内容（人間関係）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバ-	K72060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	領域「人間関係」への理解を深め、保育として計画し、実践する。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「人間関係」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。この科目では他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うことを狙いとしている。乳幼児期における人との関わりの意義と育ちの過程を理解するとともに、保育における実践事例を通して、子どもの発達に応じた人間関係づくり、多世代交流や異年齢交流、地域交流などによる多様な人間関係づくり、保護者同士の関係づくりなど、人間関係の育ちを促す保育の在り方や保育内容について理解を事例などによって深める。こうした理解をICTを効果的に取り入れた模擬保育として、展開する。						
到達目標	他の人と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う保育を構想し、実践することを狙いとしている。そのために、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい、および、内容について、背景となる専門領域と関連付けて、理解を深める（知識・理解）。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で、深い学びが実現される過程を、具体的な指導場面を想定して学ぶ（汎用的技能）。						
授業計画	第1回 保育内容「人間関係」の意義と内容 第2回 乳幼児期の人間関係と心の育ち 第3回 幼児期の人間関係と心の育ち：発達の気がかりな子ども 第4回 乳児の人間関係と保育 第5回 1、2歳児の人間関係と保育 第6回 3歳児の人間関係と保育 第7回 4歳児の人間関係と保育 第8回 5、6歳児の人間関係と保育 第9回 生活・遊びと人間関係一個の育ちと集団 第10回 多様な人間関係と保育ー地域交流 第11回 人とのかかわりを育てる保育計画づくり①ねらいと環境構成 第12回 人とのかかわりを育てる保育計画づくり②具体的活動の導入・展開・まとめ 第13回 人とのかかわりを育てる保育の実践①模擬保育（前半グループ） 第14回 人とのかかわりを育てる保育の実践②模擬保育（後半グループ） 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習や、模擬保育実施に向けた準備を行うこと（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容のふり返り、保育実践での展開について考える（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義、グループでの議論、役割分担をふまえた発表、模擬保育を実施する。						
評価基準と評価方法	試験70%、レポート30%。						
履修上の注意	・免許必修科目であることから、出席は当然の前提であり、免許を取るということに自覚的になって授業に臨むこと。課題・発表などは責任をもって行なうこと。 ・欠席者へのプリント配布等のフォローは教員側からはしません。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月）						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（音楽）／保育内容表現Ⅰ（音楽表現）／保育内容（表現Ⅰ）						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K72030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいを踏まえて次の内容を扱う。乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。楽器遊びや、弾き歌い、ICTを活用などによる指導といった具体的・実践的な音楽技能を習得する。幼児が自然の中にある音や形、色の特徴や美しさに気づいたり、環境の中にある美しいもの、優れたものなどに気づく方法を企画し、音や音楽を取り入れた保育シミュレーションを行う。そのことを通して自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示す狙いと内容について説明ができる。【知識・理解】乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例を挙げて説明することができる。【知識・理解】音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容及び音楽的発達について 第2回：わらべうたと遊び歌・・・・・・・・・・（含）手遊びの実習 第3回：乳幼児期の「声」による表現活動と発達、音楽表現活動の実際の姿（視聴覚教材） 第4回：児童期を見通した声と身体表現・・・・・・・・・・（含）弾き歌いの実習 第5回：「ものに関わる」表現活動と発達 第6回：子どもの声と身体（リトミック1） 第7回：身体と音楽（リトミック2） 第8回：身の周りにある様々な音とイメージ・・・・・・・・・・（含）合奏の実習 第9回：リズムアンサンブルの創作と発表（録音の視聴と検討を含む） 第10回：子どもの歌唱教材と伴奏法 第11回：年齢に応じた保育計画の構想 第12回：担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーション（3歳児）及びディスカッション 第13回：担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーション（4歳児）及びディスカッション 第14回：担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーション（5歳児）及びディスカッション 第15回：保育シミュレーションの振り返りと全体のまとめ、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて確認しておくこと。子どもの音楽活動を支援するための弾き歌い等、実践的な技能について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点						
履修上の注意	各回の講義についての予習、また弾き歌いなど実践的スキル習得のための日々の練習は必須である。グループ学習には積極的に参加し、発表の前回までに予行して問題点を明らかにし、改善したものについて発表と検討を行う。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 「乳幼児の音楽表現」小西行郎・志村洋子他 中央法規 ISBN-13: 978-4805854488						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（音楽）／保育内容表現Ⅰ（音楽表現）／保育内容（表現Ⅰ）						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバ-	K72030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者に求められる音楽的な専門性の探求。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいを踏まえて次の内容を扱う。乳幼児の発達に即した総合的な援助・指導が行えるよう、保育計画について学習する。楽器遊びや、弾き歌い、ICTを活用などによる指導といった具体的・実践的な音楽技能を習得する。幼児が自然の中にある音や形、色の特徴や美しさに気づいたり、環境の中にある美しいもの、優れたものなどに気づく方法を企画し、音や音楽を取り入れた保育シミュレーションを行う。そのことを通して自らの技能、表現力の拡充を図る。						
到達目標	領域「表現」が示す狙いと内容について説明ができる。【知識・理解】乳幼児の「音楽的な表現」の特性とその発達について、具体的な例を挙げて説明することができる。【知識・理解】音楽表現に関わる援助方法を企画し、シミュレーションを行う。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容及び音楽的発達について 第2回：わらべうたと遊び歌・・・・・・・・・・（含）手遊びの実習 第3回：乳幼児期の「声」による表現活動と発達、音楽表現活動の実際の姿（視聴覚教材） 第4回：児童期を見通した声と身体表現・・・・・・・・・・（含）弾き歌いの実習 第5回：「ものに関わる」表現活動と発達 第6回：子どもの声と身体（リトミック1） 第7回：身体と音楽（リトミック2） 第8回：身の周りにある様々な音とイメージ・・・・・・・・・・（含）合奏の実習 第9回：リズムアンサンブルの創作と発表（録音の視聴と検討を含む） 第10回：子どもの歌唱教材と伴奏法 第11回：年齢に応じた保育計画の構想 第12回：担当学生第1組による音楽活動の保育シミュレーション（3歳児）及びディスカッション 第13回：担当学生第2組による音楽活動の保育シミュレーション（4歳児）及びディスカッション 第14回：担当学生第3組による音楽活動の保育シミュレーション（5歳児）及びディスカッション 第15回：保育シミュレーションの振り返りと全体のまとめ、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回授業で取り扱う教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて確認しておくこと。子どもの音楽活動を支援するための弾き歌い等、実践的な技能について、各自が十分な練習を行うこと。（学習時間5時間）						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点60点（小テスト、保育シミュレーション、レポートの総合） 期末試験 40点						
履修上の注意	各回の講義についての予習、また弾き歌いなど実践的スキル習得のための日々の練習は必須である。グループ学習には積極的に参加し、発表の前回までに予行して問題点を明らかにし、改善したものについて発表と検討を行う。						
教科書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 「乳幼児の音楽表現」小西行郎・志村洋子他 中央法規 ISBN-13: 978-4805854488						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年2月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（身体）／保育内容表現III（身体表現）／保育内容（表現III）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K72050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児の表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。幼児の表現活動は最も基本的な心の表れである。幼児は感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から、幼児の表現力を高めるための援助の仕方や、ICTを活用した効果的な遊びの指導法、技能の習得を行う。また、幼児の動きを見据えた伴奏法についても学び、音楽と身体表現の関係を体験を通じて理解する。						
到達目標	①幼児の表現しようとする力を理解し、読み取ることできる。 ②学生自らが表現活動を積極的に行うことができる。 ③発達や特性に応じたリズム遊びや手遊び等の模擬保育ができる。 ④幼児の動きに応じた簡易伴奏ができる。						
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容の理解と身体表現の説明 第2回：伝承あそびとわらべ歌、身体遊び ー外国曲を含むー 第3回：表現活動ー身近な生き物から小学校表現リズム遊びへー 第4回：表現活動ー身近な事象から小学校表現リズム遊びへー 第5回：イメージの世界で遊ぶーノンバーバルコミュニケーションー 第6回：律動運動 第7回：身近な子どもの歌から律動運動へー伴奏法ー 第8回：リズム表現遊び 第9回：年齢に応じた手遊びの指導法（視聴覚教材を用いて） 第10回：手遊び・身体遊びの模擬保育（3歳児）とふり返り 第11回：手遊び・身体遊びの模擬保育（4歳児）とふり返り 第12回：手遊び・身体遊びの模擬保育（5歳児）とふり返り 第13回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作 第14回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作発表（ビデオ収録視聴） 第15回：模擬保育等から保育構想を考える						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：さまざまな場面における幼児の表現活動の意味を読み取れるよう学習しておく。 幼児のうたや手遊びを収集する（学習時間2時間） 授業後学習：さまざまな発表の反省を踏まえ、実習に向けて整理しておく（学習時間2時間）						
授業方法	演習では多くがグループワークになる。自分の意見を伝えると共に他者を受け入れることを通じてコミュニケーションを図る機会とする。幼児の発達を理解し、グループ発表や模擬保育の実践を行う。						
評価基準と評価方法	レポート等の平常点30%、模擬保育指導30%、伴奏法と課題20%、リズムダンス・体操の創作と発表10%、ふり返りレポート10%						
履修上の注意	①保育者にふさわしい服装（体操服・靴）や身なり（髪を束ねる・装飾品を外す）で受講すること。 ②保育者をイメージし、積極的な態度で受講すること。 ③12回以上出席すること。						
教科書	「手遊び・リズム遊び表現 実践ノート」授業時に説明する						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						



科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（身体）／保育内容表現III（身体表現）／保育内容（表現III）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K72050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児の表現力を読み取り、自らの表現能力を身につける。						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針にある保育内容「表現」のねらいと内容を踏まえて次の内容を扱う。幼児の表現活動は最も基本的な心の表れである。幼児は感じたことや考えたことを素直に身体で表現しようとする。これらを理解するには、学生自身が表現する楽しさや豊かな感性をもつことが重要である。幼児の表現の萌芽を見落とさないためにも、総合的な視点から、幼児の表現力を高めるための援助の仕方や、ICTを活用した効果的な遊びの指導法、技能の習得を行う。また、幼児の動きを見据えた伴奏法についても学び、音楽と身体表現の関係を体験を通じて理解する。						
到達目標	①幼児の表現しようとする力を理解し、読み取ることができる。 ②学生自らが表現活動を積極的に行うことができる。 ③発達や特性に応じたリズム遊びや手遊び等の模擬保育ができる。 ④幼児の動きに応じた簡易伴奏ができる。						
授業計画	第1回：領域「表現」のねらいと内容の理解と身体表現の説明 第2回：伝承あそびとわらべ歌、身体遊び ー外国曲を含むー 第3回：表現活動ー身近な生き物から小学校表現リズム遊びへー 第4回：表現活動ー身近な事象から小学校表現リズム遊びへー 第5回：イメージの世界で遊ぶーノンバーバルコミュニケーションー 第6回：律動運動 第7回：身近な子どもの歌から律動運動へー伴奏法ー 第8回：リズム表現遊び 第9回：年齢に応じた手遊びの指導法（視聴覚教材を用いて） 第10回：手遊び・身体遊びの模擬保育（3歳児）とふり返り 第11回：手遊び・身体遊びの模擬保育（4歳児）とふり返り 第12回：手遊び・身体遊びの模擬保育（5歳児）とふり返り 第13回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作 第14回：幼児のリズム体操・リズムダンスの創作発表（ビデオ収録視聴） 第15回：模擬保育等から保育構想を考える						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：さまざまな場面における幼児の表現活動の意味を読み取れるよう学習しておく。 幼児のうたや手遊びを収集する（学習時間2時間） 授業後学習：さまざまな発表の反省を踏まえ、実習に向けて整理しておく（学習時間2時間）						
授業方法	演習では多くがグループワークになる。自分の意見を伝えると共に他者を受け入れることを通じてコミュニケーションを図る機会とする。幼児の発達を理解し、グループ発表や模擬保育の実践を行う。						
評価基準と評価方法	レポート等の平常点30%、模擬保育指導30%、伴奏法と課題20%、リズムダンス・体操の創作と発表10%、ふり返りレポート10%						
履修上の注意	①保育者にふさわしい服装（体操服・靴）や身なり（髪を束ねる・装飾品を外す）で受講すること。 ②保育者をイメージし、積極的な態度で受講すること。 ③12回以上出席すること。						
教科書	「手遊び・リズム遊び表現 実践ノート」授業時に説明する						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年2月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説（平成30年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（造形）／保育内容表現II（造形表現）／保育内容（表現II）						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K72040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	この授業では豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目標に、乳幼児の造形表現を指導・援助するための理論と実践方法について学ぶ。造形教育の理念、乳幼児の発達と表現の関係、多様な造形教育の方法を学ぶとともに、造形表現の保育・教育の構想に必要な素材・用具、表現技能を実技や保育・教育現場の実践資料を通じて探求する。幼児が主体的、対話的で深い学びが造形活動の過程で得られるような、環境構成や一人一人にあった援助の方法、ICTを効果的に取り入れた保育について、模擬保育などの実践を通じて学ぶ。						
到達目標	1. 乳幼児の造形表現における学びと特徴について説明できる。（知識・理解） 2. 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。（知識・理解） 3. 造形素材、用具、表現技法を選択して保育を構想し、指導案を作成することができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回：「領域表現」の理解と幼児造形表現の理念 第2回：乳幼児の造形表現の実際から表現の特質を探る 第3回：乳幼児の造形表現の発達 第4回：日々の保育と造形表現（1）多様な描画材を経験する 第5回：日々の保育と造形表現（2）身近な環境と表現の芽 第6回：日々の保育と造形表現（3）身近な素材で表現する 第7回：造形保育の構想（1）活動を様々な領域からみる・環境構成・評価 第8回：造形保育の構想（2）指導案作成 第9回：「もの」とかかわる（1）感触教材・粘土と子ども 第10回：「もの」とかかわる（2）行為や操作の遊び 第11回：保育の試行（1）前半グループ 第12回：保育の試行（2）後半グループ 第13回：保育の試行と相互評価 第14回：レジヨエミリアの教育 第15回子どももの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの内容に沿って、事前に教科書及び参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連が分かるようにファイルしておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	演習：各テーマごとに、個人で検討する場合とグループワークによる検討や表現を通じて意見交換、実技を交えた実践的な保育の構想についてのプレゼンテーションなどを織り込む。						
評価基準と評価方法	指導案・課題レポート40%。課題に関する作品及びプリント作成40%、プレゼンテーションへの積極的態等20%で評価する。						
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領は必要な回があるので準備しておくこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-11616-2 C3337						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 奥美佐子著『0, 1, 2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 奥美佐子著『3, 4, 5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（造形）／保育内容表現II（造形表現）／保育内容（表現II）						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバ-	K72040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	この授業では豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目標に、乳幼児の造形表現を指導・援助するための理論と実践方法について学ぶ。造形教育の理念、乳幼児の発達と表現の関係、多様な造形教育の方法を学ぶとともに、造形表現の保育・教育の構想に必要な素材・用具、表現技能を実技や保育・教育現場の実践資料を通じて探求する。幼児が主体的、対話的で深い学びが造形活動の過程で得られるような、環境構成や一人一人にあった援助の方法、ICTを効果的に取り入れた保育について、模擬保育などの実践を通じて学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の造形表現における学びと特徴について説明できる。（知識・理解）</li> <li>2. 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。（知識・理解）</li> <li>3. 造形素材、用具、表現技法を選択して保育を構想し、指導案を作成することができる。（汎用的技能）</li> </ol>						
授業計画	第1回：「領域表現」の理解と幼児造形表現の理念 第2回：乳幼児の造形表現の実際から表現の特質を探る 第3回：乳幼児の造形表現の発達 第4回：日々の保育と造形表現（1）多様な描画材を経験する 第5回：日々の保育と造形表現（2）身近な環境と表現の芽 第6回：日々の保育と造形表現（3）身近な素材で表現する 第7回：造形保育の構想（1）活動を様々な領域からみる・環境構成・評価 第8回：造形保育の構想（2）指導案作成 第9回：「もの」とかかわる（1）感触教材・粘土と子ども 第10回：「もの」とかかわる（2）行為や操作の遊び 第11回：保育の試行（1）前半グループ 第12回：保育の試行（2）後半グループ 第13回：保育の試行と相互評価 第14回：レジヨエミリアの教育 第15回子どももの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの内容に沿って、事前に教科書及び参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連が分かるようにファイルしておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	演習：各テーマごとに、個人で検討する場合とグループワークによる検討や表現を通じて意見交換、実技を交えた実践的な保育の構想についてのプレゼンテーションなどを織り込む。						
評価基準と評価方法	指導案・課題レポート40%。課題に関する作品及びプリント作成40%、プレゼンテーションへの積極的態等20%で評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。</li> <li>・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備を怠らないこと。</li> <li>・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領は必要な回があるので準備しておくこと。</li> <li>・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数2/3以上出席していることが評価対象の条件。</li> </ul>						
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-11616-2 C3337						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 奥美佐子著『0, 1, 2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 奥美佐子著『3, 4, 5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育の心理学／子ども心理I（発達心理）						
担当教員	寺見 陽子					科目ナンバ-	K71140
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達理論と乳幼児の発達と保育						
授業の概要	人間性の育ちの観点から、乳幼児期の子どもの発達について、ワロン、エリクソン、ピアジェの理論を基に学ぶ。人の心はなぜ、どのように芽生え、心の内面を形成していくのか、その過程を理解するとともに、保育や育児の現場における乳幼児の理解のあり方、発達援助のあり方、環境のあり方などについて考える。						
到達目標	①発達の基本と乳幼児の発達過程を理解することができる。 ②乳幼児期の子ども心の育ちについて理解することができる。 ③乳幼児を理解し、援助するための発達の視点を学ぶとともに、大人の役割を理解することができる。。						
授業計画	第1回 発達と環境 第2回 ヒトの誕生と生物的基盤の発達 第3回 人間性の発達とその基盤-初期経験の重要性 第4回 新生児期・乳児期の発達-初期コミュニケーションと心の芽生え 第5回 身体と自我と社会-愛着形成と基本的信頼感の形成 第6回 幼児前期の発達-自我の芽生えと自立 第7回 象徴と言葉と思考の芽生え 第8回 幼児中期の発達-内面世界と自分らしさの形成 第9回 遊びと社会性の発達 第10回 幼児後期の発達①-自分を見つめる自分の誕生 第11回 幼児後期の発達②-みんなの中の自分の形成 第12回 心の理論と道徳性の芽生え 第13回 子どもの発達と障害 第14回 親性の発達 第15回 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達理論を実際の子ども発達の姿に結び付けて理解できるようにするために、実際の子どもとかかわり、ふれあう経験を日常生活の中で持つよう心がけてほしい。また、また、幼稚園・保育所等での子どもの姿に触れる経験を大切にしてほしい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	2/3以上の出席 小レポート20点 テスト80点						
履修上の注意	積極的な学習態度で望んでほしい。						
教科書	プリント配布						
参考書	必要に応じて示す。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K73270
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児の発達理解と運動指導						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針をもとに、乳幼児期の発育・発達の段階に関する理解を前提としつつ、乳幼児の身心の発達に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達がどのような課題を抱え、どのような運動を必要としているのかを考え、それを指導として展開する力を身につける。さらに保育者として子ども達が動きたくするような環境構成を考える力を身につける						
到達目標	①幼児期の心の発達と運動発達を理解している【知識・理解】 ②年齢に応じた指導計画を立案できる【態度・志向性】 ③年齢に応じた運動指導法を身につけている【汎用的技術】						
授業計画	第1回：幼児期の発育・発達の理解 第2回：幼児期の心の発達と体の発達の理解 第3回：大人の体力と子どもの体力の相違 第4回：新体力テストの実施と測定法 第5回：指導計画の立て方—ねらいと内容の考え方— 第6回：指導計画の立て方—環境設定、保育者の配慮と援助— 第7回：指導計画の立案・作成 第8回：フープ・ボールを用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第9回：なわ・平均台を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第10回：マット・跳び箱を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第11回：鬼遊びの展開と援助（模擬保育） 第12回：身近な素材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第13回：廃材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第14回：模擬保育における他者評価と自己評価 第15回：自己評価とふり返りレポート、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：子どもの発達をしっかりと学習し、模擬保育で実施する内容を事前に資料等で調べ、指導計画書を作成する。（学習時間2時間） 授業後学習：各発表者ごとに内容についてシートに記入し自分ノートを作成する（学習時間1時間）						
授業方法	演習：発達段階を踏まえ、遊びの内容を設定しペアで指導計画を立案する。模擬保育後は振り返りシートに自己評価を示すとともに他者評価もおこなう。						
評価基準と評価方法	指導計画作成30%。到達目標 (1) (2) 模擬保育の実践 40%。到達目標 (1) (3) 自己、他者の振り返りレポート30%。到達目標 (1) (2) (3)						
履修上の注意	(1) 幼・保の必修科目であることを理解し、保育像をイメージしながら授業に取り組むこと。 (2) 演習科目であるため、3分の2以上の出席であること。						
教科書	倉真智子他「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN978-4-86015-379-3C3037 平成28年4月						
参考書	必要に応じた参考書を紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバ-	K73270
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児の発達理解と運動指導						
授業の概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針をもとに、乳幼児期の発育・発達の段階に関する理解を前提としつつ、乳幼児の身心の発達に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達がどのような課題を抱え、どのような運動を必要としているのかを考え、それを指導として展開する力を身につける。さらに保育者として子ども達が動きたくするような環境構成を考える力を身につける						
到達目標	①幼児期の心の発達と運動発達を理解している【知識・理解】 ②年齢に応じた指導計画を立案できる【態度・志向性】 ③年齢に応じた運動指導法を身につけている【汎用的技術】						
授業計画	第1回：幼児期の発育・発達の理解 第2回：幼児期の心の発達と体の発達の理解 第3回：大人の体力と子どもの体力の相違 第4回：新体力テストの実施と測定法 第5回：指導計画の立て方—ねらいと内容の考え方— 第6回：指導計画の立て方—環境設定、保育者の配慮と援助— 第7回：指導計画の立案・作成 第8回：フープ・ボールを用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第9回：なわ・平均台を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第10回：マット・跳び箱を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第11回：鬼遊びの展開と援助（模擬保育） 第12回：身近な素材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第13回：廃材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第14回：模擬保育における他者評価と自己評価 第15回：自己評価とふり返りレポート、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：子どもの発達をしっかりと学習し、模擬保育で実施する内容を事前に資料等で調べ、指導計画書を作成する。（学習時間2時間） 授業後学習：各発表者ごとに内容についてシートに記入し自分ノートを作成する（学習時間1時間）						
授業方法	演習：発達段階を踏まえ、遊びの内容を設定しペアで指導計画を立案する。模擬保育後は振り返りシートに自己評価を示すとともに他者評価もおこなう。						
評価基準と評価方法	指導計画作成30%。到達目標 (1) (2) 模擬保育の実践 40%。到達目標 (1) (3) 自己、他者の振り返りレポート30%。到達目標 (1) (2) (3)						
履修上の注意	(1) 幼・保の必修科目であることを理解し、保育像をイメージしながら授業に取り組むこと。 (2) 演習科目であるため、3分の2以上の出席であること。						
教科書	倉真智子他「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN978-4-86015-379-3C3037 平成28年4月						
参考書	必要に応じた参考書を紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	幼児理解																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K74100																																													
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	幼児理解から始まる保育																																																			
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。 そのための方策として、記録された事例や動画を考察したり、意見交換したりすることにより、他者の考えに触れ、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。																																																			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。【知識・理解】</li> <li>・具体的な事例について自分の考えをもち、言語化して他者に伝える力を付ける。【汎用的技能】</li> </ul>																																																			
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">第1回</td> <td style="width: 65%;">オリエンテーション</td> <td style="width: 30%;">: 授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼児を理解するために</td> <td>: 絵本から学ぶ子どもの姿</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>幼児理解の基盤になるもの</td> <td>: 幼児期にふさわしい生活</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>幼児理解と発達の理解</td> <td>: 幼児期の発達の捉え方</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>幼児理解と保育者の援助</td> <td>: DVD動画を活用して</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>幼児の行動や行為の意味</td> <td>: 記録事例を活用して</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>幼児理解の方法</td> <td>: 観察・記録の仕方</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育者の姿勢(1)</td> <td>: 様々な関わり方と意図</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育者の姿勢(2)</td> <td>: 保護者対応、家庭との連携</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>友達とのかかわりを通した幼児の育ち</td> <td>: DVD動画を活用して</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>個と集団の関係を捉える(1)</td> <td>: 幼児期の集団形成の過程</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>個と集団の関係を捉える(2)</td> <td>: 特別な支援を必要とする幼児</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助</td> <td>: DVD動画を活用して 記録の取り方と考察</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>幼児理解を深める研修</td> <td>: 園内研修について 筆記試験</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価(レポート提出)</td> <td>: 質疑応答</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解	第2回	幼児を理解するために	: 絵本から学ぶ子どもの姿	第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活	第4回	幼児理解と発達の理解	: 幼児期の発達の捉え方	第5回	幼児理解と保育者の援助	: DVD動画を活用して	第6回	幼児の行動や行為の意味	: 記録事例を活用して	第7回	幼児理解の方法	: 観察・記録の仕方	第8回	保育者の姿勢(1)	: 様々な関わり方と意図	第9回	保育者の姿勢(2)	: 保護者対応、家庭との連携	第10回	友達とのかかわりを通した幼児の育ち	: DVD動画を活用して	第11回	個と集団の関係を捉える(1)	: 幼児期の集団形成の過程	第12回	個と集団の関係を捉える(2)	: 特別な支援を必要とする幼児	第13回	一人一人の幼児に応じた援助	: DVD動画を活用して 記録の取り方と考察	第14回	幼児理解を深める研修	: 園内研修について 筆記試験	第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	: 質疑応答
第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解																																																		
第2回	幼児を理解するために	: 絵本から学ぶ子どもの姿																																																		
第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活																																																		
第4回	幼児理解と発達の理解	: 幼児期の発達の捉え方																																																		
第5回	幼児理解と保育者の援助	: DVD動画を活用して																																																		
第6回	幼児の行動や行為の意味	: 記録事例を活用して																																																		
第7回	幼児理解の方法	: 観察・記録の仕方																																																		
第8回	保育者の姿勢(1)	: 様々な関わり方と意図																																																		
第9回	保育者の姿勢(2)	: 保護者対応、家庭との連携																																																		
第10回	友達とのかかわりを通した幼児の育ち	: DVD動画を活用して																																																		
第11回	個と集団の関係を捉える(1)	: 幼児期の集団形成の過程																																																		
第12回	個と集団の関係を捉える(2)	: 特別な支援を必要とする幼児																																																		
第13回	一人一人の幼児に応じた援助	: DVD動画を活用して 記録の取り方と考察																																																		
第14回	幼児理解を深める研修	: 園内研修について 筆記試験																																																		
第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	: 質疑応答																																																		
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。(週2時間程度) 授業後学習: 配布プリント等によって学習内容を整理し、次回に備える(週2時間程度)																																																			
授業方法	講義 事例を読んだりDVDを視聴した後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるよう配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。																																																			
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。																																																			
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。																																																			
教科書	幼稚園教育指導資料「幼児理解に基づいた評価」文部科学省 チャイルド本社 平成31.3																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年																																																			

科目区分	子ども発達学科専門教育科目																																																			
科目名	幼児理解																																																			
担当教員	井上 知子					科目ナンバ-	K74100																																													
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	幼児理解から始まる保育																																																			
授業の概要	<p>第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。          第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。          第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。          そのための方策として、記録された事例や動画を考察したり、意見交換したりすることにより、他者の考えに触れ、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。</p>																																																			
到達目標	<p>・一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。【知識・理解】</p> <p>・具体的な事例について自分の考えをもち、言語化して他者に伝える力を付ける。【汎用的技能】</p>																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>: 授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>幼児を理解するために</td> <td>: 絵本から学ぶ子どもの姿</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>幼児理解の基盤になるもの</td> <td>: 幼児期にふさわしい生活</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>幼児理解と発達の理解</td> <td>: 幼児期の発達の捉え方</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>幼児理解と保育者の援助</td> <td>: DVD動画を活用して</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>幼児の行動や行為の意味</td> <td>: 記録事例を活用して</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>幼児理解の方法</td> <td>: 観察・記録の仕方</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保育者の姿勢(1)</td> <td>: 様々な関わり方と意図</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>保育者の姿勢(2)</td> <td>: 保護者対応、家庭との連携</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>友達とのかかわりを通した幼児の育ち</td> <td>: DVD動画を活用して</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>個と集団の関係を捉える(1)</td> <td>: 幼児期の集団形成の過程</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>個と集団の関係を捉える(2)</td> <td>: 特別な支援を必要とする幼児</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>一人一人の幼児に応じた援助</td> <td>: DVD動画を活用して 記録の取り方と考察</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>幼児理解を深める研修</td> <td>: 園内研修について 筆記試験</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと授業評価(レポート提出)</td> <td>: 質疑応答</td> </tr> </table>							第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解	第2回	幼児を理解するために	: 絵本から学ぶ子どもの姿	第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活	第4回	幼児理解と発達の理解	: 幼児期の発達の捉え方	第5回	幼児理解と保育者の援助	: DVD動画を活用して	第6回	幼児の行動や行為の意味	: 記録事例を活用して	第7回	幼児理解の方法	: 観察・記録の仕方	第8回	保育者の姿勢(1)	: 様々な関わり方と意図	第9回	保育者の姿勢(2)	: 保護者対応、家庭との連携	第10回	友達とのかかわりを通した幼児の育ち	: DVD動画を活用して	第11回	個と集団の関係を捉える(1)	: 幼児期の集団形成の過程	第12回	個と集団の関係を捉える(2)	: 特別な支援を必要とする幼児	第13回	一人一人の幼児に応じた援助	: DVD動画を活用して 記録の取り方と考察	第14回	幼児理解を深める研修	: 園内研修について 筆記試験	第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	: 質疑応答
第1回	オリエンテーション	: 授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解																																																		
第2回	幼児を理解するために	: 絵本から学ぶ子どもの姿																																																		
第3回	幼児理解の基盤になるもの	: 幼児期にふさわしい生活																																																		
第4回	幼児理解と発達の理解	: 幼児期の発達の捉え方																																																		
第5回	幼児理解と保育者の援助	: DVD動画を活用して																																																		
第6回	幼児の行動や行為の意味	: 記録事例を活用して																																																		
第7回	幼児理解の方法	: 観察・記録の仕方																																																		
第8回	保育者の姿勢(1)	: 様々な関わり方と意図																																																		
第9回	保育者の姿勢(2)	: 保護者対応、家庭との連携																																																		
第10回	友達とのかかわりを通した幼児の育ち	: DVD動画を活用して																																																		
第11回	個と集団の関係を捉える(1)	: 幼児期の集団形成の過程																																																		
第12回	個と集団の関係を捉える(2)	: 特別な支援を必要とする幼児																																																		
第13回	一人一人の幼児に応じた援助	: DVD動画を活用して 記録の取り方と考察																																																		
第14回	幼児理解を深める研修	: 園内研修について 筆記試験																																																		
第15回	まとめと授業評価(レポート提出)	: 質疑応答																																																		
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習: 授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。(週2時間程度)          授業後学習: 配布プリント等によって学習内容を整理し、次回に備える(週2時間程度)</p>																																																			
授業方法	<p>講義          事例を読んだりDVDを視聴した後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるよう配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。</p>																																																			
評価基準と評価方法	<p>筆記試験による評価 50%          授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。</p>																																																			
履修上の注意	<p>意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。          単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。</p>																																																			
教科書	幼稚園教育指導資料「幼児理解に基づいた評価」文部科学省 チャイルド本社 平成31.3																																																			
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年																																																			